

自動車運送事業に係る交通事故対策検討会報告書(平成30年度)

[第1分冊]

事業用自動車の交通事故統計(平成 29 年版)

平成31年1月

国土交通省自動車局

自動車運送事業に係る交通事故対策検討会



## < 目 次 >

1. 事故全体の傾向	1
1-1. 交通事故全体の推移	1
1-2. 自動車事故件数の推移	4
1-3. 自動車事故死者数の推移	8
1-4. 自動車死亡事故件数の推移	12
1-5. 飲酒運転による事業用自動車の交通事故の推移	16
1-6. 業態別運転者年齢層別の交通事故	18
1-7. 業態別危険認知速度別の交通事故	20
1-8. 業態別時間帯別の交通事故	22
1-9. 事故に関わる営業所の位置（都道府県）別の交通事故	24
2. バスの事故	26
2-1. 乗合バスの事故	28
2-2. 貸切バスの事故	44
3. タクシーの事故	56
4. トラックの事故	68
5. まとめ	88

附録. 事業用自動車の交通事故統計（平成29年版）

## 【凡 例】

1. 「交通事故」とは、道路交通法第2条第1項第1号に規定する道路において、車両等及び列車の事故によって起こされた事故で、人の死亡又は負傷を伴うもの（人身事故）をいう。物損事故については計上していない。
2. 「自動車事故」とは、交通事故のうち、自動車及び軽自動車の交通によって起された事故をいう。
3. 「自動車事故」は、「事業用自動車」の事故と、「自家用自動車」の事故に分けられる。うち、「自家用自動車」とは、乗用車（バス、マイクロ、普通乗用車、軽乗用車）及び、貨物車（大型貨物、中型貨物、準中型貨物、普通貨物、軽貨物、トレーラー）を合わせたものをいう。
4. 「死亡」（「死者」）とは、交通事故によって、発生から24時間以内に亡くなった場合（人）をいう。
5. 「重傷」（「重傷者」）とは、交通事故によって負傷し、1ヶ月（30日）以上の治療を要する場合（人）をいう。
6. 「軽傷」（「軽傷者」）とは、交通事故によって負傷し、1ヶ月（30日）未満の治療を要する場合（人）をいう。
7. 「負傷」（「負傷者」）とは、「重傷」（「重傷者」）と「軽傷」（「軽傷者」）の合計をいう。
8. 「貨物自動車」の分類は道路交通法に基づくものとする。  
大型　：車両総重量11トン以上、または最大積載量6.5トン以上  
中型　：車両総重量7.5トン以上11トン未満、または最大積載量4.5トン以上6.5トン未満  
準中型：車両総重量3.5トン以上7.5トン未満、または最大積載量2トン以上4.5トン未満  
普通　：車両総重量3.5トン未満、または最大積載量2トン未満  
軽　　：貨物自動車のうち、軽自動車であるもの

## 1. 事故全体の傾向

### 1-1. 交通事故全体の推移

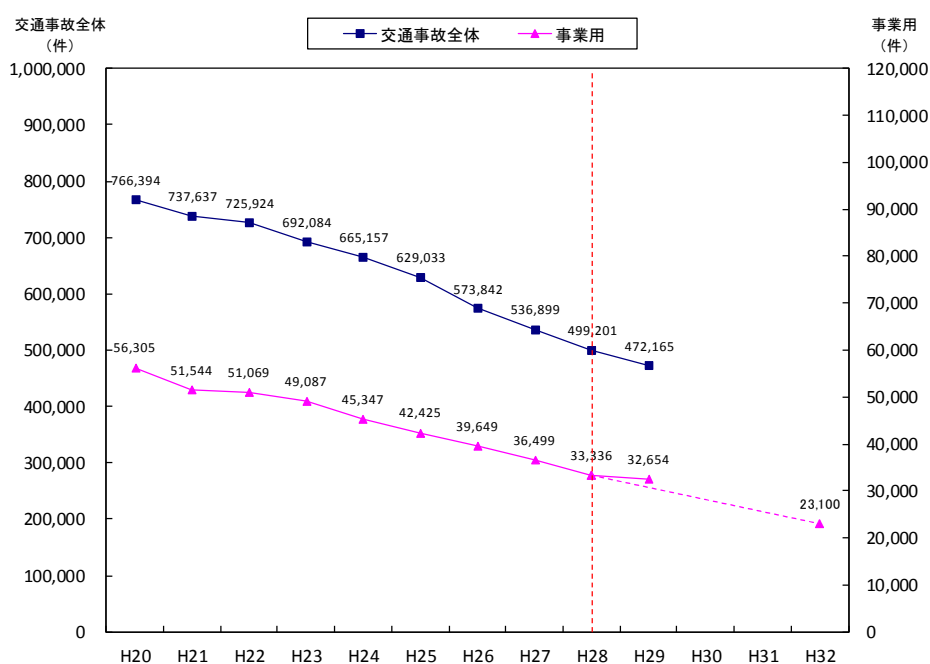
自動車に加え、二輪車や自転車等を含む「交通事故全体」と、「事業用自動車」の交通事故の推移を、「交通事故件数」、「交通事故死者数」、「交通死亡事故件数」の3つで比較した。

#### (1) 交通事故件数の推移

平成29年中に全国で発生した交通事故全体の件数は472,165件であり、そのうち、事業用自動車は32,654件となった。

なお、事業用自動車については、「事業用自動車総合安全プラン2020（平成29年6月）」において、平成32年までに人身事故件数を23,100件以下とする削減目標が示されている。

〔図1〕 交通事故件数の推移



出典：警察庁「交通統計」

(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表1〕 交通事故件数の推移 (件)

区分 年	交通事故件数	
	交通事故全体	事業用
H20	766,394	56,305
H21	737,637	51,544
H22	725,924	51,069
H23	692,084	49,087
H24	665,157	45,347
H25	629,033	42,425
H26	573,842	39,649
H27	536,899	36,499
H28	499,201	33,336
H29	472,165	32,654

出典：警察庁「交通統計」

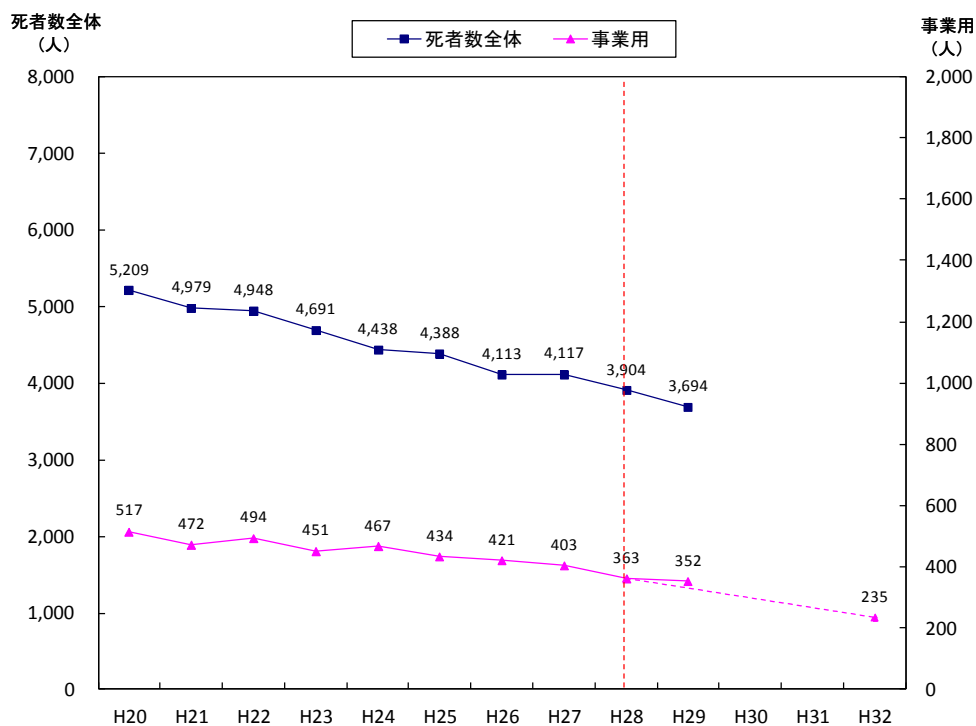
(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

## （２） 交通事故死者数の推移

平成29年中に全国で発生した交通事故全体における死者数は3,694人であり、そのうち、事業用自動車での交通事故死者数は 352人となっている。

なお、事業用自動車については、「事業用自動車総合安全プラン2020」において、平成32年までに事業用自動車での死者数を235人以下とする削減目標が示されている。

〔図 2〕 交通事故死者数の推移



出典：警察庁「交通統計」

(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 2〕 交通事故死者数の推移 (人)

年 \ 区分	死者数	
	死者数全体	事業用
H20	5,209	517
H21	4,979	472
H22	4,948	494
H23	4,691	451
H24	4,438	467
H25	4,388	434
H26	4,113	421
H27	4,117	403
H28	3,904	363
H29	3,694	352

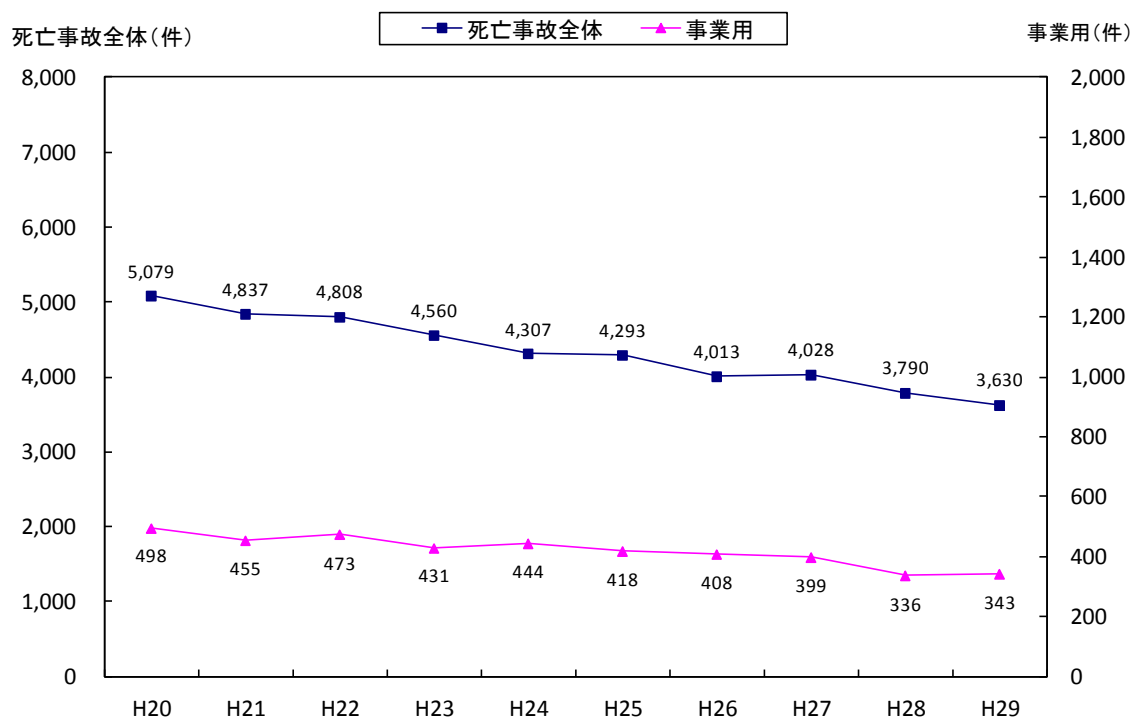
出典：警察庁「交通統計」

(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

### (3) 交通死亡事故件数の推移

平成29年中に全国で発生した交通死亡事故全体の件数は3,630件であり、前年と比べて100件以上減少している。そのうち、事業用自動車は343件となっており微増している。

〔図3〕 交通死亡事故件数の推移



出典：警察庁「交通統計」

(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表3〕 交通死亡事故件数の推移 (件)

年	区分	死亡事故件数	
		死亡事故全体	事業用
H20		5,079	498
H21		4,837	455
H22		4,808	473
H23		4,560	431
H24		4,307	444
H25		4,293	418
H26		4,013	408
H27		4,028	399
H28		3,790	336
H29		3,630	343

出典：警察庁「交通統計」

(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

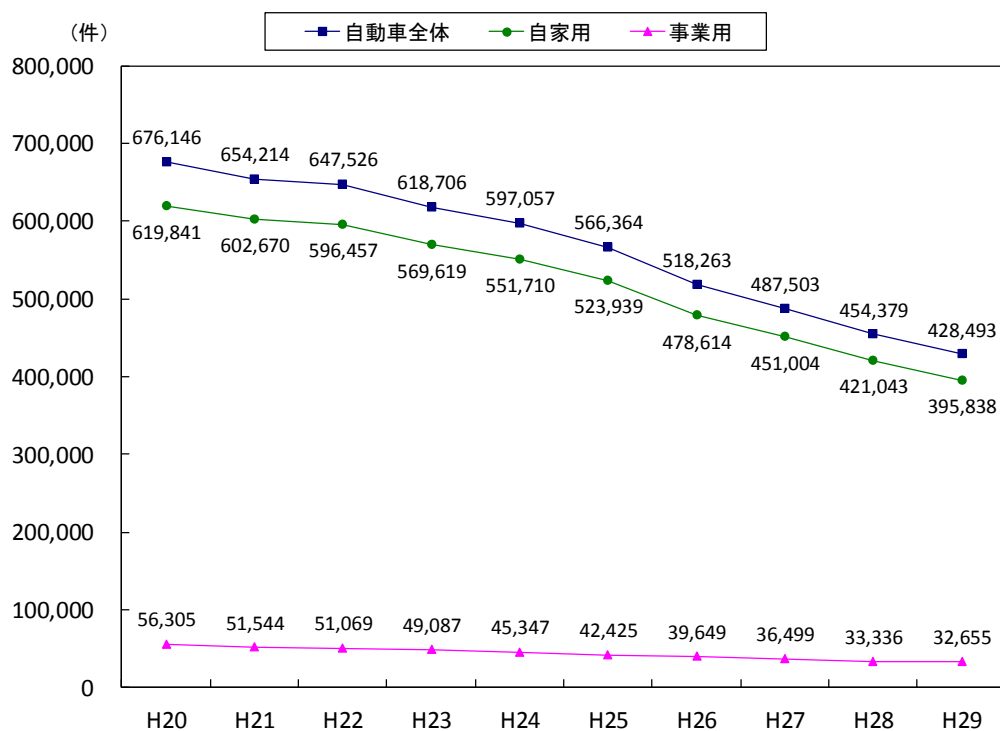
## 1-2. 自動車事故件数の推移

「事業用自動車」「自家用自動車（自家用のバス、乗用車及びトラックをいう。以下同じ）」及び「自動車全体（事業用自動車と自家用自動車を合わせたものをいう。以下同じ）」について、「交通事故件数」「交通事故死亡者数」「交通死亡事故件数」の3つを比較した。

### （1）自動車事故件数の推移

平成29年中に全国で発生した自動車全体の交通事故件数は428,493件であり、そのうち、自家用自動車は395,838件、事業用自動車は32,655件となっている。

〔図4〕 自動車事故件数の推移



出典：警察庁「交通統計」

（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表4〕 自動車事故件数の推移（件）

年	自動車全体	自家用	事業用
H20	676,146	619,841	56,305
H21	654,214	602,670	51,544
H22	647,526	596,457	51,069
H23	618,706	569,619	49,087
H24	597,057	551,710	45,347
H25	566,364	523,939	42,425
H26	518,263	478,614	39,649
H27	487,503	451,004	36,499
H28	454,379	421,043	33,336
H29	428,493	395,838	32,655

出典：警察庁「交通統計」

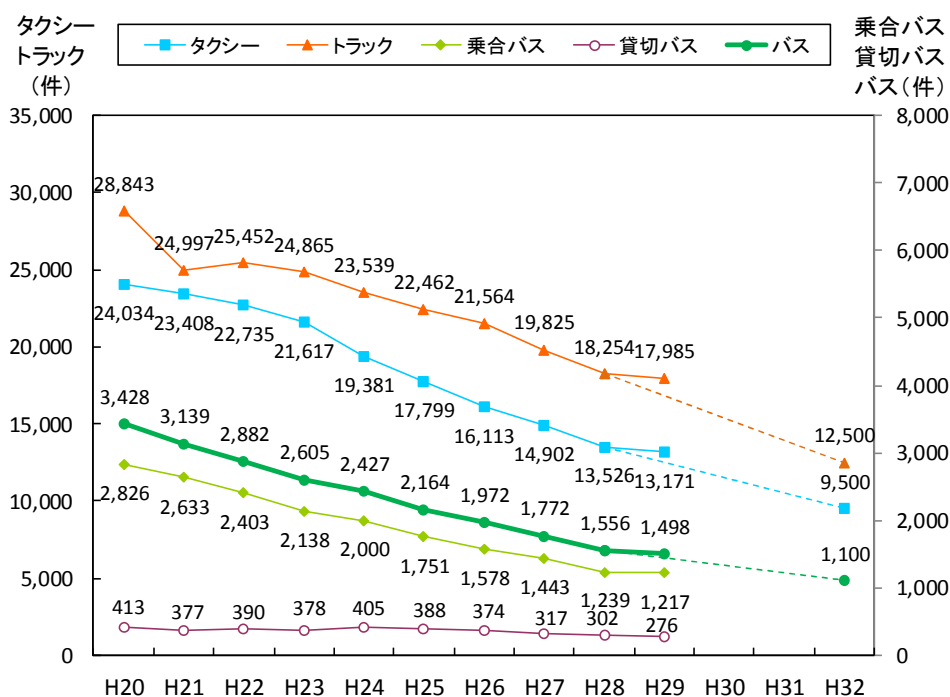
（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」



## (2) 事業用自動車の業態別交通事故件数の推移

事業用自動車の交通事故件数を業態別にみると、平成29年は全業態ともに減少し、貸切バスが約9%減少している。

〔図5〕 事業用自動車の業態別交通事故件数の推移



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表5〕 事業用自動車の業態別交通事故件数の推移（件）

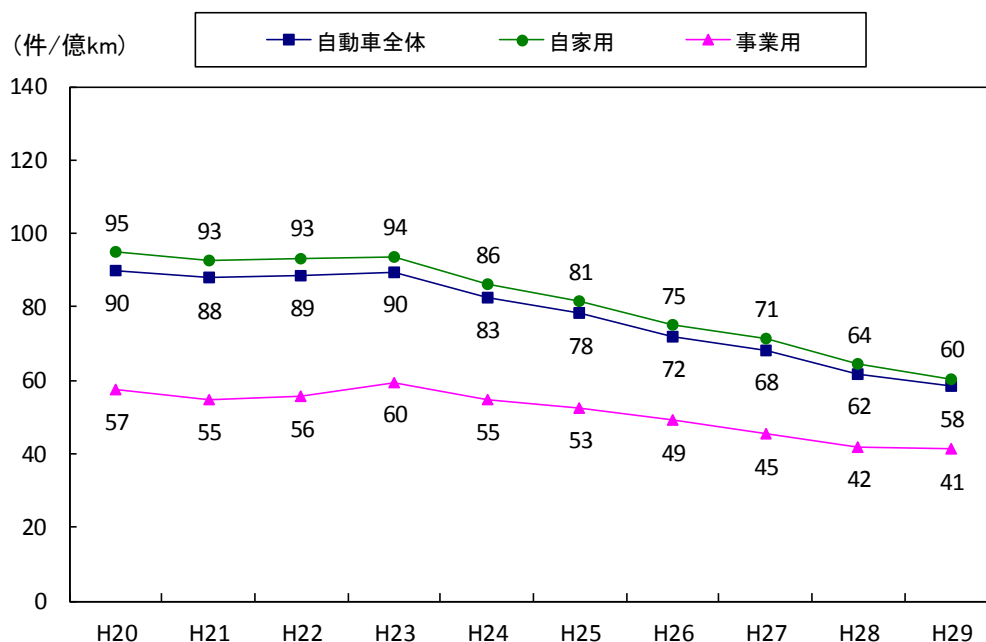
区分 年	バス				タクシー	トラック
	バス	乗合バス	貸切バス	その他		
H20	3,428	2,826	413	189	24,034	28,843
H21	3,139	2,633	377	129	23,408	24,997
H22	2,882	2,403	390	89	22,735	25,452
H23	2,605	2,138	378	89	21,617	24,865
H24	2,427	2,000	405	22	19,381	23,539
H25	2,164	1,751	388	25	17,799	22,462
H26	1,972	1,578	374	20	16,113	21,564
H27	1,772	1,443	317	12	14,902	19,825
H28	1,556	1,239	302	15	13,526	18,254
H29	1,498	1,217	276	5	13,171	17,985

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

### (3) 走行距離1億キロあたり自動車事故件数の推移

自動車全体、自家用、事業用いずれも全体的に減少傾向にある。事業用自動車は平成26年に50件／億kmを割り込み、平成29年もさらに減少している。

〔図6〕 走行距離1億キロあたり自動車事故件数の推移



出典：警察庁「交通統計」

（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

国土交通省「自動車輸送統計調査」「自動車燃料消費量調査」

〔表6〕 走行距離と自動車事故件数の推移

区分 年	事故件数(件)			走行距離(億km)		
	自動車全体	自家用	事業用	自動車全体	自家用	事業用
H20	676,146	619,841	56,305	7519.2	6536.8	982.4
H21	654,214	602,670	51,544	7452.1	6508.9	943.2
H22	647,526	596,457	51,069	7312.0	6394.3	917.7
H23	618,706	569,619	49,087	6909.5	6085.6	823.9
H24	597,057	551,710	45,347	7234.0	6405.5	828.5
H25	566,364	523,939	42,425	7249.1	6441.5	807.6
H26	518,263	478,614	39,649	7200.8	6392.3	808.5
H27	487,503	451,004	36,499	7137.1	6332.5	804.7
H28	454,379	421,043	33,336	7345.8	6548.7	797.1
H29	428,492	395,838	32,654	7354.2	6560.7	793.5

注：走行距離（営業用バスを除く。）の調査については、平成22年より、「自動車輸送統計調査」から、「自動車燃料消費量調査」に移管し、調査方法及び集計方法が変更となっている。このため、平成21年以前の数値とは、時系列上の連続性が担保されない。

（走行距離に関する統計については、以下同様）

出典：警察庁「交通統計」

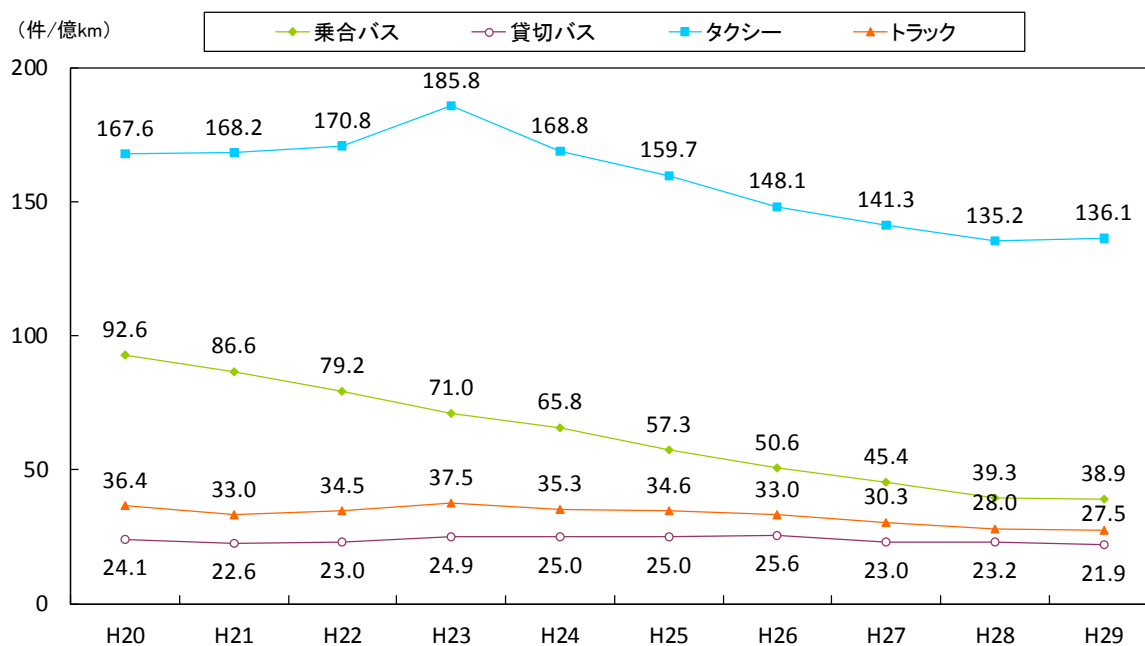
（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

国土交通省「自動車輸送統計調査」「自動車燃料消費量調査」

#### (4) 走行距離1億キロあたり事業用自動車の業態別交通事故件数の推移

走行距離あたりの事故件数はタクシーが突出して多い。近年は減少傾向にあったが平成29年は微増した。乗合バスは平成20年以前より減少し続けており、トラックは緩やかに減少、貸切バスは横ばい傾向となっている。

〔図7〕 走行距離1億キロあたり事業用自動車の業態別交通事故件数の推移



出典：警察庁「交通統計」

(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

国土交通省「自動車輸送統計調査」「自動車燃料消費量調査」

〔表7〕 事業用自動車の業態別走行距離と交通事故件数の推移

区分 年	事故件数(件)							走行距離(億km)					
	バス	乗合	貸切	その他	タクシー	トラック	自動車全体	バス	乗合	貸切	タクシー	トラック	自動車全体
H20	3,428	2,826	413	189	24,034	28,843	676,146	47.6	30.5	17.1	143.4	791.4	7519.2
H21	3,139	2,633	377	129	23,408	24,997	654,214	47.1	30.4	16.7	139.2	756.9	7452.1
H22	2,882	2,403	390	89	22,735	25,452	647,526	47.3	30.3	16.9	133.1	737.3	7312.0
H23	2,605	2,138	378	89	21,617	24,865	618,706	45.3	30.1	15.2	116.4	662.3	6909.5
H24	2,427	2,000	405	22	19,381	23,539	597,057	46.6	30.4	16.2	114.8	667.0	7234.0
H25	2,164	1,751	388	25	17,799	22,462	566,364	46.0	30.5	15.5	111.4	650.1	7249.1
H26	1,972	1,578	374	20	16,113	21,564	518,263	45.8	31.2	14.6	108.8	653.9	7200.8
H27	1,772	1,443	317	12	14,902	19,825	487,503	45.5	31.8	13.8	105.4	653.7	7137.1
H28	1,556	1,239	302	15	13,526	18,254	454,379	44.5	31.5	13.0	100.1	652.5	7345.8
H29	1,498	1,217	276	5	13,171	17,985	428,492	43.9	31.3	12.6	96.7	652.8	7354.2

出典：警察庁「交通統計」

(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

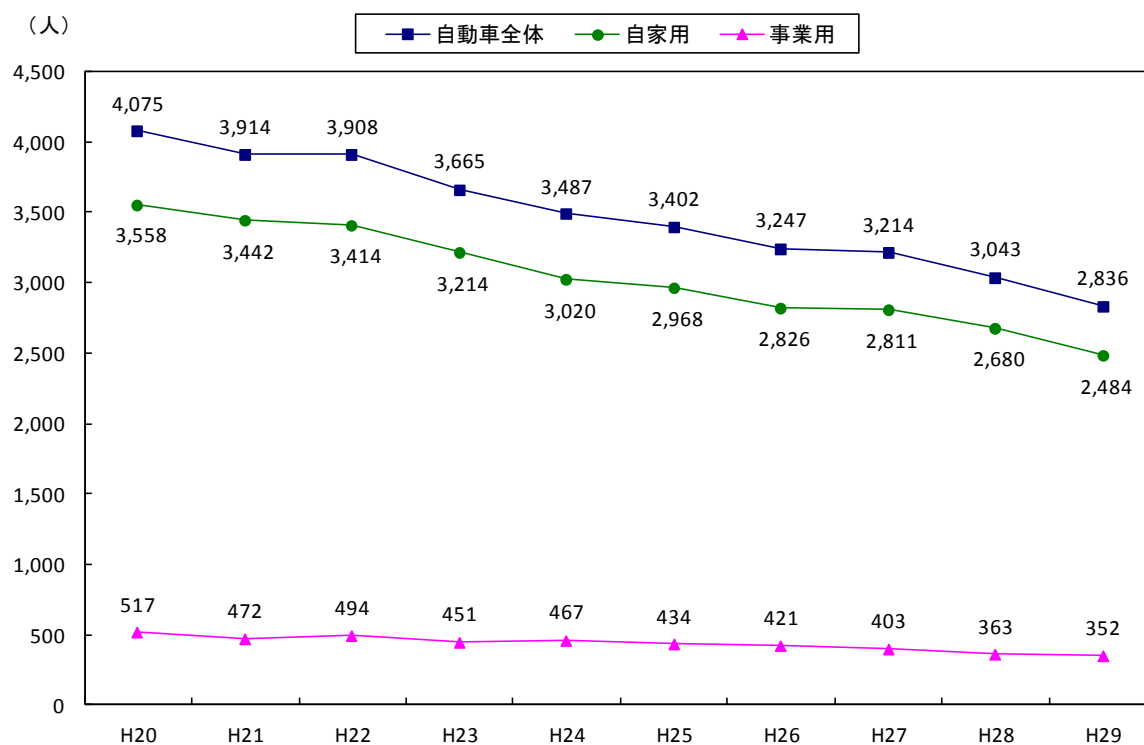
国土交通省「自動車輸送統計調査」「自動車燃料消費量調査」

# 1－3．自動車事故死者数の推移

## （１）自動車事故死者数の推移

平成29年中に全国で発生した自動車全体の交通事故死者数は2,836人である。そのうち、事業用自動車は352人であり、平成29年は前年より11人減少した。

〔図 8〕 自動車事故死者数の推移



出典：警察庁「交通統計」

（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 8〕 自動車事故死者数の推移（人）

年	自動車全体	自家用	事業用
H20	4,075	3,558	517
H21	3,914	3,442	472
H22	3,908	3,414	494
H23	3,665	3,214	451
H24	3,487	3,020	467
H25	3,402	2,968	434
H26	3,247	2,826	421
H27	3,214	2,811	403
H28	3,043	2,680	363
H29	2,836	2,484	352

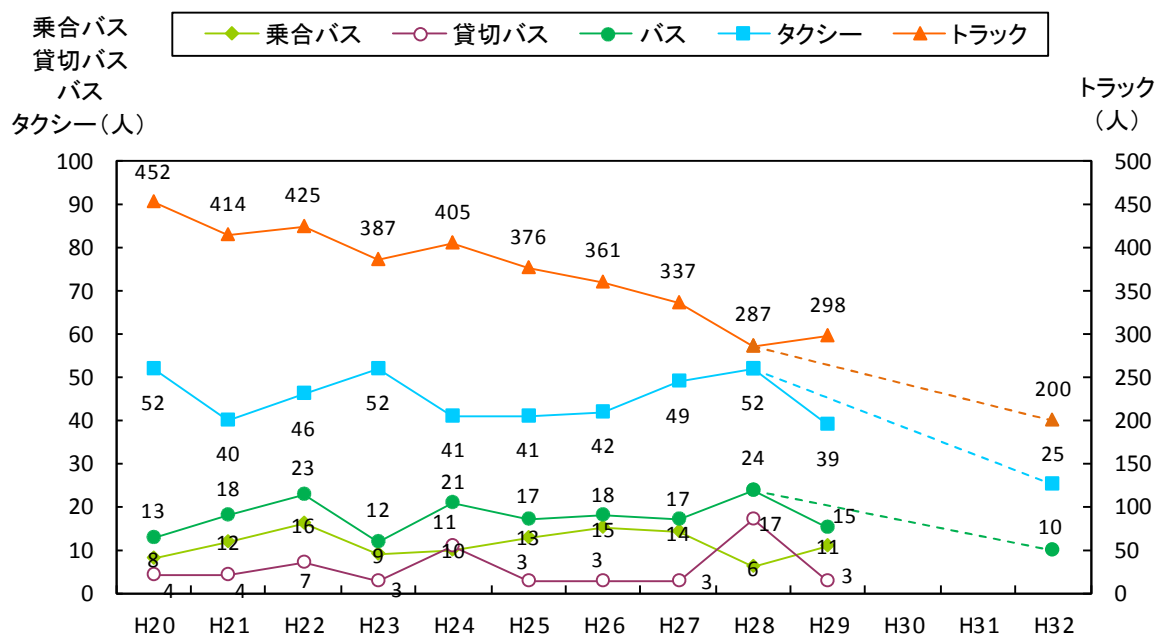
出典：警察庁「交通統計」

（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

## (2) 事業用自動車の業態別交通事故死者数の推移

事業用自動車の交通事故死者数を業態別にみると、トラックによる交通事故死者数が大半を占める。平成29年の交通事故死者数は、トラックが微増、タクシーが大きく減少、乗合バスは大きく増加した。貸切バスは軽井沢スキーバス事故の影響があった前年に比べて大きく減少している。

〔図9〕 事業用自動車の業態別交通事故死者数の推移



出典：警察庁「交通統計」  
(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表9〕 事業用自動車の業態別交通事故死者数の推移 (人)

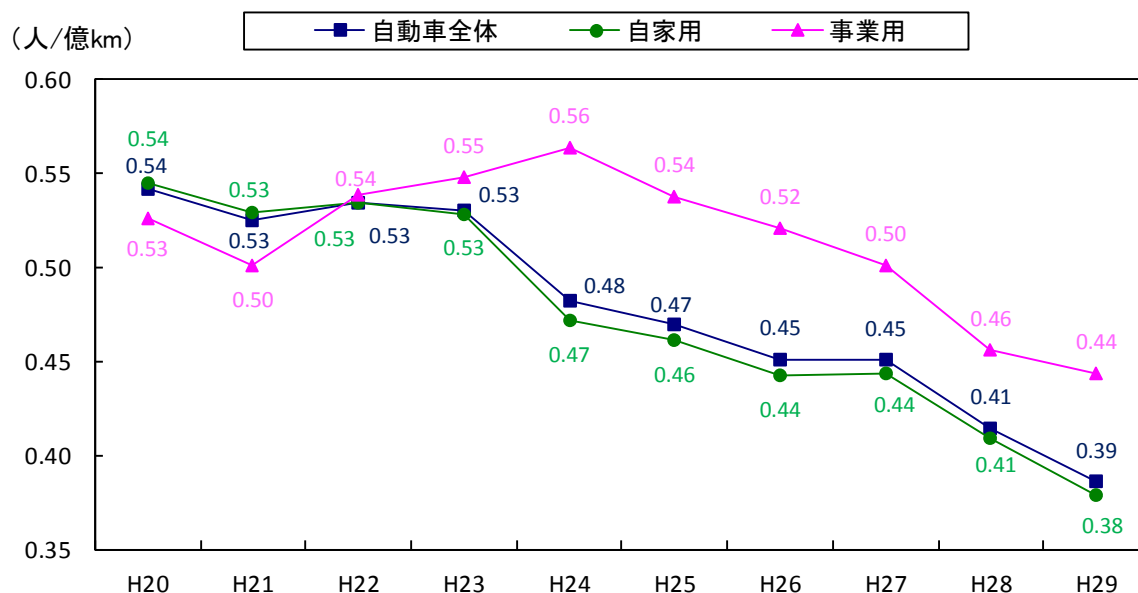
年	区分	バス			タクシー	トラック
		乗合バス	貸切バス	その他		
H20		8	4	1	52	452
H21		12	4	2	40	414
H22		16	7	0	46	425
H23		9	3	0	52	387
H24		10	11	0	41	405
H25		13	3	1	41	376
H26		15	3	0	42	361
H27		14	3	0	49	337
H28		6	17	1	52	287
H29		11	3	1	39	298

出典：警察庁「交通統計」  
(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

### (3) 走行距離1億キロあたり自動車事故死者数の推移

走行距離あたりの自動車事故死者数は、自動車全体では減少傾向にある。事業用は平成24年まで増加傾向であったが、以後は減少に転じている。

〔図10〕 走行距離1億キロあたり自動車事故死者数の推移



出典：警察庁「交通統計」

（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」  
国土交通省「自動車輸送統計調査」「自動車燃料消費量調査」

〔表10〕 自動車事故死者数と走行距離の推移

年	死者数(人)			走行距離(億km)		
	自動車全体	自家用	事業用	自動車全体	自家用	事業用
H20	4,075	3,558	517	7519.2	6536.8	982.4
H21	3,914	3,442	472	7452.1	6508.9	943.2
H22	3,908	3,414	494	7312.0	6394.3	917.7
H23	3,665	3,214	451	6909.5	6085.6	823.9
H24	3,487	3,020	467	7234.0	6405.5	828.5
H25	3,402	2,968	434	7249.1	6441.5	807.6
H26	3,247	2,826	421	7200.8	6392.3	808.5
H27	3,214	2,811	403	7137.1	6332.5	804.7
H28	3,043	2,680	363	7345.8	6548.7	797.1
H29	2,836	2,484	352	7354.2	6560.7	793.5

出典：警察庁「交通統計」

（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」  
国土交通省「自動車輸送統計調査」「自動車燃料消費量調査」

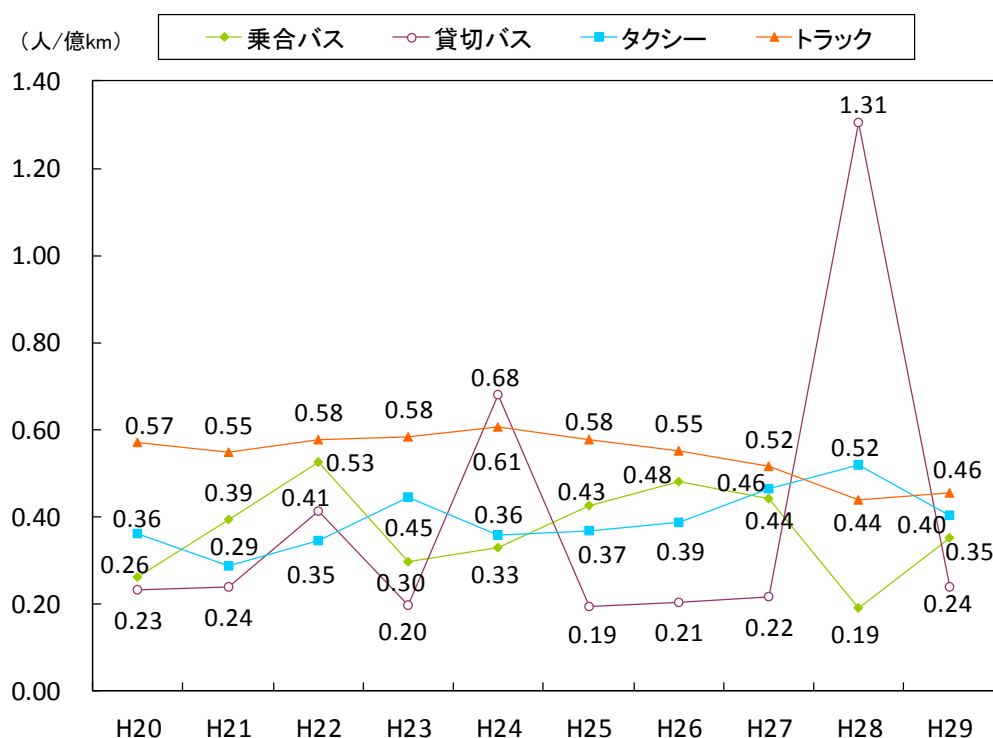
#### (4) 走行距離1億キロあたり事業用自動車の業態別交通事故死者数の推移

前年より、乗合バスとトラックは増加、貸切バスとタクシーは減少している。貸切バスは、軽井沢スキーバス事故の影響があった前年に比べて大きく減少している。

※貸切バスの平成24年は関越道における高速ツアーバス事故の影響により増加

※貸切バスの平成28年は軽井沢スキーバス事故の影響により増加

〔図 11〕 走行距離1億キロあたり事業用自動車の業態別交通事故死者数の推移



出典：警察庁「交通統計」

(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

国土交通省「自動車輸送統計調査」「自動車燃料消費量調査」

〔表 11〕 事業用自動車の業態別交通事故死者数と走行距離の推移

区分 年	死者数(人)							走行距離(億km)					
	バス				タクシー	トラック	自動車 全体	バス			タクシー	トラック	自動車 全体
	乗合	貸切	その他	乗合				貸切					
H20	13	8	4	1	52	452	4,075	47.6	30.5	17.1	143.4	791.4	7519.2
H21	18	12	4	2	40	414	3,914	47.1	30.4	16.7	139.2	756.9	7452.1
H22	23	16	7	0	46	425	3,908	47.3	30.3	16.9	133.1	737.3	7312.0
H23	12	9	3	0	52	387	3,665	45.3	30.1	15.2	116.4	662.3	6909.5
H24	21	10	11	0	41	405	3,487	46.6	30.4	16.2	114.8	667.0	7234.0
H25	17	13	3	1	41	376	3,402	46.0	30.5	15.5	111.4	650.1	7249.1
H26	18	15	3	0	42	361	3,247	45.8	31.2	14.6	108.8	653.9	7200.8
H27	17	14	3	0	49	337	3,214	45.5	31.8	13.8	105.4	653.7	7137.1
H28	24	6	17	1	52	287	3,043	44.5	31.5	13.0	100.1	652.5	7345.8
H29	15	11	3	1	39	298	2,836	43.9	31.3	12.6	96.7	652.8	7354.2

出典：警察庁「交通統計」

(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

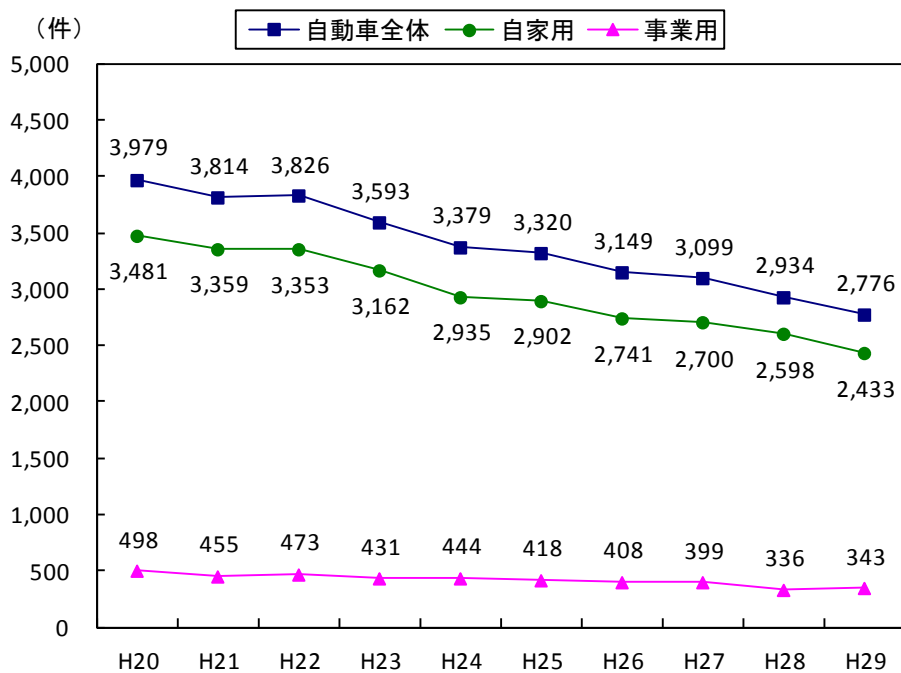
国土交通省「自動車輸送統計調査」「自動車燃料消費量調査」

## 1-4. 自動車死亡事故件数の推移

### (1) 自動車死亡事故件数の推移

平成29年中に全国で発生した自動車全体の交通死亡事故件数は2,776件であり、そのうち、自家用自動車は2,433件、事業用自動車は343件となっている。

〔図12〕 自動車死亡事故件数の推移



出典：警察庁「交通統計」

(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表12〕 自動車死亡事故件数の推移 (件)

年	自動車全体	自家用	事業用
H20	3,979	3,481	498
H21	3,814	3,359	455
H22	3,826	3,353	473
H23	3,593	3,162	431
H24	3,379	2,935	444
H25	3,320	2,902	418
H26	3,149	2,741	408
H27	3,099	2,700	399
H28	2,934	2,598	336
H29	2,776	2,433	343

出典：警察庁「交通統計」

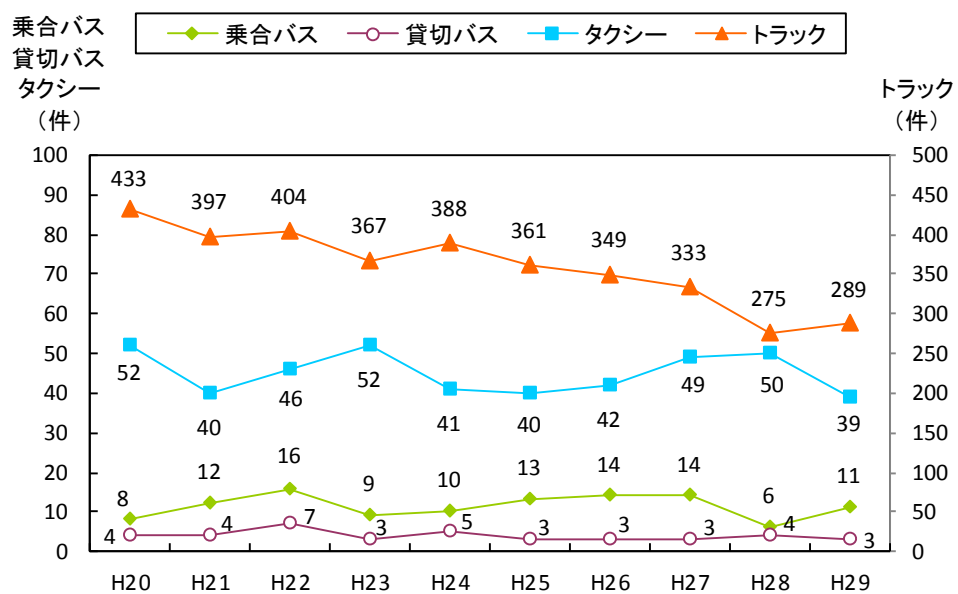
(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」



## (2) 事業用自動車の業態別交通死亡事故件数の推移

事業用自動車の交通死亡事故件数を業態別にみると、トラックによる死亡事故件数が大半を占め、減少傾向であったが平成29年は5年ぶりに増加した。タクシー、貸切バスは減少、乗合バスは増加した。

〔図13〕 事業用自動車の業態別交通死亡事故件数の推移



出典：警察庁「交通統計」

(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表13〕 事業用自動車の業態別交通死亡事故件数の推移 (件)

年	区分	バス			タクシー	トラック	
		乗合バス	貸切バス	その他			
	H20	13	8	4	1	52	433
	H21	18	12	4	2	40	397
	H22	23	16	7	0	46	404
	H23	12	9	3	0	52	367
	H24	15	10	5	0	41	388
	H25	17	13	3	1	40	361
	H26	17	14	3	0	42	349
	H27	17	14	3	0	49	333
	H28	11	6	4	1	50	275
	H29	15	11	3	1	39	289

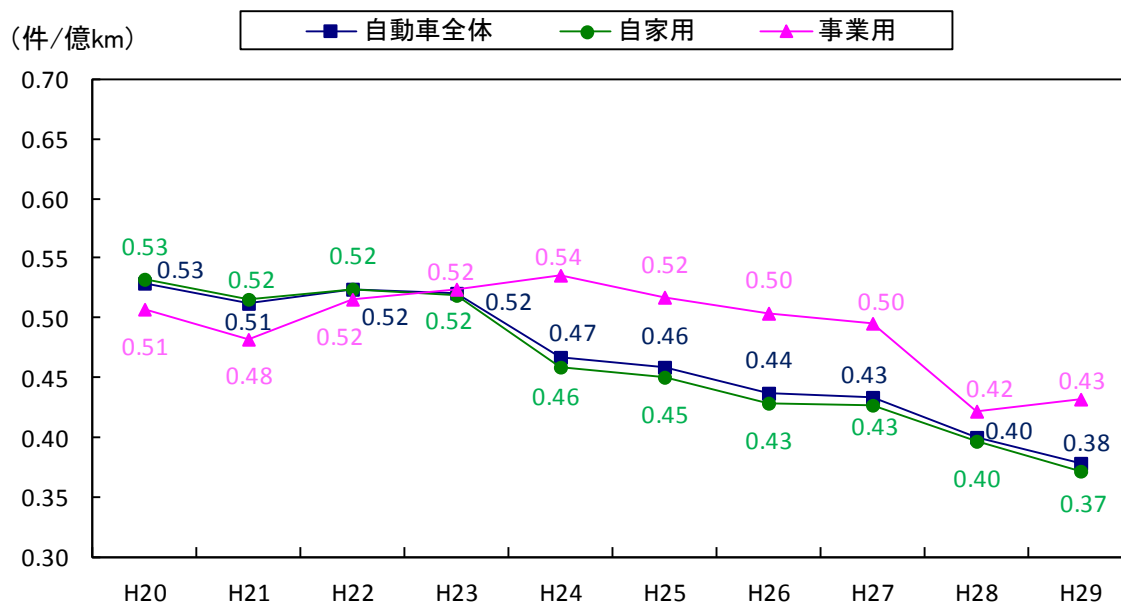
出典：警察庁「交通統計」

(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

### (3) 走行距離1億キロあたり自動車死亡事故件数の推移

走行距離あたりの自動車死亡事故件数をみると、自動車全体と自家用自動車は減少傾向である。事業用自動車は減少傾向にあったが平成29年は微増した。

〔図14〕 走行距離1億キロあたり自動車死亡事故件数の推移



出典：警察庁「交通統計」

(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

国土交通省「自動車輸送統計調査」「自動車燃料消費量調査」

〔表14〕 自動車死亡事故件数と走行距離の推移

区分 年	死亡事故件数(件)			走行距離(億km)		
	自動車全体	自家用	事業用	自動車全体	自家用	事業用
H20	3,979	3,481	498	7519.2	6536.8	982.4
H21	3,814	3,359	455	7452.1	6508.9	943.2
H22	3,826	3,353	473	7312.0	6394.3	917.7
H23	3,593	3,162	431	6909.5	6085.6	823.9
H24	3,379	2,935	444	7234.0	6405.5	828.5
H25	3,320	2,902	418	7249.1	6441.5	807.6
H26	3,149	2,741	408	7200.8	6392.3	808.5
H27	3,099	2,700	399	7137.1	6332.5	804.7
H28	2,934	2,598	336	7345.8	6548.7	797.1
H29	2,776	2,433	343	7354.2	6560.7	793.5

出典：警察庁「交通統計」

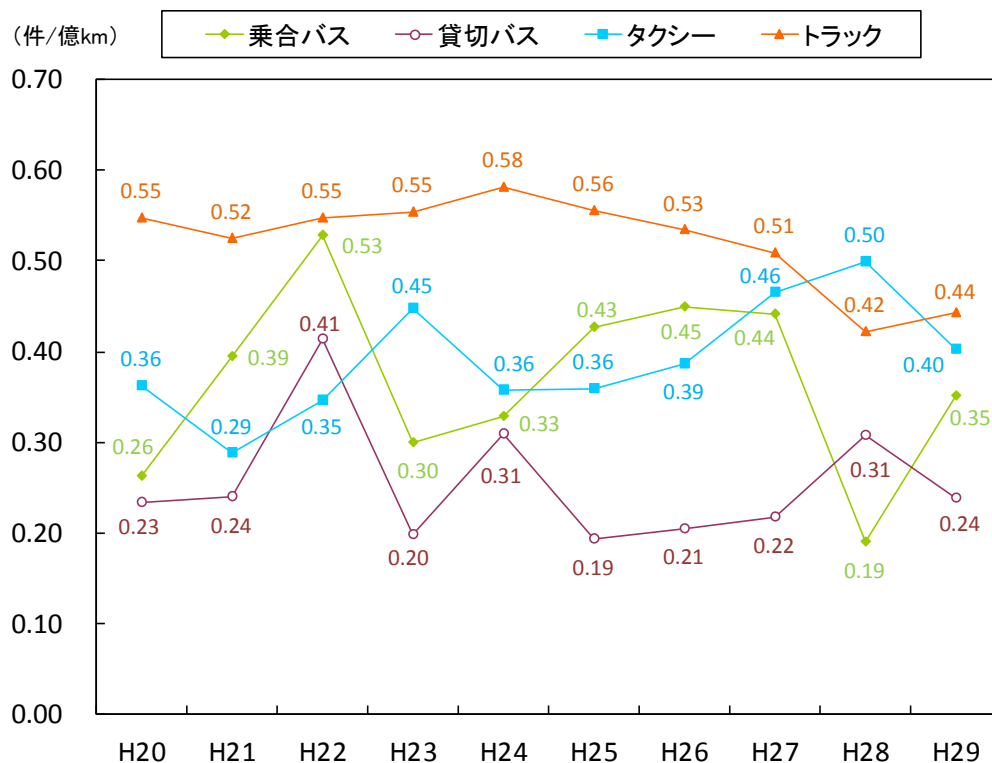
(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

国土交通省「自動車輸送統計調査」「自動車燃料消費量調査」

#### (4) 走行距離1億キロあたり事業用自動車の業態別交通死亡事故件数の推移

走行距離当たりの死亡事故件数は、乗合バスとトラックは前年に比べ増加し、貸切バスとタクシーは、減少した。

〔図15〕 走行距離1億キロあたり事業用自動車の業態別交通死亡事故件数の推移



出典：警察庁「交通統計」

(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

国土交通省「自動車輸送統計調査」「自動車燃料消費量調査」

〔表15〕 事業用自動車の業態別走行距離と交通死亡事故件数の推移

区分 年	死亡事故件数(件)							走行キロ(億km)					
	バス	乗合	貸切	その他	タクシー	トラック	自動車全体	バス	乗合	貸切	タクシー	トラック	自動車全体
H20	13	8	4	1	52	433	3,979	47.6	30.5	17.1	143.4	791.4	7519.2
H21	18	12	4	2	40	397	3,814	47.1	30.4	16.7	139.2	756.9	7452.1
H22	23	16	7	0	46	404	3,826	47.3	30.3	16.9	133.1	737.3	7312.0
H23	12	9	3	0	52	367	3,593	45.3	30.1	15.2	116.4	662.3	6909.5
H24	15	10	5	0	41	388	3,379	46.6	30.4	16.2	114.8	667.0	7234.0
H25	17	13	3	1	40	361	3,320	46.0	30.5	15.5	111.4	650.1	7249.1
H26	17	14	3	0	42	349	3,149	45.8	31.2	14.6	108.8	653.9	7200.8
H27	17	14	3	0	49	333	3,099	45.5	31.8	13.8	105.4	653.7	7137.1
H28	11	6	4	1	50	275	2,934	44.5	31.5	13.0	100.1	652.5	7345.8
H29	15	11	3	1	39	289	2,776	43.9	31.3	12.6	96.7	652.8	7354.2

出典：警察庁「交通統計」

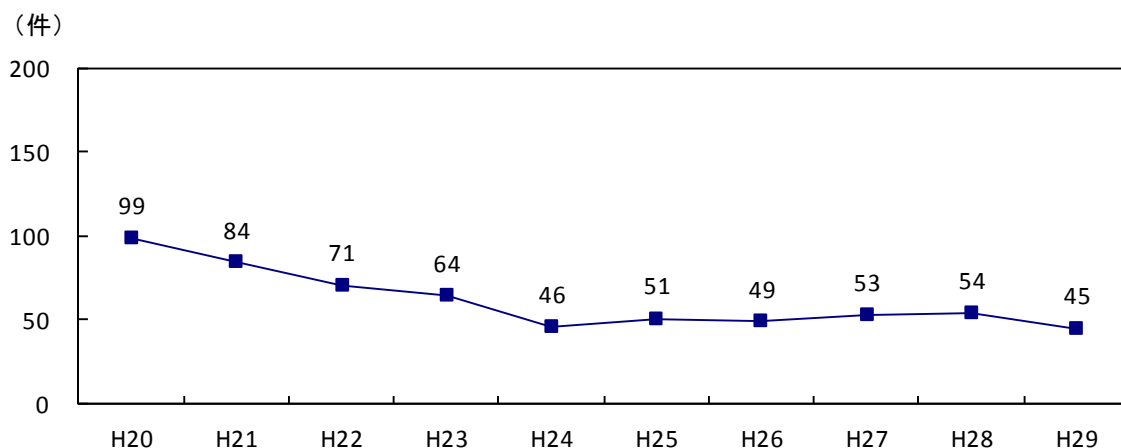
(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

国土交通省「自動車輸送統計調査」「自動車燃料消費量調査」

## 1-5. 飲酒運転による事業用自動車の交通事故の推移

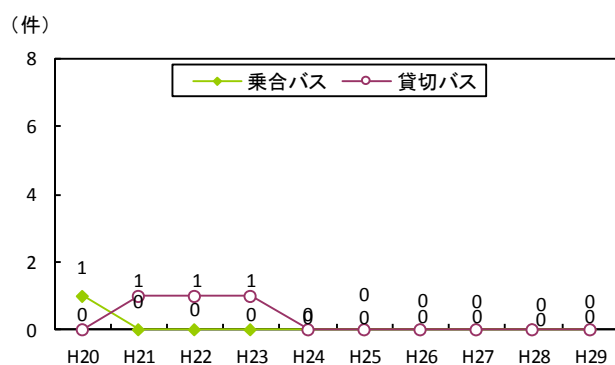
飲酒運転による事業用自動車の交通事故は、平成 24 年までは減少しており、それ以降は横ばい傾向である。業態別の内訳は、トラック 41 件、タクシー 4 件である。

〔図 16〕 飲酒運転による事業用自動車の交通事故件数の推移

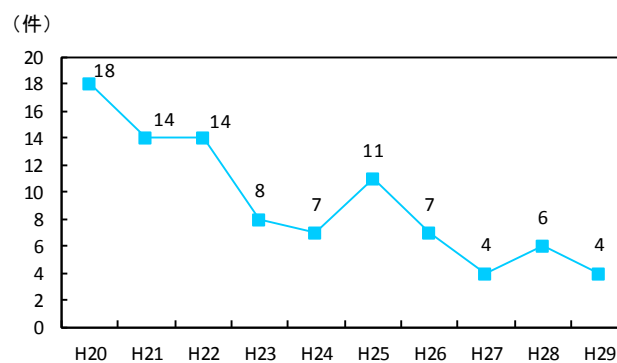


出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

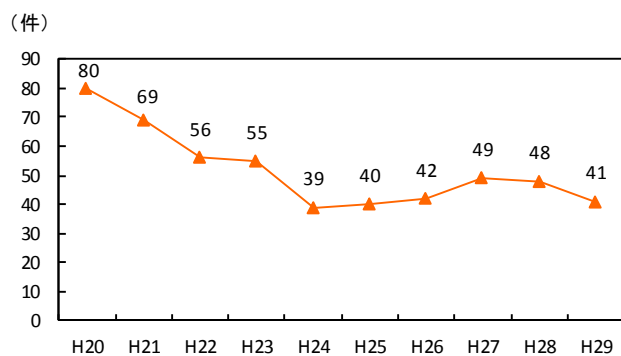
〔図 17〕 業態別飲酒運転による交通事故件数



飲酒運転による交通事故件数（バス）



飲酒運転による交通事故件数（タクシー）



飲酒運転による交通事故件数（トラック）

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 16〕 業態別飲酒運転による交通事故件数の推移（件）

区分 年	交通事故件数						
	バス				タクシー	トラック	合計
		乗合	貸切	その他			
H20	1	1	0	0	18	80	99
H21	1	0	1	0	14	69	84
H22	1	0	1	0	14	56	71
H23	1	0	1	0	8	55	64
H24	0	0	0	0	7	39	46
H25	0	0	0	0	11	40	51
H26	0	0	0	0	7	42	49
H27	0	0	0	0	4	49	53
H28	0	0	0	0	6	48	54
H29	0	0	0	0	4	41	45

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 17〕 業態別飲酒運転による交通死亡事故件数の推移（件）

区分 年	交通死亡事故件数						
	バス				タクシー	トラック	合計
		乗合	貸切	その他			
H20	0	0	0	0	0	1	1
H21	0	0	0	0	0	2	2
H22	0	0	0	0	0	3	3
H23	0	0	0	0	0	4	4
H24	0	0	0	0	0	6	6
H25	0	0	0	0	0	6	6
H26	0	0	0	0	1	5	6
H27	0	0	0	0	0	5	5
H28	0	0	0	0	0	1	1
H29	0	0	0	0	0	4	4

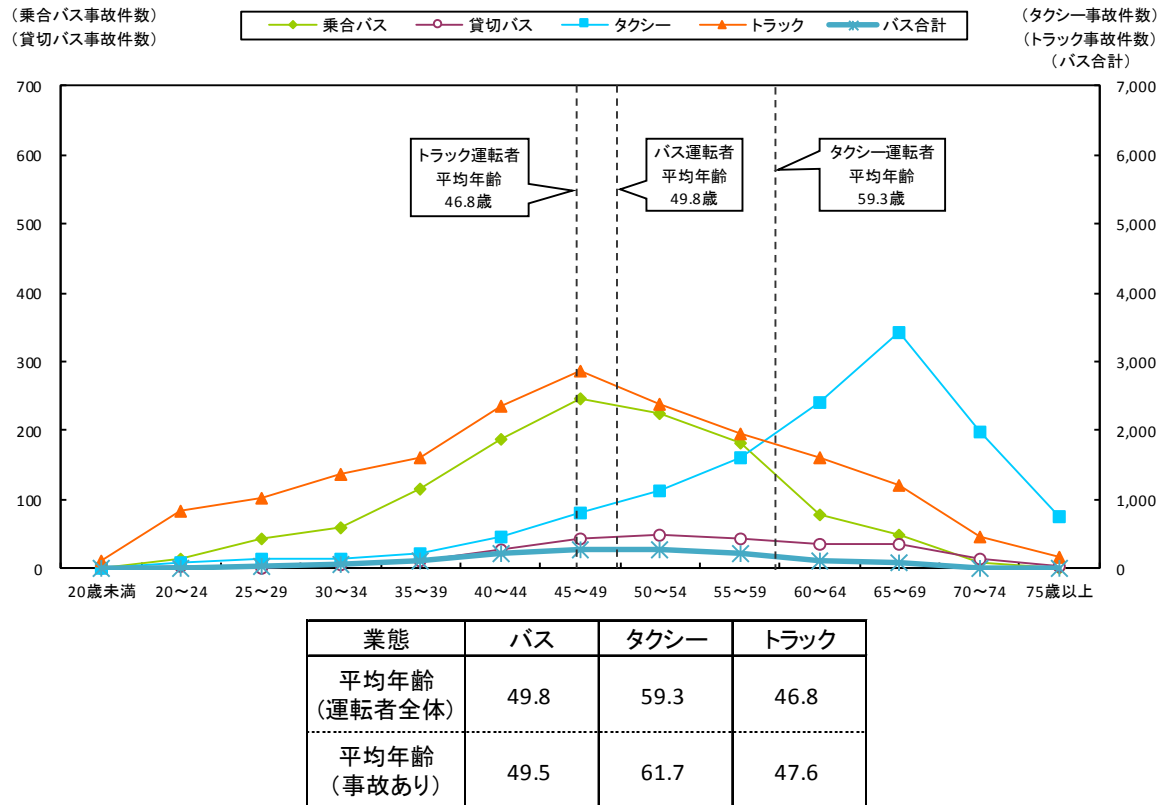
出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

# 1-6. 業態別運転者年齢層別の交通事故

## (1) 業態別運転者年齢層別交通事故件数

業態別の交通事故第1当事者の平均年齢と運転者の平均年齢をみると、タクシーは若干高く、バスとトラックは同程度である。

〔図18〕 業態別運転者年齢層別交通事故件数（平成29年）



※ 交通事故第1当事者の平均年齢は、年齢層毎の年齢の加重平均により算出

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」  
厚生労働省「平成29年賃金構造基本統計調査（全国）」

〔表18〕 業態別運転者年齢層別交通事故件数（件）（平成29年）

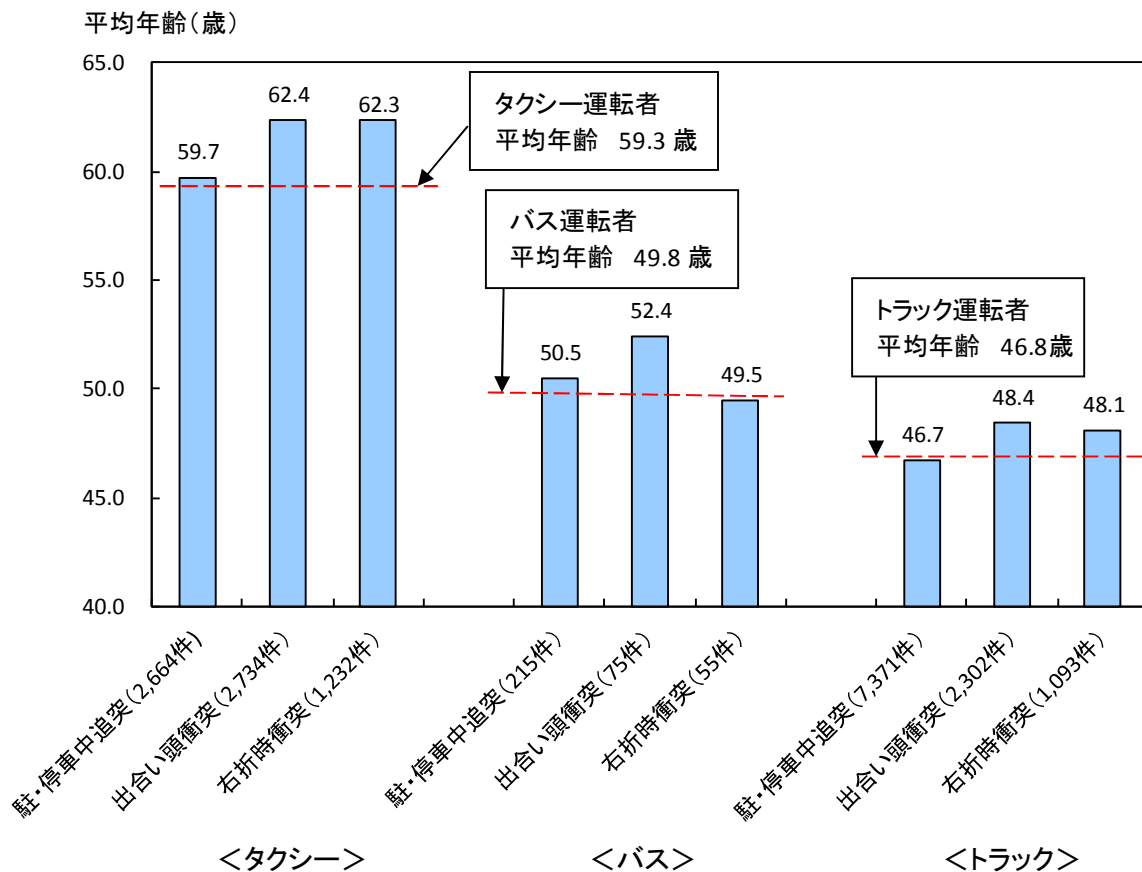
		20歳未満	20～24	25～29	30～34	35～39	40～44	45～49	50～54	55～59	60～64	65～69	70～74	75歳以上	合計
バス	乗合	0	15	45	61	117	187	247	226	182	79	49	8	1	1,217
	貸切	0	3	0	6	13	29	44	48	44	36	35	14	4	276
	その他	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	2	0	0	5
	小計	0	18	45	67	130	216	291	275	227	116	86	22	5	1,498
ハイタク	法人	0	76	127	126	211	415	770	1,064	1,501	2,251	3,104	1,740	623	12,008
	個人	0	4	4	1	1	23	30	53	91	160	309	231	144	1,051
その他乗用		1	6	15	8	11	14	8	10	9	12	12	2	4	112
小計		1	86	146	135	223	452	808	1,127	1,601	2,423	3,425	1,973	771	13,171
貨物自動車	大型	0	76	251	349	580	893	1,124	892	661	472	272	75	18	5,663
	中型	0	179	252	427	461	738	790	670	536	416	289	83	20	4,861
	準中型	53	192	190	235	232	294	364	291	247	194	113	39	8	2,452
	普通	25	147	108	99	104	133	165	129	108	108	77	27	10	1,240
	軽	48	255	236	256	238	307	413	408	403	418	449	234	104	3,769
	小計	126	849	1,037	1,366	1,615	2,365	2,856	2,390	1,955	1,608	1,200	458	160	17,985
合計		127	953	1,228	1,568	1,968	3,033	3,955	3,792	3,783	4,147	4,711	2,453	936	32,654
トレーラ (トラックの内数)		1	16	40	69	109	178	223	191	118	81	50	12	2	1,090

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

## (2) 業態別事故類型別事故第1当事者平均年齢

事故第1当事者の平均年齢を、運転者全体の平均年齢と比べると、出会い頭衝突は業態を問わず平均より高い年齢となっている。

〔図 19〕 業態別事故類型別事故第1当事者の運転者平均年齢（車両との事故）（平成29年）



注：（ ）内は事故件数

※ 事故第1当事者の運転者の平均年齢は、年齢層毎の年齢の加重平均により算出

※ 上記事故類型は「車両との事故」の事故類型から事故件数の多い3つを抽出

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」  
厚生労働省「平成29年賃金構造基本統計調査（全国）」

## 1-7. 業態別危険認知速度別の交通事故

### (1) 業態別危険認知速度別交通事故件数

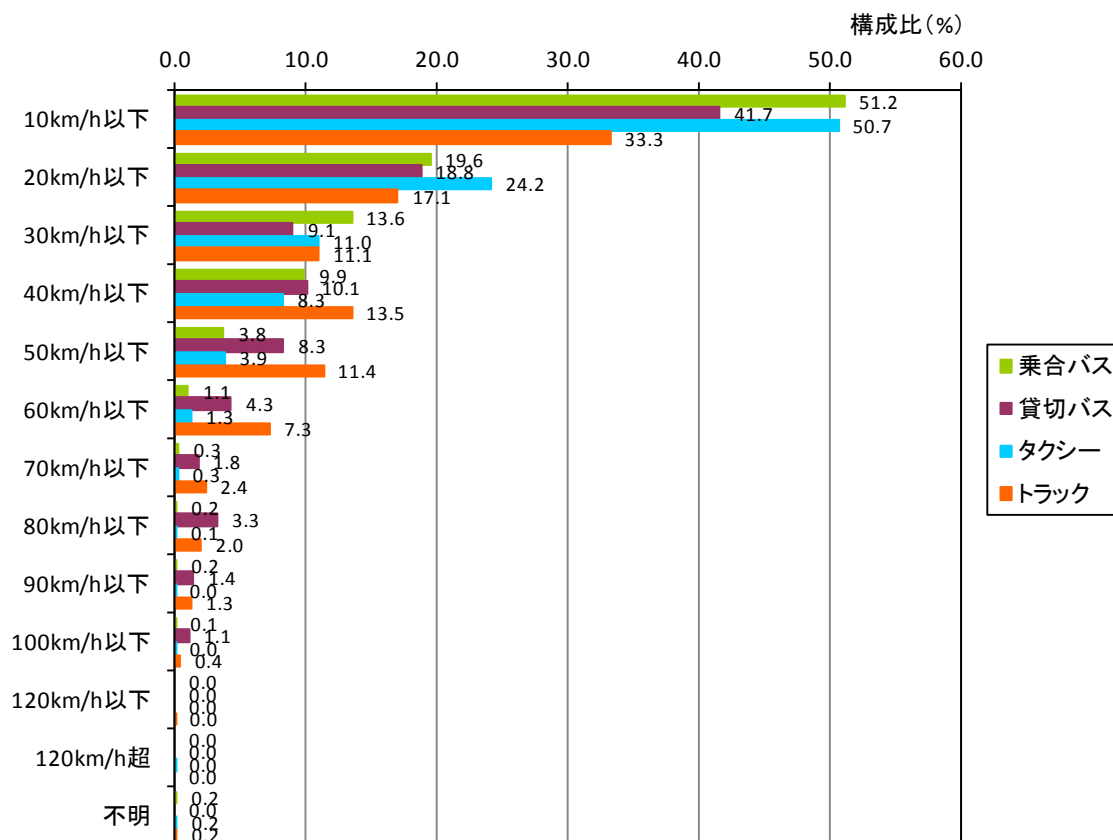
業態別の危険認知速度別事故件数をみると、いずれの業態も10km/h以下が最も多くなっている。表19に認知速度別交通事故件数を、図20に業態別の構成比を示す。

〔表 19〕 業態別危険認知速度別交通事故件数（件）（平成29年）

区分 速度	交通事故件数					
	バス	乗合	貸切	その他	タクシー	トラック
10km/h以下	742	623	115	0	6,678	5,990
20km/h以下	290	238	52	0	3,188	3,073
30km/h以下	190	165	25	0	1,450	1,989
40km/h以下	150	121	28	0	1,091	2,435
50km/h以下	69	46	23	0	508	2,047
60km/h以下	25	13	12	0	170	1,307
70km/h以下	9	4	5	0	35	428
80km/h以下	11	2	9	0	18	365
90km/h以下	6	2	4	0	4	230
100km/h以下	4	1	3	0	5	79
120km/h以下	0	0	0	0	0	8
120km/h超	0	0	0	0	1	0
不明	2	2	0	0	23	34
合計	1,498	1,217	276	0	13,171	17,985

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 20〕 業態別危険認知速度別交通事故件数の構成比（％）（平成29年）



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」



## (2) 業態別危険認知速度別交通死亡事故件数

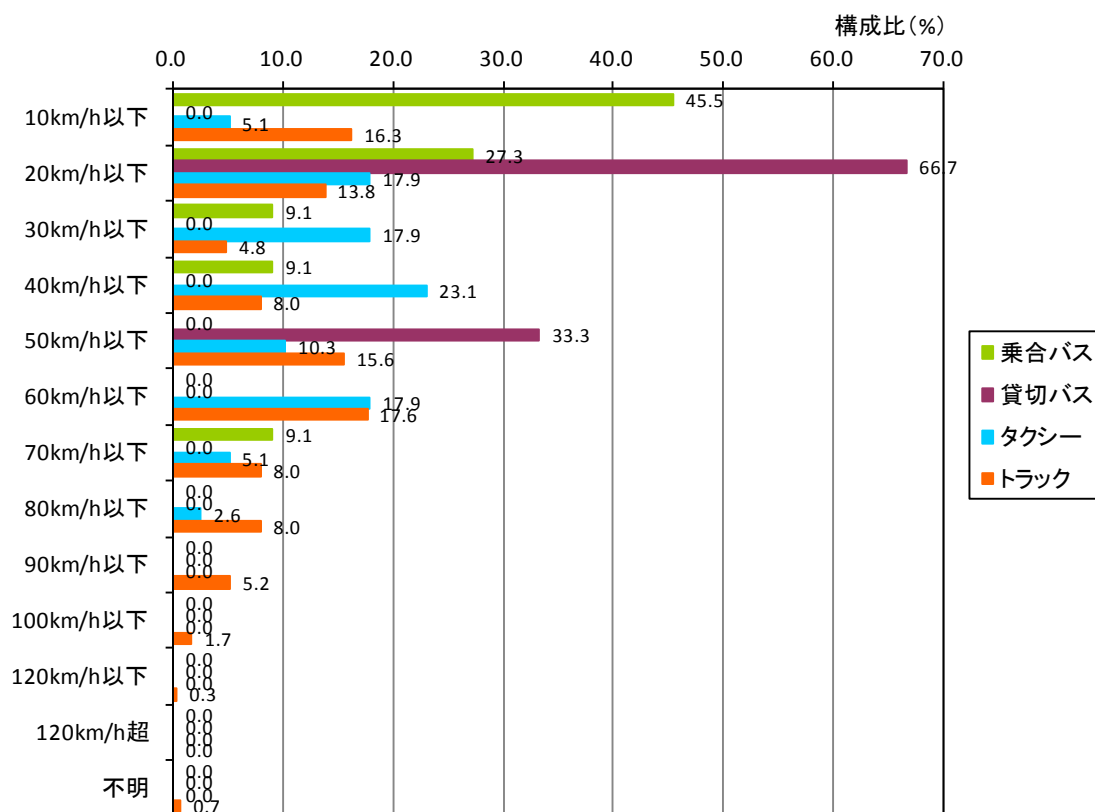
表20に業態別危険認知速度別交通死亡事故件数を、図21に危険認知速度別交通死亡事故件数の業態別の構成比を示す。業態別でみると、バスは20km/h以下が大半を占め、タクシーは40km/h以下、トラックは60km/h以下が最も多くなっている。

〔表 20〕 業態別危険認知速度別交通死亡事故件数（件）（平成29年）

速度	交通死亡事故件数						
	バス	乗合	貸切	その他	タクシー	トラック	合計
10km/h以下	6	5	0	1	2	47	55
20km/h以下	5	3	2	0	7	40	52
30km/h以下	1	1	0	0	7	14	22
40km/h以下	1	1	0	0	9	23	33
50km/h以下	1	0	1	0	4	45	50
60km/h以下	0	0	0	0	7	51	58
70km/h以下	1	1	0	0	2	23	26
80km/h以下	0	0	0	0	1	23	24
90km/h以下	0	0	0	0	0	15	15
100km/h以下	0	0	0	0	0	5	5
120km/h以下	0	0	0	0	0	1	1
120km/h超	0	0	0	0	0	0	0
不明	0	0	0	0	0	2	2
合計	15	11	3	1	39	289	343

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 21〕 業態別危険認知速度別交通死亡事故件数の構成比（％）（平成29年）



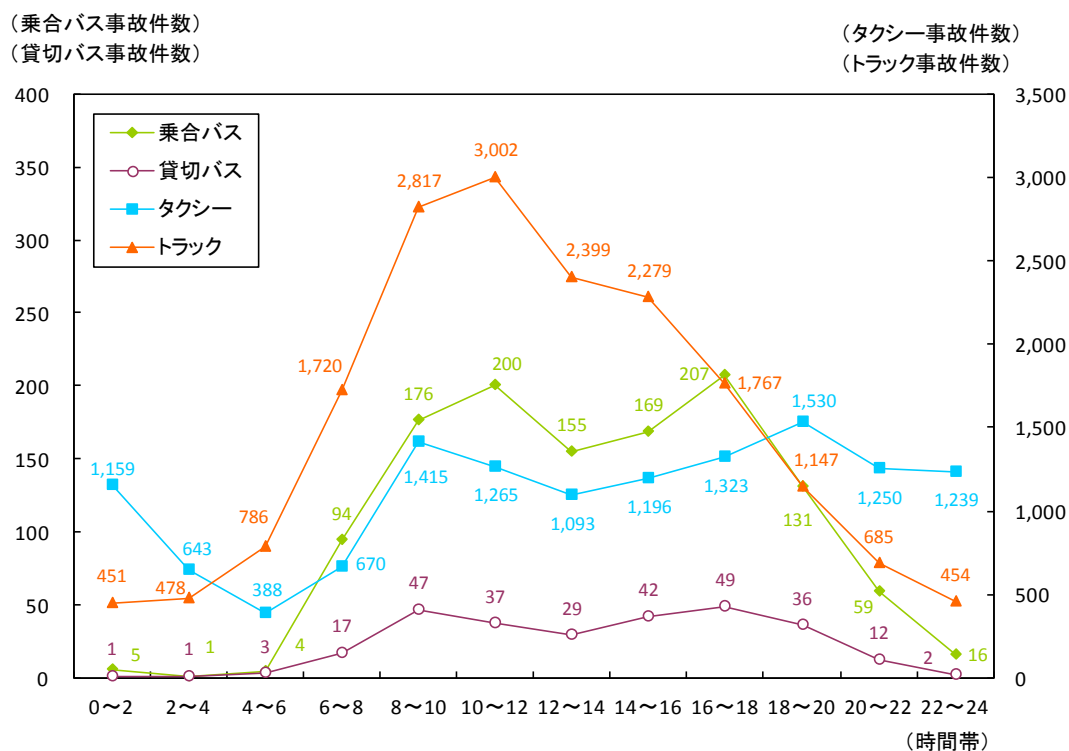
出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

## 1-8. 業態別時間帯別の交通事故

### (1) 業態別時間帯別交通事故件数

業態別の時間帯別事故件数をみると、乗合バスと貸切バスは16時～17時台、タクシーは18時～19時台、トラックは10時～11時台が最も多い。

〔図 22〕 業態別時間帯別交通事故件数（平成29年）



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 21〕 業態別時間帯別交通事故件数（件）（平成29年）

区分		時間帯	0~2	2~4	4~6	6~8	8~10	10~12	12~14	14~16	16~18	18~20	20~22	22~24	合計
バス	乗合		5	1	4	94	176	200	155	169	207	131	59	16	1,217
	貸切		1	1	3	17	47	37	29	42	49	36	12	2	276
	その他		0	0	0	0	1	1	1	0	2	0	0	0	5
	小計		6	2	7	111	224	238	185	211	258	167	71	18	1,498
タクシー	法人		1,018	598	350	621	1,319	1,178	1,010	1,097	1,188	1,400	1,132	1,097	12,008
	個人		141	44	37	41	82	79	64	78	114	117	114	140	1,051
その他乗用			0	1	1	8	14	8	19	21	21	13	4	2	112
小計			1,159	643	388	670	1,415	1,265	1,093	1,196	1,323	1,530	1,250	1,239	13,171
トラック	大型		212	196	295	586	844	952	707	680	481	283	232	195	5,663
	中型		146	167	305	558	789	768	642	562	393	230	162	139	4,861
	準中型		40	71	101	254	454	436	356	314	221	121	47	37	2,452
	普通		21	17	31	113	223	232	166	196	130	75	24	12	1,240
	軽		32	27	54	209	507	614	528	527	542	438	220	71	3,769
小計			451	478	786	1,720	2,817	3,002	2,399	2,279	1,767	1,147	685	454	17,985
合計			1,616	1,123	1,181	2,501	4,456	4,505	3,677	3,686	3,348	2,844	2,006	1,711	32,654

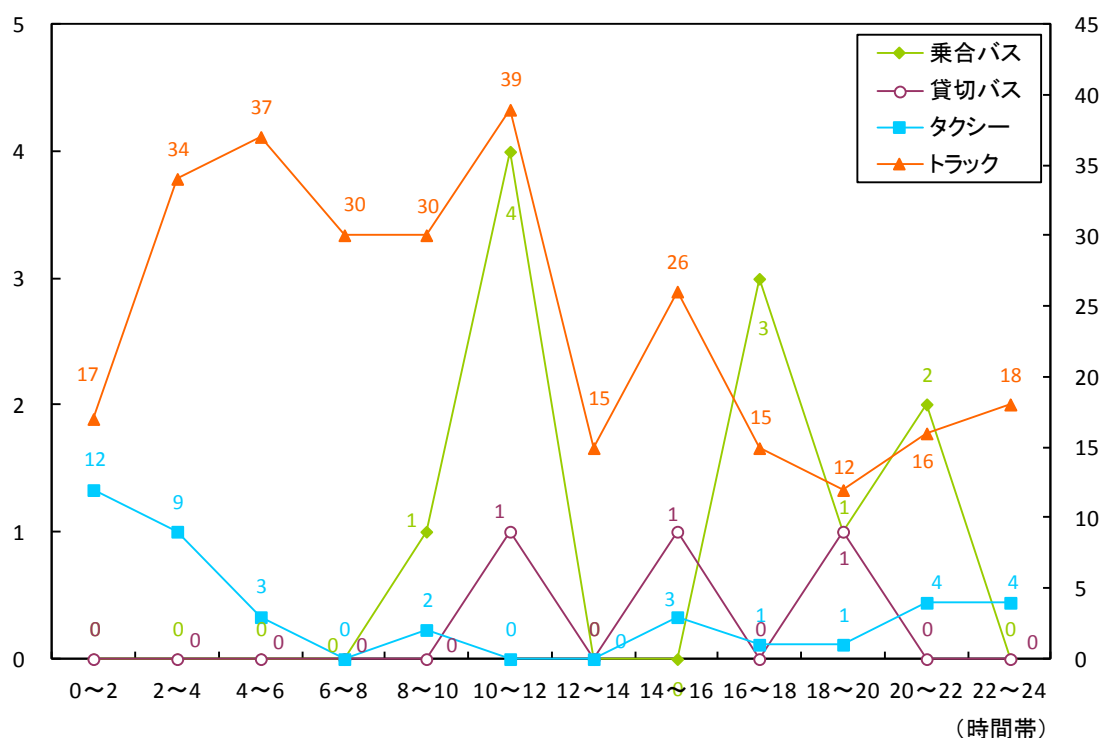
出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

## (2) 業態別時間帯別交通死亡事故件数

業態別の時間帯別死亡事故件数をみると、バスは10時～11時台、タクシーは0時～1時台、トラックは10時～11時台が最も多い。

〔図 23〕 業態別時間帯別交通死亡事故件数（平成29年）

(乗合バス死亡事故件数) (タクシー死亡事故件数)  
(貸切バス死亡事故件数) (トラック死亡事故件数)



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 22〕 業態別時間帯別交通死亡事故件数（件）（平成29年）

時間帯														
区分		0～2	2～4	4～6	6～8	8～10	10～12	12～14	14～16	16～18	18～20	20～22	22～24	合計
バス	乗合	0	0	0	0	1	4	0	0	3	1	2	0	11
	貸切	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	0	3
	その他	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	小計	0	0	0	0	2	5	0	1	3	2	2	0	15
タクシー	法人	12	9	2	0	2	0	0	2	1	1	4	4	37
	個人	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2
その他乗用		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小計		12	9	3	0	2	0	0	3	1	1	4	4	39
トラック	大型	10	13	16	14	15	21	12	16	8	9	10	9	153
	中型	5	13	14	12	6	5	1	7	2	1	3	7	76
	準中型	1	5	4	2	5	8	1	2	2	2	2	0	34
	普通	1	0	2	0	2	2	0	0	0	0	0	0	7
	軽	0	3	1	2	2	3	1	1	3	0	1	2	19
	小計	17	34	37	30	30	39	15	26	15	12	16	18	289
合計		29	43	40	30	34	44	15	30	19	15	22	22	343

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

## 1-9. 事故に関わる営業所の位置（都道府県）別の交通事故

### （１） 事故に関わる営業所の位置（都道府県）別の交通事故件数

〔表 23〕 事故に関わる営業所の位置（都道府県）別の交通事故件数（件）（平成29年）

事業の種類 都道府県	バス				タクシー	トラック	計
		乗合	貸切	その他			
北海道	46 (10)	27 (13)	19 (4)	0 (4)	630 (7)	413 (10)	1,089 (10)
青森県	12 (22)	10 (18)	2 (26)	0 (4)	71 (22)	94 (38)	177 (36)
岩手県	4 (40)	4 (38)	0 (41)	0 (4)	34 (37)	82 (39)	120 (41)
宮城県	8 (31)	7 (27)	1 (34)	0 (4)	165 (15)	227 (16)	400 (14)
秋田県	3 (42)	3 (40)	0 (41)	0 (4)	17 (43)	71 (42)	91 (43)
山形県	9 (27)	5 (34)	4 (14)	0 (4)	31 (39)	114 (35)	154 (37)
福島県	10 (25)	6 (30)	4 (14)	0 (4)	57 (26)	183 (20)	250 (23)
茨城県	15 (17)	9 (23)	6 (12)	0 (4)	49 (30)	409 (11)	473 (13)
栃木県	2 (47)	2 (43)	0 (41)	0 (4)	38 (33)	160 (26)	200 (29)
群馬県	12 (22)	10 (18)	2 (26)	0 (4)	46 (32)	322 (13)	380 (15)
埼玉県	52 (9)	41 (9)	9 (8)	2 (1)	397 (8)	1,414 (3)	1,863 (6)
千葉県	76 (6)	58 (8)	18 (5)	0 (4)	321 (11)	900 (7)	1,297 (8)
東京都	187 (1)	154 (1)	33 (2)	0 (4)	3,436 (1)	1,715 (2)	5,338 (1)
神奈川県	150 (2)	138 (2)	12 (6)	0 (4)	961 (4)	1,333 (4)	2,444 (3)
新潟県	8 (31)	5 (34)	3 (21)	0 (4)	56 (27)	131 (29)	195 (32)
富山県	3 (42)	2 (43)	1 (34)	0 (4)	17 (43)	118 (32)	138 (39)
石川県	16 (16)	14 (16)	2 (26)	0 (4)	56 (27)	112 (36)	184 (35)
福井県	3 (42)	1 (47)	2 (26)	0 (4)	8 (47)	59 (43)	70 (45)
山梨県	5 (38)	2 (43)	3 (21)	0 (4)	32 (38)	81 (40)	118 (42)
長野県	13 (21)	10 (18)	3 (21)	0 (4)	73 (20)	205 (18)	291 (21)
岐阜県	7 (35)	6 (30)	1 (34)	0 (4)	36 (34)	205 (18)	248 (24)
静岡県	42 (12)	33 (11)	9 (8)	0 (4)	349 (10)	789 (9)	1,180 (9)
愛知県	73 (7)	63 (7)	10 (7)	0 (4)	645 (5)	1,272 (5)	1,990 (5)
三重県	9 (27)	5 (34)	4 (14)	0 (4)	18 (42)	219 (17)	246 (26)
滋賀県	12 (22)	9 (23)	3 (21)	0 (4)	36 (34)	150 (27)	198 (30)
京都府	69 (8)	65 (6)	4 (14)	0 (4)	378 (9)	388 (12)	835 (11)
大阪府	142 (4)	103 (4)	39 (1)	0 (4)	1,594 (2)	2,215 (1)	3,951 (2)
兵庫県	111 (5)	102 (5)	9 (8)	0 (4)	631 (6)	888 (8)	1,630 (7)
奈良県	5 (38)	4 (38)	1 (34)	0 (4)	29 (40)	164 (25)	198 (30)
和歌山県	3 (42)	2 (43)	1 (34)	0 (4)	28 (41)	115 (34)	146 (38)
鳥取県	3 (42)	3 (40)	0 (41)	0 (4)	11 (45)	41 (46)	55 (46)
島根県	4 (40)	3 (40)	1 (34)	0 (4)	11 (45)	23 (47)	38 (47)
岡山県	10 (25)	9 (23)	0 (41)	1 (2)	67 (24)	260 (15)	337 (18)
広島県	19 (15)	15 (15)	4 (14)	0 (4)	240 (13)	302 (14)	561 (12)
山口県	15 (17)	13 (17)	2 (26)	0 (4)	73 (20)	125 (30)	213 (28)
徳島県	8 (31)	6 (30)	2 (26)	0 (4)	47 (31)	80 (41)	135 (40)
香川県	14 (19)	10 (18)	4 (14)	0 (4)	68 (23)	166 (23)	248 (24)
愛媛県	7 (35)	5 (34)	2 (26)	0 (4)	60 (25)	120 (31)	187 (34)
高知県	6 (37)	6 (30)	0 (41)	0 (4)	35 (36)	42 (45)	83 (44)
福岡県	150 (2)	124 (3)	25 (3)	1 (2)	1,224 (3)	1,021 (6)	2,395 (4)
佐賀県	9 (27)	9 (23)	0 (41)	0 (4)	55 (29)	166 (23)	230 (27)
長崎県	46 (10)	37 (10)	9 (8)	0 (4)	187 (14)	118 (32)	351 (17)
熊本県	9 (27)	7 (27)	2 (26)	0 (4)	105 (18)	173 (21)	287 (22)
大分県	8 (31)	7 (27)	1 (34)	0 (4)	76 (19)	105 (37)	189 (33)
宮崎県	23 (14)	20 (14)	3 (21)	0 (4)	130 (16)	139 (28)	292 (20)
鹿児島県	36 (13)	30 (12)	6 (12)	0 (4)	127 (17)	172 (22)	335 (19)
沖縄県	14 (19)	10 (18)	4 (14)	0 (4)	284 (12)	55 (44)	353 (16)
計	1,498	1,217	276	5	13,171	17,985	32,654

注 1：数値横のカッコ内は順位

注 2：都道府県合計には、不明を含む

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(2) 事故に関わる営業所の位置（都道府県）別の交通死亡事故件数

〔表 24〕 事故に関わる営業所の位置（都道府県）別の交通死亡事故件数（件）（平成29年）

事業の種類 都道府県	バス				タクシー	トラック	計
		乗合	貸切	その他			
北海道	2 (2)	1 (2)	1 (1)	0 (2)	1 (8)	9 (11)	12 (10)
青森県	0 (11)	0 (10)	0 (3)	0 (2)	0 (18)	3 (27)	3 (29)
岩手県	0 (11)	0 (10)	0 (3)	0 (2)	0 (18)	6 (17)	6 (18)
宮城県	0 (11)	0 (10)	0 (3)	0 (2)	0 (18)	5 (18)	5 (19)
秋田県	0 (11)	0 (10)	0 (3)	0 (2)	0 (18)	2 (31)	2 (34)
山形県	0 (11)	0 (10)	0 (3)	0 (2)	0 (18)	1 (41)	1 (42)
福島県	1 (4)	1 (2)	0 (3)	0 (2)	1 (8)	7 (14)	9 (12)
茨城県	0 (11)	0 (10)	0 (3)	0 (2)	0 (18)	9 (11)	9 (12)
栃木県	0 (11)	0 (10)	0 (3)	0 (2)	0 (18)	1 (41)	1 (42)
群馬県	0 (11)	0 (10)	0 (3)	0 (2)	0 (18)	4 (20)	4 (22)
埼玉県	2 (2)	1 (2)	0 (3)	1 (1)	4 (4)	15 (2)	21 (2)
千葉県	1 (4)	1 (2)	0 (3)	0 (2)	4 (4)	13 (6)	18 (4)
東京都	1 (4)	1 (2)	0 (3)	0 (2)	6 (1)	14 (4)	21 (2)
神奈川県	3 (1)	3 (1)	0 (3)	0 (2)	1 (8)	14 (4)	18 (4)
新潟県	0 (11)	0 (10)	0 (3)	0 (2)	0 (18)	5 (18)	5 (19)
富山県	0 (11)	0 (10)	0 (3)	0 (2)	0 (18)	3 (27)	3 (29)
石川県	0 (11)	0 (10)	0 (3)	0 (2)	0 (18)	2 (31)	2 (34)
福井県	0 (11)	0 (10)	0 (3)	0 (2)	0 (18)	2 (31)	2 (34)
山梨県	0 (11)	0 (10)	0 (3)	0 (2)	0 (18)	1 (41)	1 (42)
長野県	0 (11)	0 (10)	0 (3)	0 (2)	1 (8)	2 (31)	3 (29)
岐阜県	0 (11)	0 (10)	0 (3)	0 (2)	0 (18)	2 (31)	2 (34)
静岡県	0 (11)	0 (10)	0 (3)	0 (2)	0 (18)	7 (14)	7 (16)
愛知県	1 (4)	0 (10)	1 (1)	0 (2)	0 (18)	12 (9)	13 (8)
三重県	0 (11)	0 (10)	0 (3)	0 (2)	0 (18)	4 (20)	4 (22)
滋賀県	0 (11)	0 (10)	0 (3)	0 (2)	0 (18)	2 (31)	2 (34)
京都府	0 (11)	0 (10)	0 (3)	0 (2)	0 (18)	8 (13)	8 (14)
大阪府	1 (4)	1 (2)	0 (3)	0 (2)	5 (2)	36 (1)	42 (1)
兵庫県	1 (4)	1 (2)	0 (3)	0 (2)	0 (18)	15 (2)	16 (7)
奈良県	0 (11)	0 (10)	0 (3)	0 (2)	0 (18)	2 (31)	2 (34)
和歌山県	0 (11)	0 (10)	0 (3)	0 (2)	0 (18)	0 (45)	0 (45)
鳥取県	0 (11)	0 (10)	0 (3)	0 (2)	0 (18)	0 (45)	0 (45)
島根県	0 (11)	0 (10)	0 (3)	0 (2)	0 (18)	2 (31)	2 (34)
岡山県	0 (11)	0 (10)	0 (3)	0 (2)	1 (8)	11 (10)	12 (10)
広島県	0 (11)	0 (10)	0 (3)	0 (2)	1 (8)	7 (14)	8 (14)
山口県	0 (11)	0 (10)	0 (3)	0 (2)	0 (18)	2 (31)	2 (34)
徳島県	0 (11)	0 (10)	0 (3)	0 (2)	0 (18)	0 (45)	0 (45)
香川県	0 (11)	0 (10)	0 (3)	0 (2)	1 (8)	4 (20)	5 (19)
愛媛県	0 (11)	0 (10)	0 (3)	0 (2)	0 (18)	13 (6)	13 (8)
高知県	0 (11)	0 (10)	0 (3)	0 (2)	1 (8)	2 (31)	3 (29)
福岡県	0 (11)	0 (10)	0 (3)	0 (2)	5 (2)	13 (6)	18 (4)
佐賀県	0 (11)	0 (10)	0 (3)	0 (2)	0 (18)	4 (20)	4 (22)
長崎県	0 (11)	0 (10)	0 (3)	0 (2)	1 (8)	3 (27)	4 (22)
熊本県	0 (11)	0 (10)	0 (3)	0 (2)	0 (18)	4 (20)	4 (22)
大分県	0 (11)	0 (10)	0 (3)	0 (2)	0 (18)	4 (20)	4 (22)
宮崎県	1 (4)	1 (2)	0 (3)	0 (2)	2 (6)	4 (20)	7 (16)
鹿児島県	0 (11)	0 (10)	0 (3)	0 (2)	1 (8)	3 (27)	4 (22)
沖縄県	0 (11)	0 (10)	0 (3)	0 (2)	2 (6)	1 (41)	3 (29)
計	15	11	3	1	39	289	343

注 1：数値横のカッコ内は順位

注 2：都道府県合計には、不明を含む

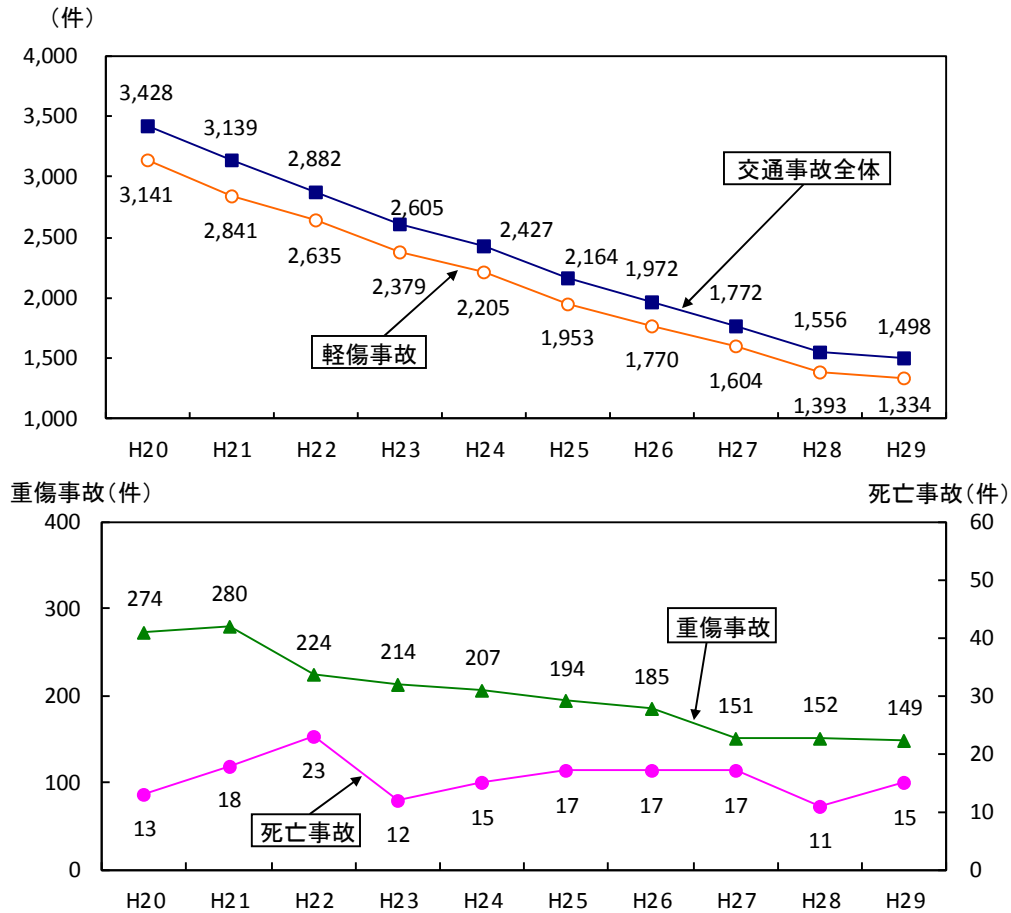
出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

## 2. バスの事故

### (1) バスの事故件数、死傷事故件数の推移

バスによる事故は、総件数及び軽傷事故件数は減少している。重傷事故件数は平成29年は前年と同程度、死亡事故件数は11件～23件の間で推移しており、減少傾向は見られない。

〔図 24〕 バスの全事故及び死傷事故件数の推移



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 25〕 バスの事故件数の推移（件）

区分 年	死亡事故	重傷事故	軽傷事故	交通事故全体
H20	13	274	3,141	3,428
H21	18	280	2,841	3,139
H22	23	224	2,635	2,882
H23	12	214	2,379	2,605
H24	15	207	2,205	2,427
H25	17	194	1,953	2,164
H26	17	185	1,770	1,972
H27	17	151	1,604	1,772
H28	11	152	1,393	1,556
H29	15	149	1,334	1,498

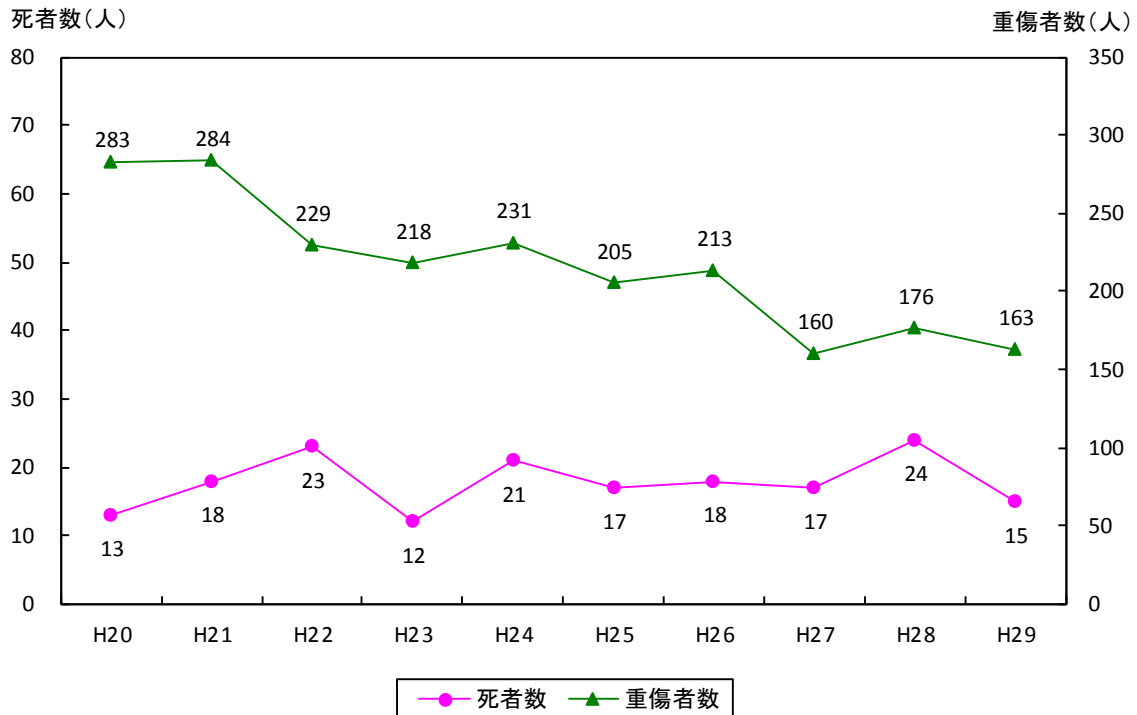
※バス種別区分の乗合、貸切、その他の合計値

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

## (2) バス事故の死傷者数の推移

バスの事故による重傷者数は減少傾向にあり、前年より13人減少した。死者数は12人～24人の間で推移しており、減少傾向は見られない。

〔図 25〕 バス事故の死傷者数の推移



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 26〕 バスの死傷者数の推移(人)

区分 年	死者数	重傷者数	軽傷者数	死傷者合計
H20	13	283	3,951	4,247
H21	18	284	3,517	3,819
H22	23	229	3,300	3,552
H23	12	218	3,090	3,320
H24	21	231	2,831	3,083
H25	17	205	2,650	2,872
H26	18	213	2,355	2,586
H27	17	160	2,148	2,325
H28	24	176	1,923	2,123
H29	15	163	1,748	1,926

※バス種別区分の乗合、貸切、その他の合計値

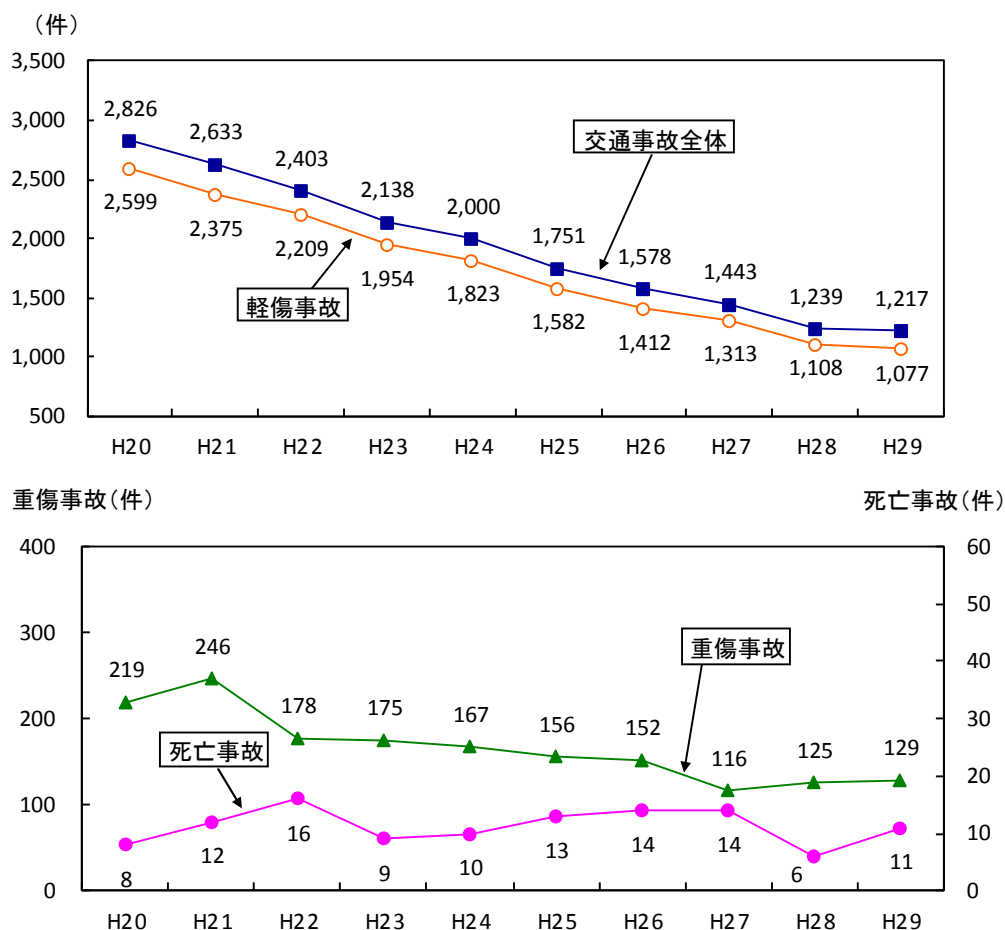
出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

## 2-1. 乗合バスの事故

### (1) 乗合バスの事故件数、死傷事故件数の推移

乗合バスによる事故件数は、全体では減少傾向にある。重傷事故件数は減少傾向にあったものの近年は増加している。死亡事故件数は6件～16件の間で推移しており、減少傾向は見られない。

〔図 26〕 乗合バスの全事故及び死傷事故件数の推移



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 27〕 乗合バスの事故件数の推移（件）

年 \ 区分	死亡事故	重傷事故	軽傷事故	交通事故全体
H20	8	219	2,599	2,826
H21	12	246	2,375	2,633
H22	16	178	2,209	2,403
H23	9	175	1,954	2,138
H24	10	167	1,823	2,000
H25	13	156	1,582	1,751
H26	14	152	1,412	1,578
H27	14	116	1,313	1,443
H28	6	125	1,108	1,239
H29	11	129	1,077	1,217

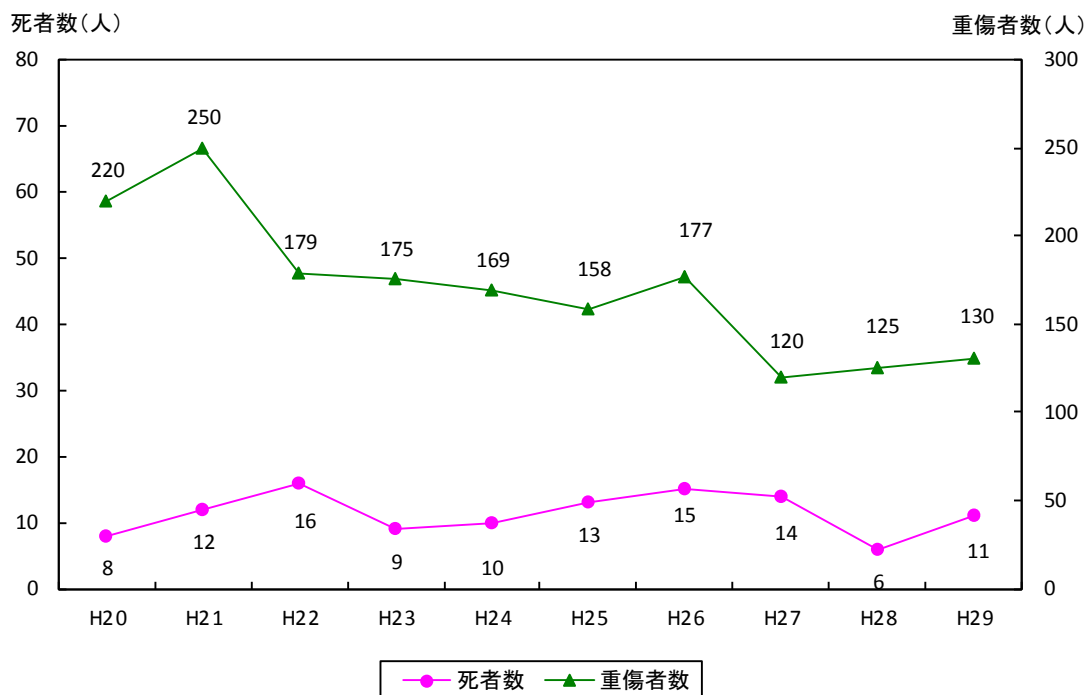
出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」



## (2) 乗合バス事故の死傷者数の推移

乗合バスの事故のうち重傷者数は近年増加しており、死者数は 6～16 人で推移しており、減少傾向はみられない。

〔図 27〕 乗合バス事故の死傷者数の推移



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 28〕 乗合バス事故の死傷者数の推移（人）

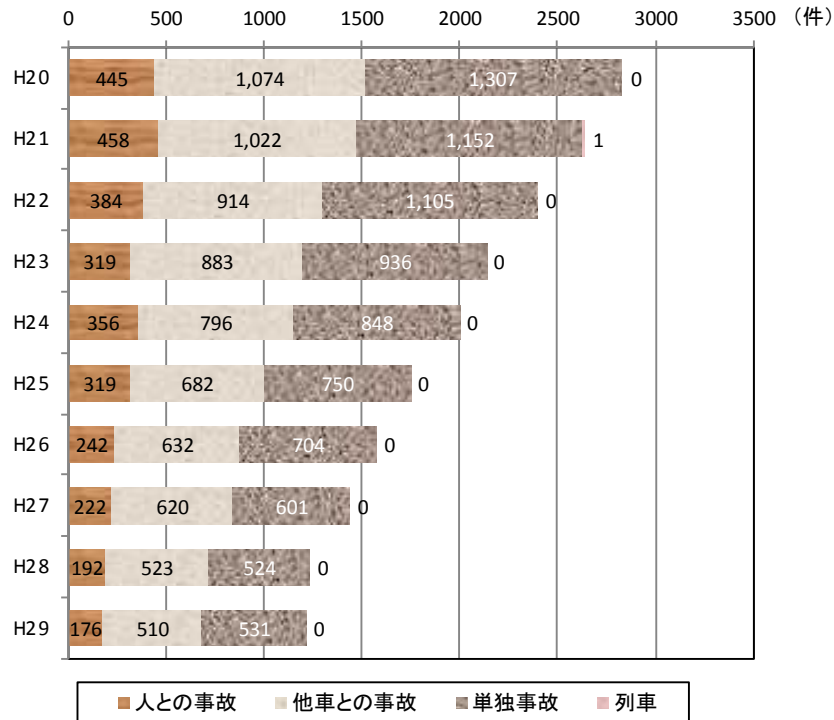
区分 年	死者数	重傷者数	軽傷者数	死傷者合計
H20	8	220	3,043	3,271
H21	12	250	2,821	3,083
H22	16	179	2,653	2,848
H23	9	175	2,326	2,510
H24	10	169	2,139	2,318
H25	13	158	1,895	2,066
H26	15	177	1,741	1,933
H27	14	120	1,605	1,739
H28	6	125	1,351	1,482
H29	11	130	1,311	1,452

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

### (3) 乗合バスの事故類型別事故件数

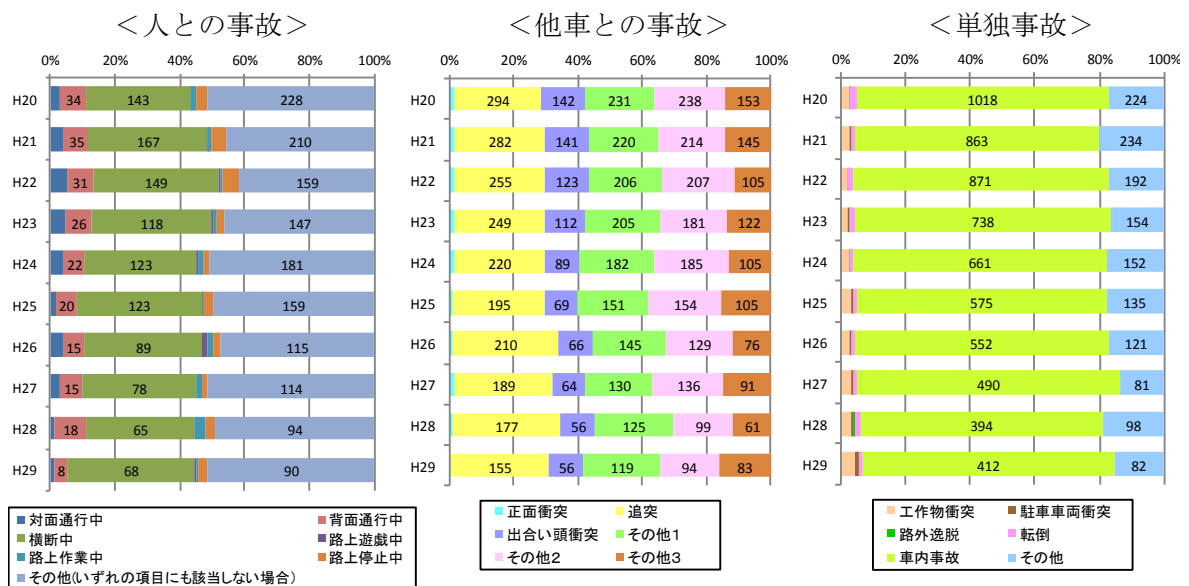
乗合バスの事故類型は単独事故が最多となっている。単独事故の大半は車内事故が占めている。

〔図 28〕 乗合バスの事故類型別事故件数



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 29〕 乗合バスの事故類型別事故件数の内訳



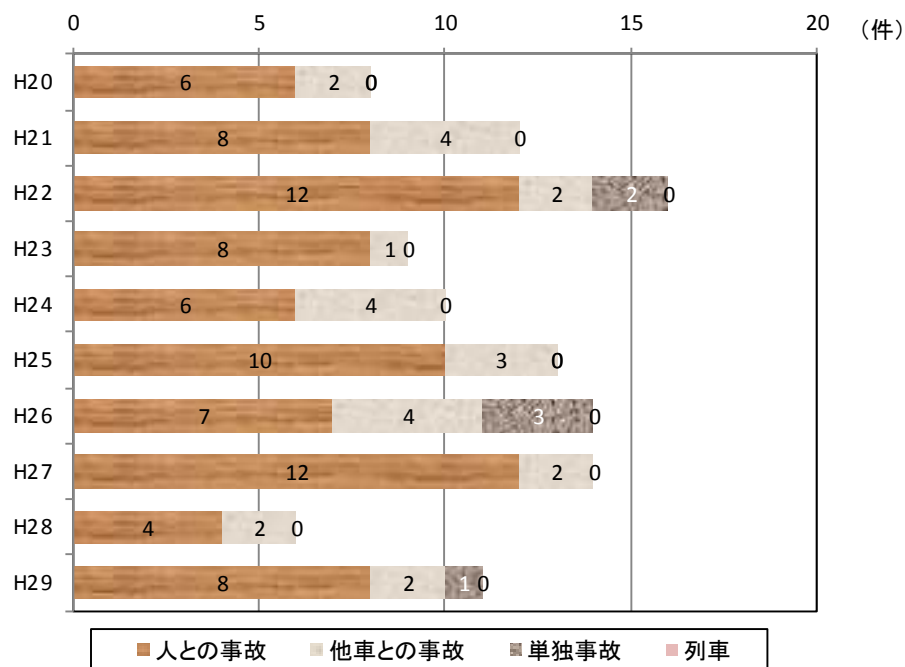
その他 1・・・追越・追抜時衝突、進路変更時衝突  
 その他 2・・・すれ違い時衝突、左折衝突、右折時衝突  
 その他 3・・・横断時衝突、転回時衝突、後退時衝突、その他

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故」

#### (4) 乗合バスの事故類型別死亡事故件数

事故類型別死亡事故件数は、人との事故が大半を占めている。

〔図 30〕 乗合バスの事故類型別死亡事故件数

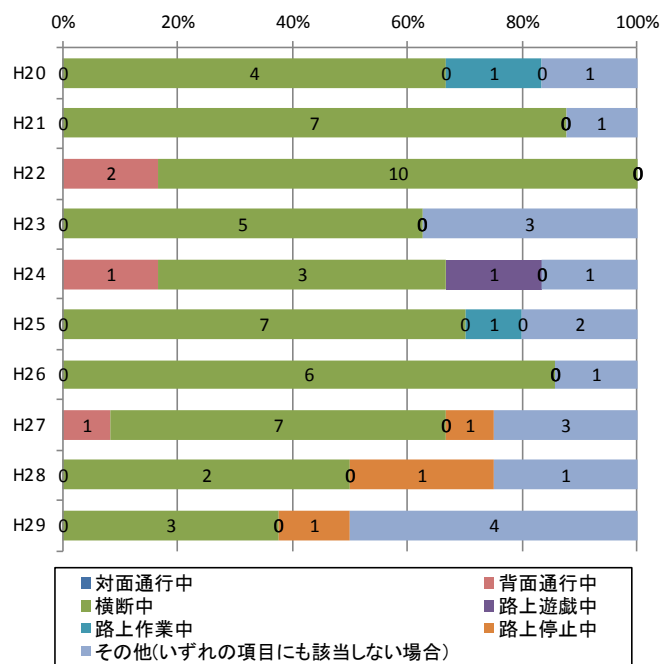


出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

#### (5) 乗合バスの事故類型別死亡事故件数の内訳（人との事故）

人との死亡事故は、歩行者が横断中に発生する件数が多い。

〔図 31〕 乗合バスの事故類型別死亡事故件数の内訳（人との事故）



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

## (6) 乗合バスの事故類型別死亡事故件数の内訳（他車との事故）

他車との事故における死亡事故は、平成20年以降は2件～4件にとどまっている。

〔表 29〕 乗合バスの事故類型別死亡事故件数の内訳（件）（他車との事故）

年\区分	正面衝突	追突	出合い頭衝突	その他1	その他2	その他3
H20	0	0	0	1	1	0
H21	0	0	1	2	0	1
H22	0	0	0	1	1	0
H23	0	0	1	0	0	0
H24	1	0	2	0	1	0
H25	0	0	1	0	2	0
H26	0	1	1	0	2	0
H27	0	0	0	0	1	1
H28	0	1	0	0	1	0
H29	0	0	0	1	1	0

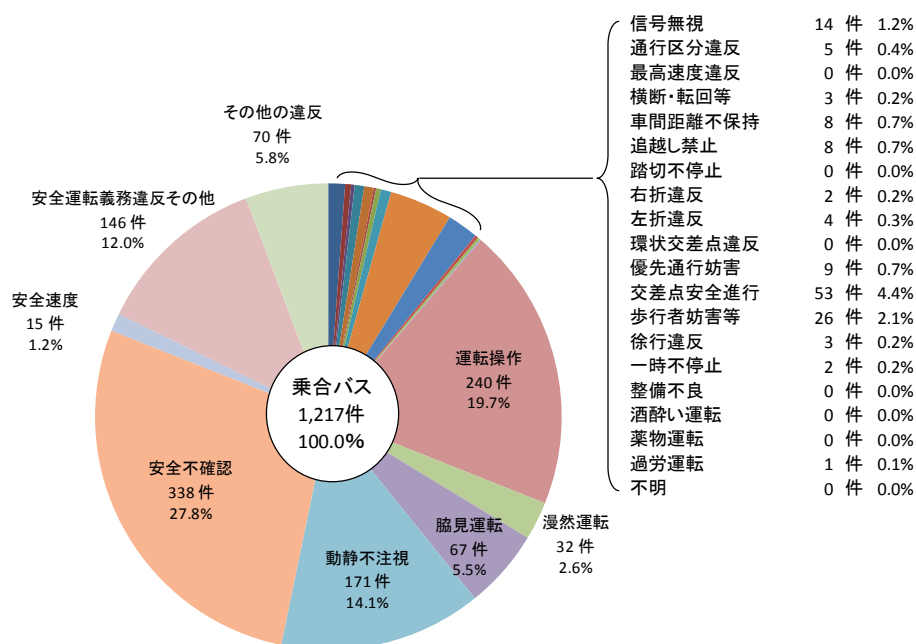
その他1・・・追越・追抜時衝突、進路変更時衝突  
 その他2・・・すれ違い時衝突、左折衝突、右折時衝突  
 その他3・・・横断時衝突、転回時衝突、後退時衝突、その他

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故」

## (7) 乗合バスの事故の法令違反別の事故件数の割合

乗合バスでは、「安全不確認」338件（27.8%）、「運転操作」240件（19.7%）、「動静不注視」171件（14.1%）といった法令違反の事故が多い。「運転操作」は車内事故発生の要因の一つと考えられる。

〔図 32〕 乗合バスの事故の法令違反別の事故件数の割合（平成29年）

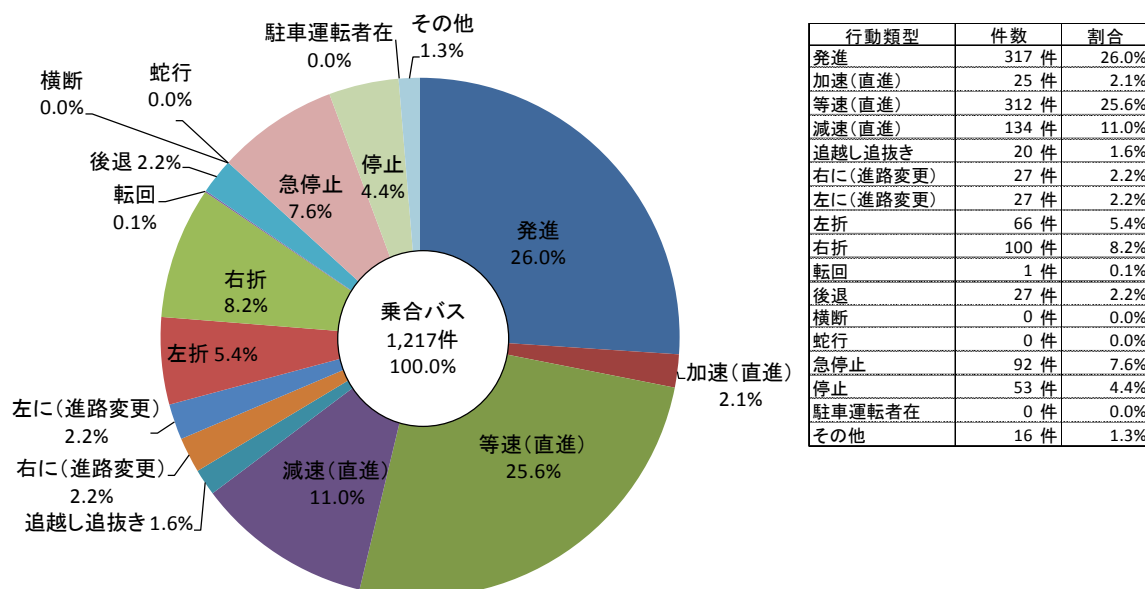


出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

### (8) 乗合バスの行動類型別事故件数の割合

乗合バスの行動類型別事故の割合は、発進時317件（26.0%）が最も多く、次いで等速312件（25.6%）となっている。

〔図 33〕 乗合バスの行動類型別事故件数の割合（平成29年）



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

# (9) 乗合バスの事故類型別、衝突地点別事故件数

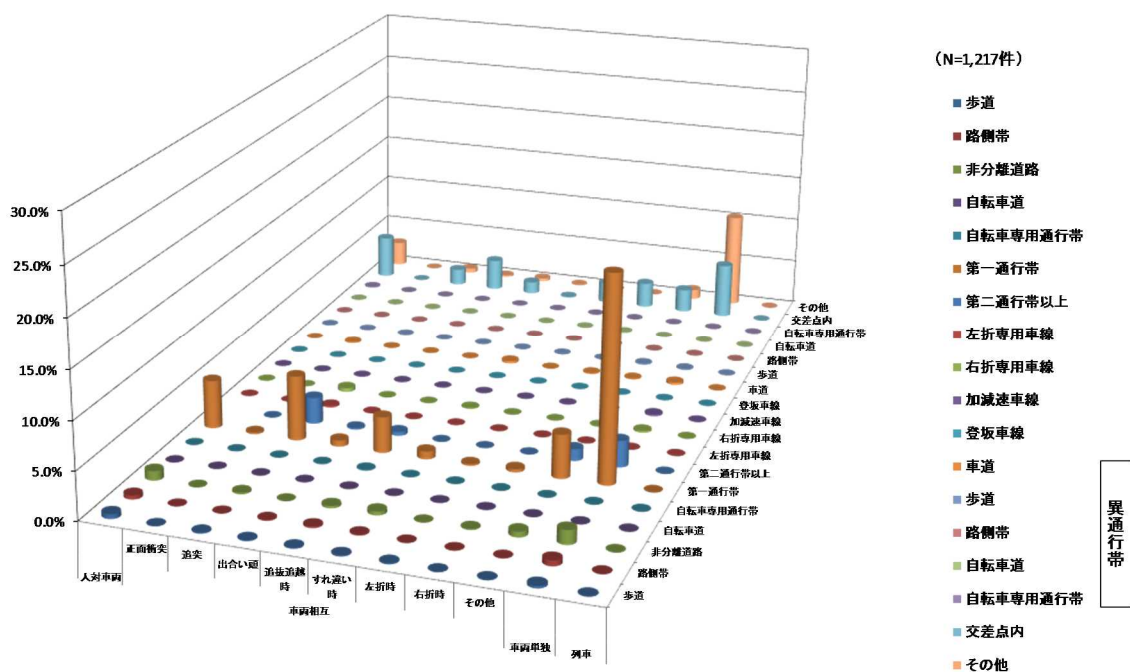
乗合バスの事故類型別、衝突地点別事故件数と構成比をそれぞれ表30、図34に、死亡事故件数と構成比を表31、図35に示す。事故件数については、第一通行帯での単独事故262件(21.5%)が最も多く、死亡事故件数については、件数が少ないため、大きな特徴は見られない。

〔表 30〕 乗合バスの事故類型別、衝突地点別事故件数 (件) (平成29年)

		バス											
		乗合											合計
		人対車両	車両相互								車両単独	列車	
単路 (交差点付近を含む)	歩道	6	0	1	1	1	1	1	0	0	3	0	14
	路側帯	5	0	0	1	2	1	0	0	0	7	0	16
	非分離道路	12	0	2	0	3	5	0	1	7	18	0	48
	自転車道	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	自転車専用通行帯	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	第一通行帯	62	2	83	8	46	10	2	4	56	262	0	535
	第二通行帯以上	0	0	34	2	5	0	0	0	15	34	0	90
	左折専用車線	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	右折専用車線	0	0	5	0	0	1	0	0	0	2	0	8
	加減速車線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2
	登坂車線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	車道	0	1	0	0	0	3	0	1	1	3	0	9
	歩道	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2
	路側帯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
異通行帯	自転車道	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	自転車専用通行帯	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	交差点内	57	0	22	42	16	1	28	34	31	73	0	304
	その他	33	0	6	2	4	1	0	0	13	126	0	185
	合計	176	3	155	56	78	23	31	40	124	531	0	1,217

出典：(公財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 34〕 乗合バスの事故類型別、衝突地点別事故件数の構成比 (%) (平成 29 年)



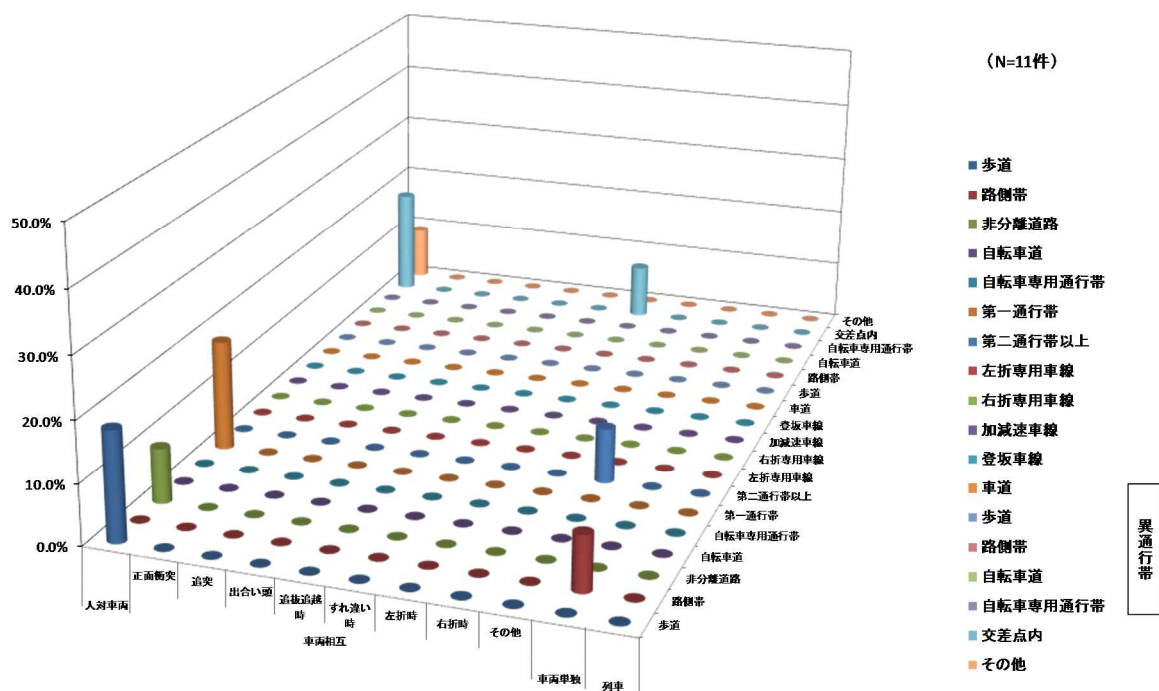
出典：(公財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 31〕 乗合バスの事故類型別、衝突地点別死亡事故件数（件）（平成29年）

		バス											
		乗合											
		人対車両	車両相互								車両単独	列車	合計
			正面衝突	追突	出会い頭	追抜追越時	すれ違い時	左折時	右折時	その他			
単路（交差点付近を含む）	歩道	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	路側帯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	非分離道路	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	自転車道	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	自転車専用通行帯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	第一通行帯	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	第二通行帯以上	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	左折専用車線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	右折専用車線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	加減速車線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	登坂車線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	車道	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	歩道	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	路側帯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	自転車道	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
異通行帯	自転車専用通行帯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	交差点内	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	3
	その他	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	合計	8	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	11

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 35〕 乗合バスの事故類型別、衝突地点別死亡事故件数の構成比（％）（平成29年）



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

# (10) 乗合バスの事故類型別、行動類型別事故件数

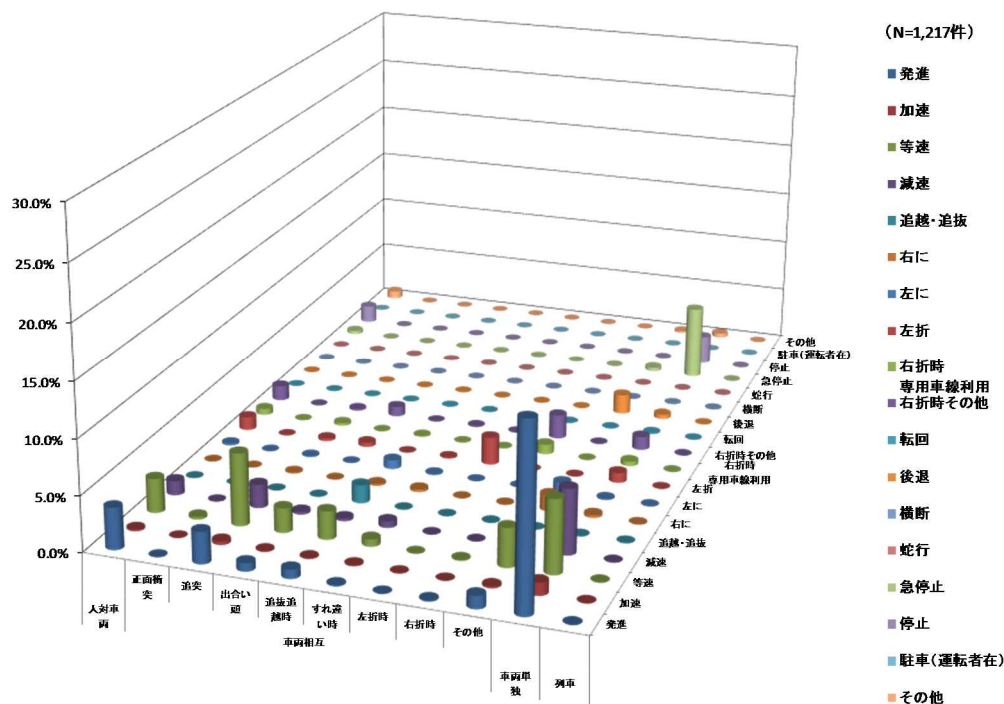
乗合バスの事故類型別、行動類型別事故件数と構成比をそれぞれ表32と図36に、死亡事故件数とその構成比をそれぞれ表33と図37に示す。事故件数については、発進時の単独事故201件（16.5%）が最も多く、死亡事故件数については、件数が少ないため、大きな特徴は見られない。

〔表 32〕 乗合バスの事故類型別、行動類型別事故件数（件）（平成29年）

		バス											
		乗合											
		人対車両	車両相互							車両単独	列車	合計	
正面衝突	追突		出会い頭	追抜追越時	すれ違い時	左折時	右折時	その他					
発進		46	0	35	9	10	1	0	1	14	201	0	317
直進	加速	2	0	4	1	1	1	0	0	2	14	0	25
	等速	38	3	80	27	31	8	0	1	43	81	0	312
	減速	16	0	26	3	3	7	0	0	7	72	0	134
追越・追抜		0	0	0	0	20	0	0	0	0	0	0	20
進路変更	右に	0	0	1	0	2	3	0	0	18	3	0	27
	左に	2	0	1	0	10	1	0	0	12	1	0	27
左折		15	0	3	5	0	1	31	0	0	11	0	66
右折時	専用車線利用	7	0	3	0	1	0	0	11	0	5	0	27
	その他	17	0	2	11	0	1	0	27	0	15	0	73
転回		0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
後退		0	0	0	0	0	0	0	0	22	5	0	27
横断		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
蛇行		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
急停止		4	0	0	0	0	0	0	0	4	84	0	92
停止		20	0	0	0	0	0	0	0	0	33	0	53
駐車(運転者在)		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他		9	0	0	0	0	0	0	0	2	5	0	16
合計		176	3	155	56	78	23	31	40	124	531	0	1,217

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 36〕 乗合バスの事故類型別、行動類型別事故件数の構成比（%）（平成29年）



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

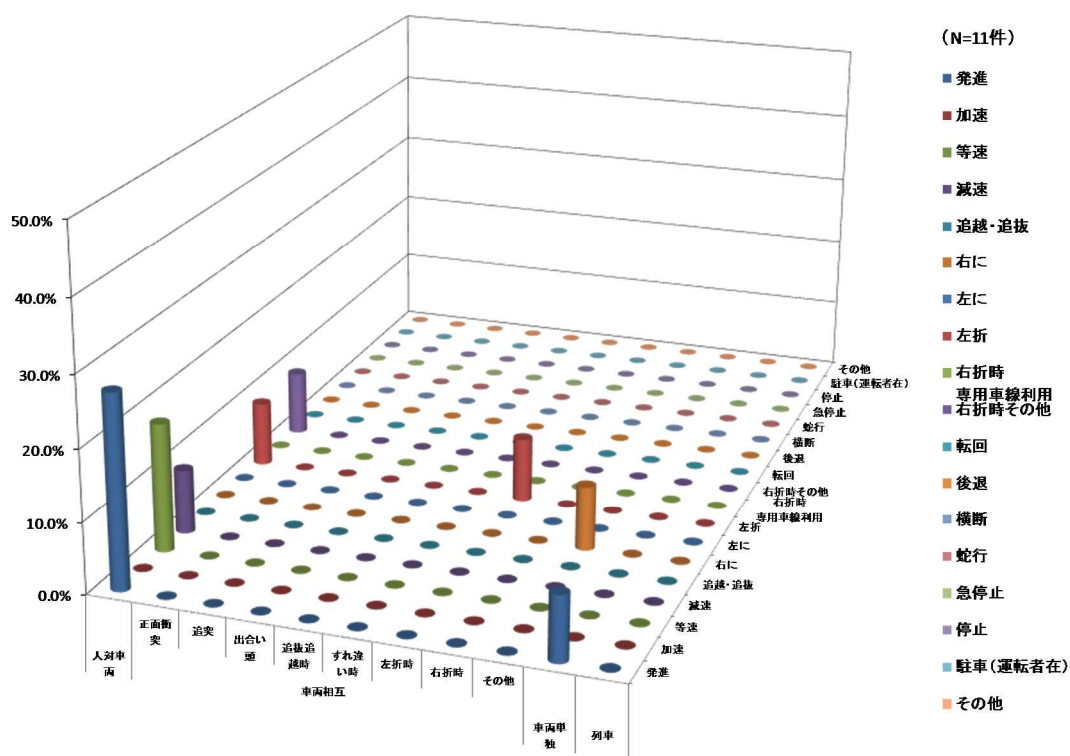


〔表 33〕 乗合バスの事故類型別、行動類型別死亡事故件数（件）（平成29年）

		バス											
		乗合											
		人対車両	車両相互							車両単独	列車	合計	
正面衝突	追突		出会い頭	追抜追越時	すれ違い時	左折時	右折時	その他					
発進		3	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	4
直進	加速	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	等速	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	減速	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
追越・追抜		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
進路変更	右に	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	左に	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
左折		1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2
右折時	専用車線利用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
転回		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
後退		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
横断		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
蛇行		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
急停止		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
停止		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
駐車（運転者在）		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		8	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	11

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 37〕 乗合バスの事故類型別、行動類型別死亡事故件数の構成比（％）（平成29年）



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

# (11) 乗合バスの行動類型別、車内事故件数の推移

乗合バスの車内事故件数は、平成22年を除き減少傾向であったが、平成29年は増加し、412件となった。平成20年から約10年で4割程度まで下がったが、事故件数は依然深刻な事態であることを示している。

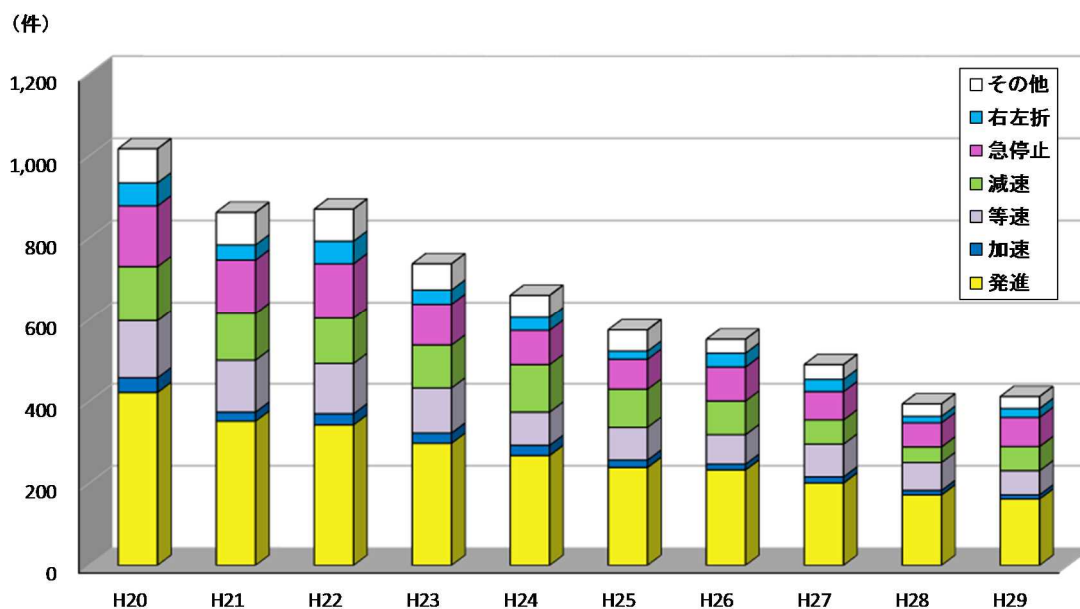
また、平成29年に発生した車内事故412件のうち、行動類型別にみると、やはり発進時が最も多く162件（39.3%）となっており、次いで急停止時71件（17.2%）となっている。

〔表 34〕 乗合バスの行動類型別、車内事故件数の推移（件）

年		H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
区分											
発 進		422	352	343	298	268	239	233	201	172	162
直 進	加速	36	22	27	25	25	18	14	15	11	10
	等速	140	127	123	110	81	80	72	80	68	59
	減速	133	115	111	105	116	93	82	59	38	59
急停止		148	131	134	101	84	73	83	69	59	71
右左折		56	37	55	35	32	20	34	30	16	22
その他		83	79	78	64	55	52	34	36	30	29
合 計		1,018	863	871	738	661	575	552	490	394	412

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 38〕 乗合バスの行動類型別、車内事故件数の推移

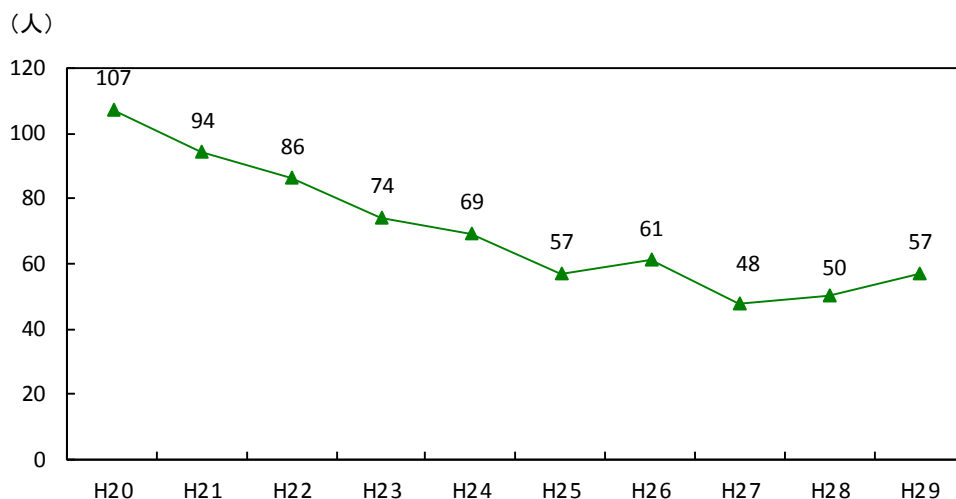


出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

## (12) 乗合バスの車内事故による重傷者数の推移

乗合バスの車内事故による重傷者数は、平成29年は前年と比べて7人増加している。

〔図 39〕 乗合バスの車内事故による重傷者数の推移

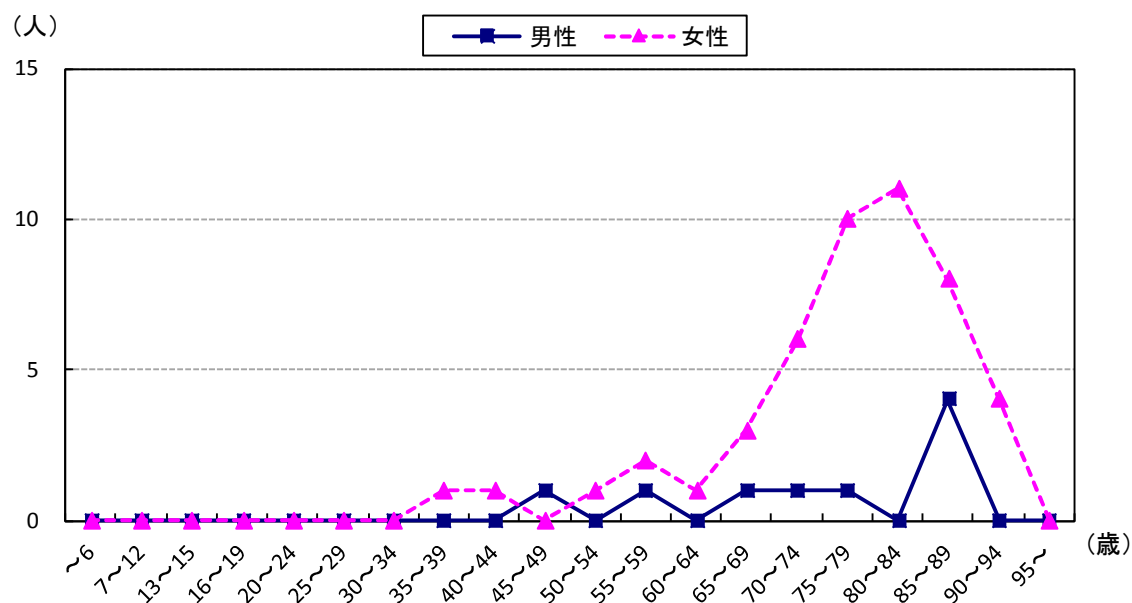


出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

## (13) 乗合バスの車内事故による重傷者数の男女別年齢分布

乗合バスの車内事故による重傷者数を性・年齢別にみると、女性の65歳以上から多くなり、80歳～84歳が11人と最も多く前年と同様の傾向である。

〔図 40〕 乗合バスの車内事故による重傷者数の男女別年齢分布（平成29年）

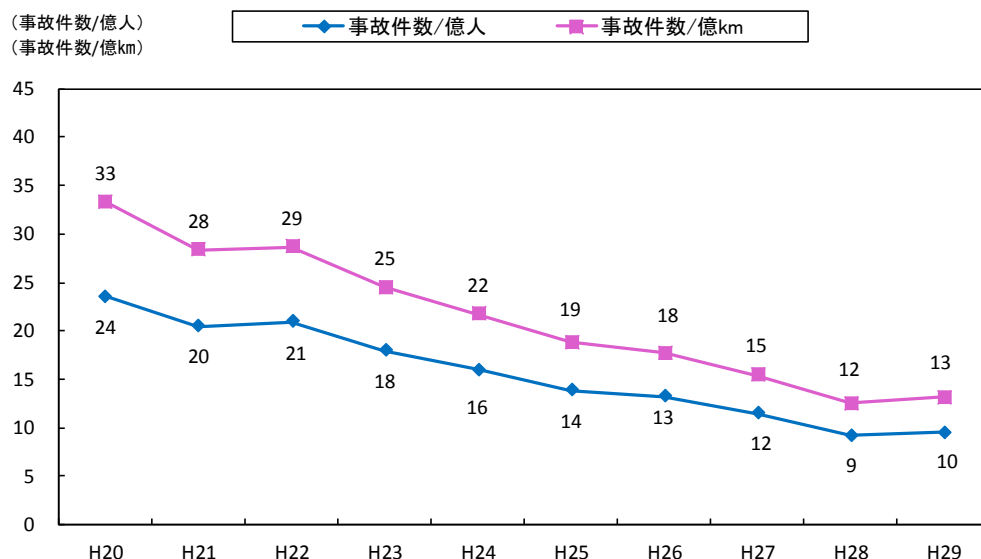


出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

#### (14) 乗合バスの 輸送人員 1 億人あたり及び走行距離 1 億キロあたり車内事故件数

輸送人員 1 億人あたり及び走行距離 1 億キロあたり乗合バスの車内事故件数をみると、減少傾向である。輸送人員と走行距離にはほぼ変化がないことから、車内事故件数自体が減っていることを示している。

〔図 41〕 乗合バスの輸送人員 1 億人あたり及び走行距離 1 億キロあたり車内事故件数の推移



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」  
国土交通省「自動車輸送統計調査」「自動車燃料消費量調査」

〔表 35〕 乗合バスの車内事故件数、輸送人員及び走行距離の推移

	事故件数(件)	輸送人員(億人)	走行距離(億km)
H20	1,018	43	31
H21	863	42	30
H22	871	42	30
H23	738	41	30
H24	661	41	30
H25	575	42	31
H26	552	42	31
H27	490	43	32
H28	394	43	32
H29	412	43	31

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」  
国土交通省「自動車輸送統計調査」「自動車燃料消費量調査」

# (15) 乗合バスの車内事故件数の事故種類別時間帯分布

乗合バスの車内事故件数を時間帯別にみると、8時～17時台の日中の時間帯に多く発生している。

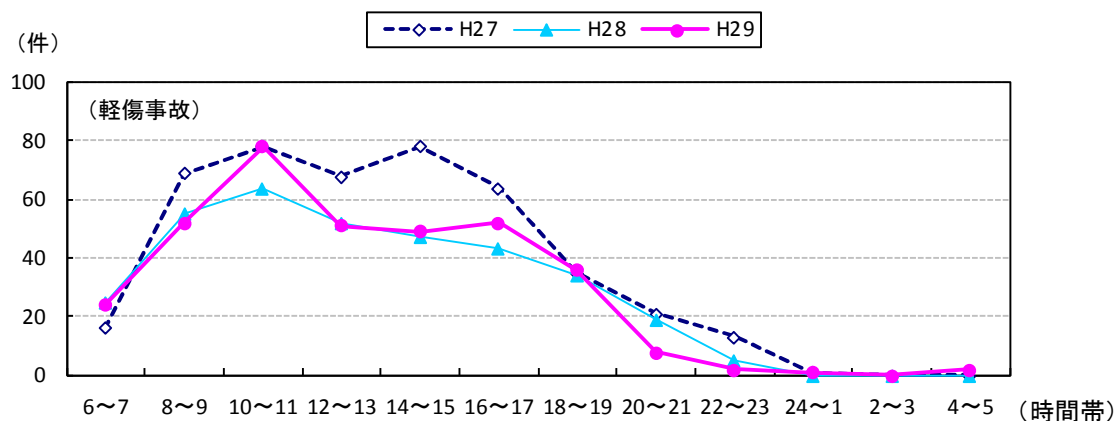
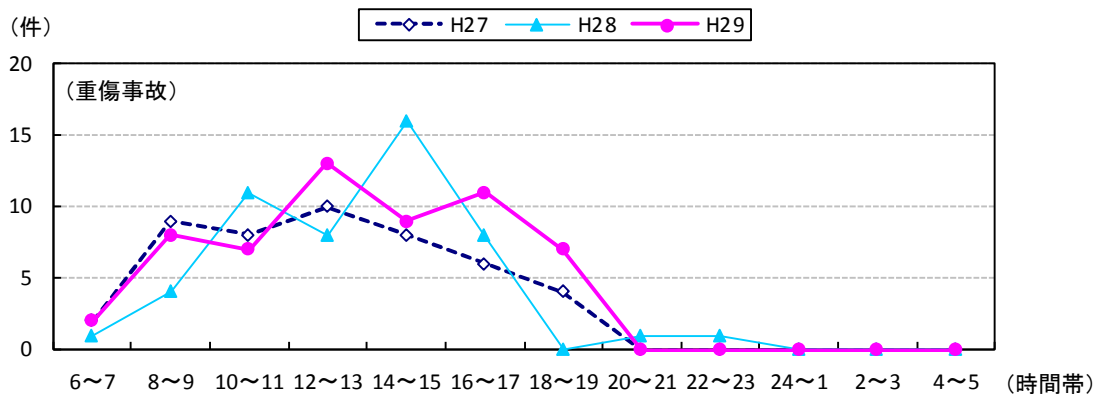
〔表 36〕 乗合バス車内事故件数の事故種類別時間帯分布（平成29年）

時間帯	重傷事故	軽傷事故	負傷事故計
6～7	2	24	26
8～9	8	52	60
10～11	7	78	85
12～13	13	51	64
14～15	9	49	58
16～17	11	52	63
18～19	7	36	43
20～21	0	8	8
22～23	0	2	2
24～1	0	1	1
2～3	0	0	0
4～5	0	2	2
合計	57	355	412

※運転者が負傷した事故を含む。

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 42〕 乗合バス車内事故件数の事故種類別時間帯分布



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

# (16) 乗合バスの車内事故による事故種別別負傷者数の年齢分布

乗合バスの車内事故による負傷者数を年齢層別にみると、80歳～84歳が最も多く、65歳以上が243人（54.0%）と高齢者が過半数を占めている。

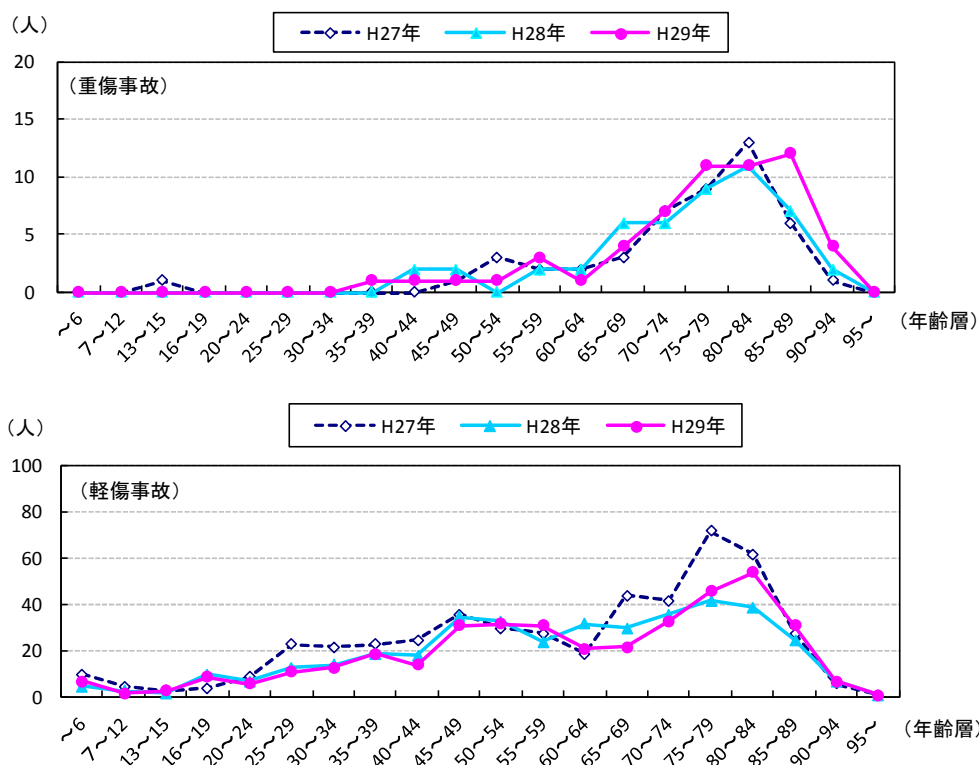
さらに重傷者数は65歳以上が57人中49人（86.0%）で、やはり高齢者の比率の高さが顕著となっている。

〔表 37〕 乗合バスの車内事故による事故種別別負傷者数の年齢分布（人）（平成29年）

年齢層	重傷者数	軽傷者数	負傷者計
～ 6	0	7	7
7～12	0	2	2
13～15	0	3	3
16～19	0	9	9
20～24	0	6	6
25～29	0	11	11
30～34	0	13	13
35～39	1	19	20
40～44	1	14	15
45～49	1	31	32
50～54	1	32	33
55～59	3	31	34
60～64	1	21	22
65～69	4	22	26
70～74	7	33	40
75～79	11	46	57
80～84	11	54	65
85～89	12	31	43
90～94	4	7	11
95～	0	1	1
合計	57	393	450

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 43〕 乗合バスの車内事故による事故種別別負傷者数の年齢分布



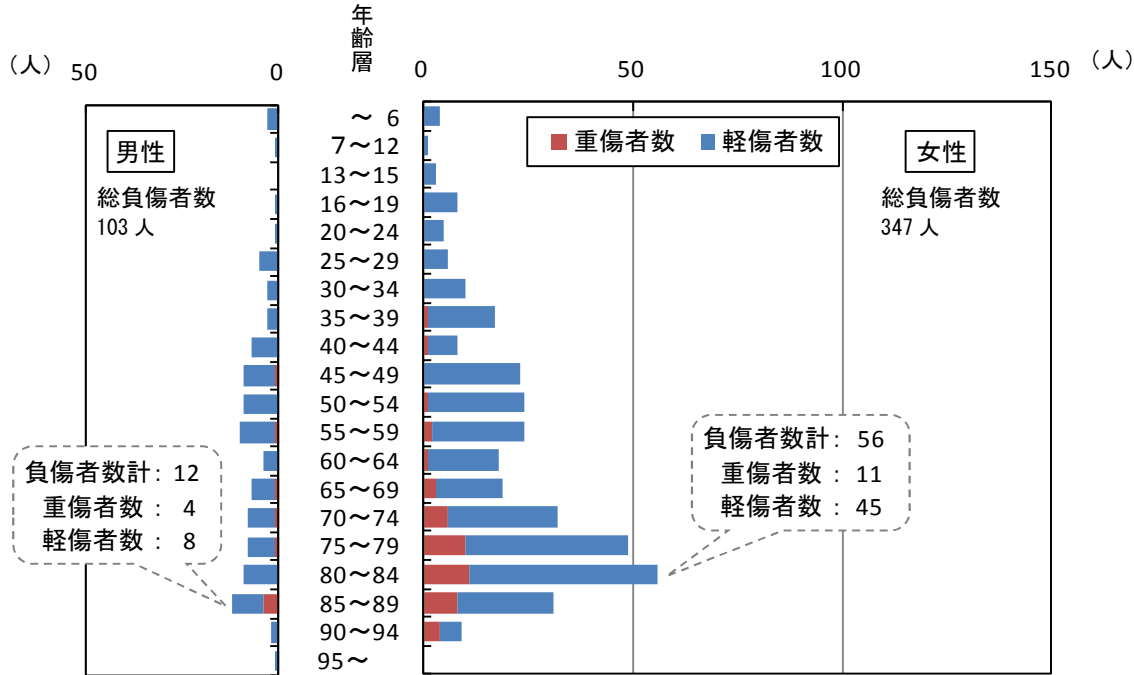
出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

乗合バスの車内事故による負傷者数を男女年齢層別にみると、男性は85歳～89歳が12人（11.7%）と最も多く（うち重傷者数は4人）、65歳以上が47人（45.6%）と高齢者が多い傾向にある。

女性では80歳～84歳が56人（16.1%）と最も多く（うち重傷者数は11人）、65歳以上が196人（56.5%）とやはり高齢者が過半数を占めている。

また、性別では男性より女性の負傷者数が大幅に多く、女性の負傷者数（347人）が男性の負傷者数（103人）の3倍強となっている。

〔図 44〕 乗合バスの車内事故による男女別年齢層別負傷者数（平成29年）



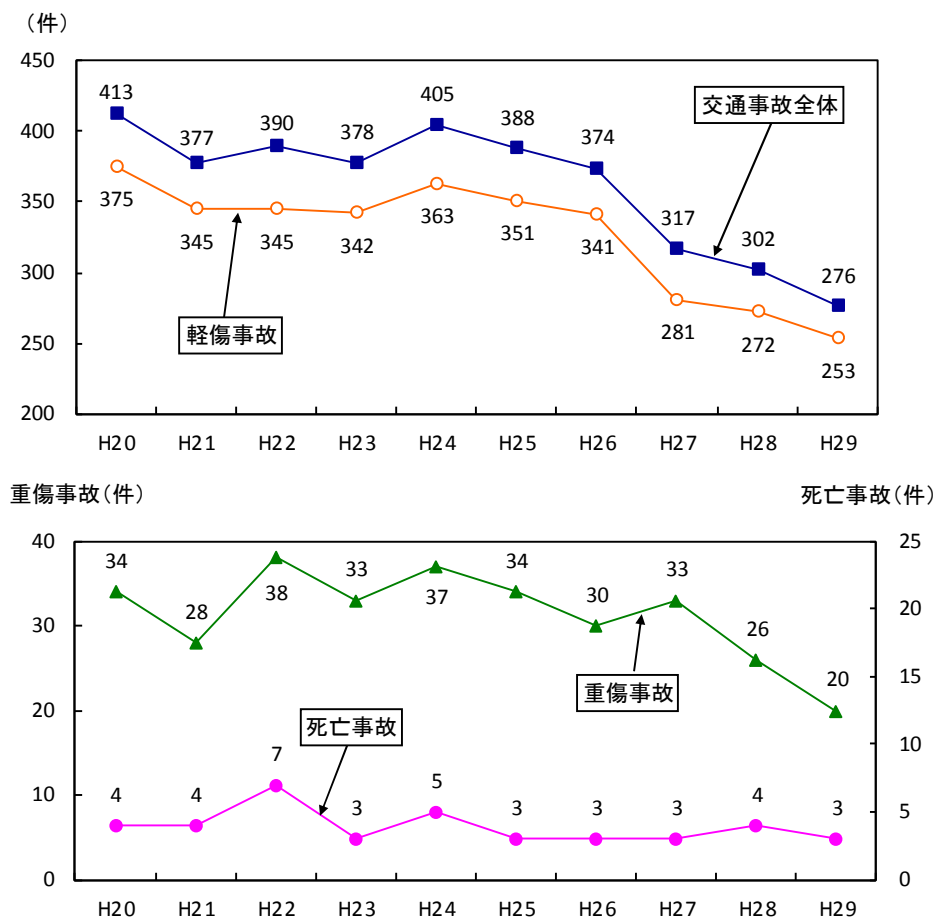
出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

## 2-2. 貸切バスの事故

### (1) 貸切バスの事故件数、死傷事故件数の推移

貸切バスの事故件数は平成21年～平成26年は横ばいで推移していたが、平成27年から減少傾向となっており、特に重傷事故件数が減少している。

〔図 45〕 貸切バスの全事故及び死傷事故件数の推移



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 38〕 貸切バスの事故件数（件）

区分 年	死亡事故	重傷事故	軽傷事故	交通事故全体
H20	4	34	375	413
H21	4	28	345	377
H22	7	38	345	390
H23	3	33	342	378
H24	5	37	363	405
H25	3	34	351	388
H26	3	30	341	374
H27	3	33	281	317
H28	4	26	272	302
H29	3	20	253	276

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」



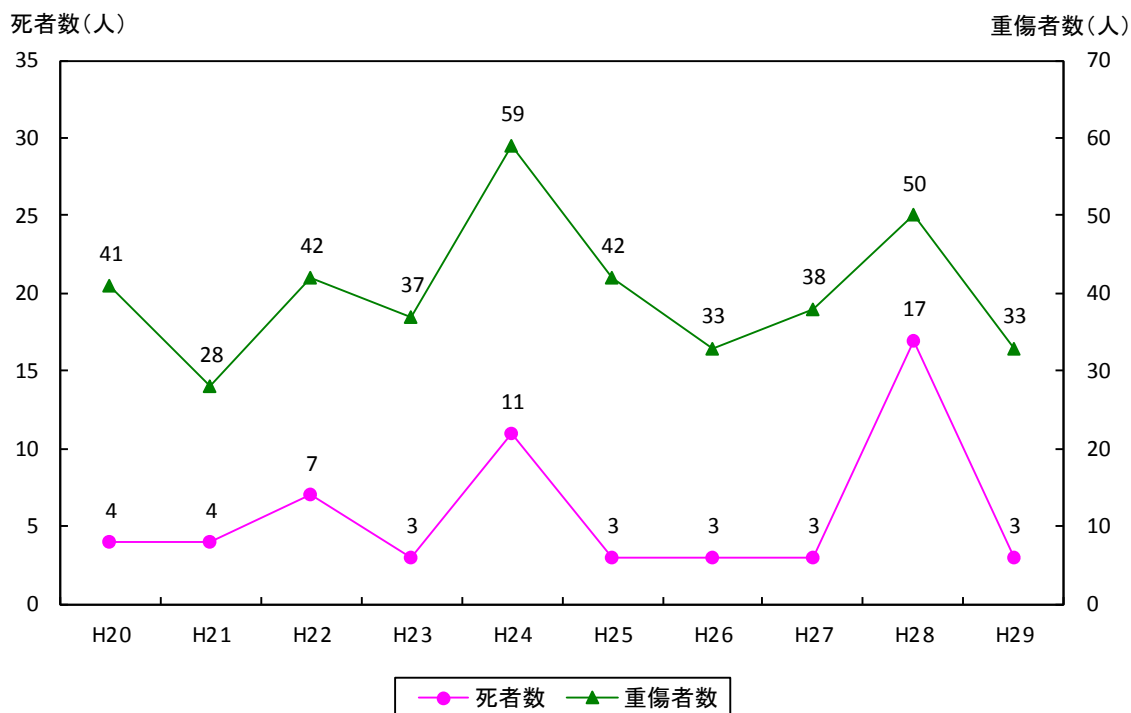
## (2) 貸切バスの事故の死傷者数の推移

貸切バスの事故の死傷者数は、平成24年以降平成26年まで減少していたものの、平成27年から増加に転じた。平成29年は軽井沢スキーバス事故の影響があった前年に比べて減少している。

※平成24年は関越道における高速ツアーバス事故の影響により増加

※平成28年は軽井沢スキーバス事故の影響により増加

〔図 46〕 貸切バス事故の死傷者数の推移



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 39〕 貸切バス事故の死傷者数の推移（人）

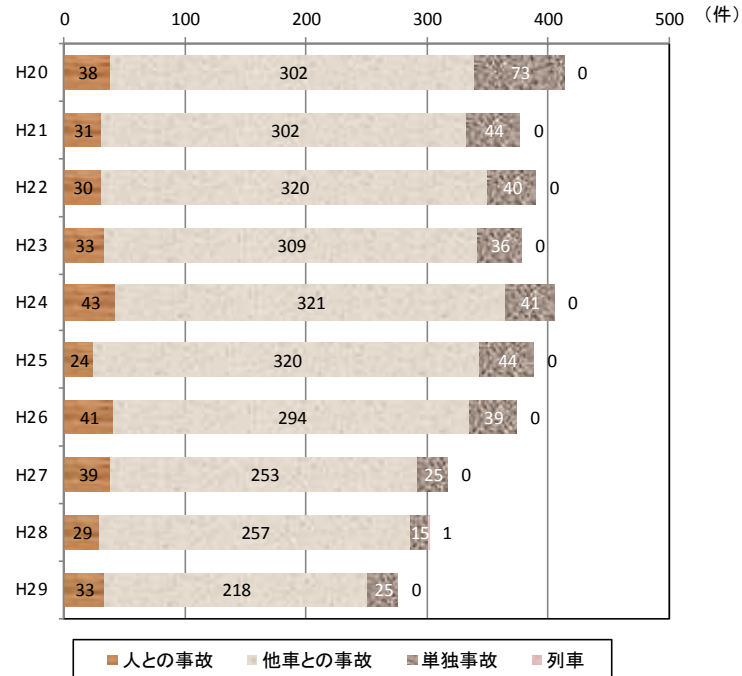
区分 年	死者数	重傷者数	軽傷者数	死傷者合計
H20	4	41	698	743
H21	4	28	545	577
H22	7	42	555	604
H23	3	37	633	673
H24	11	59	655	725
H25	3	42	700	745
H26	3	33	587	623
H27	3	38	524	565
H28	17	50	558	625
H29	3	33	432	468

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

### (3) 貸切バスの事故類型別事故件数の推移

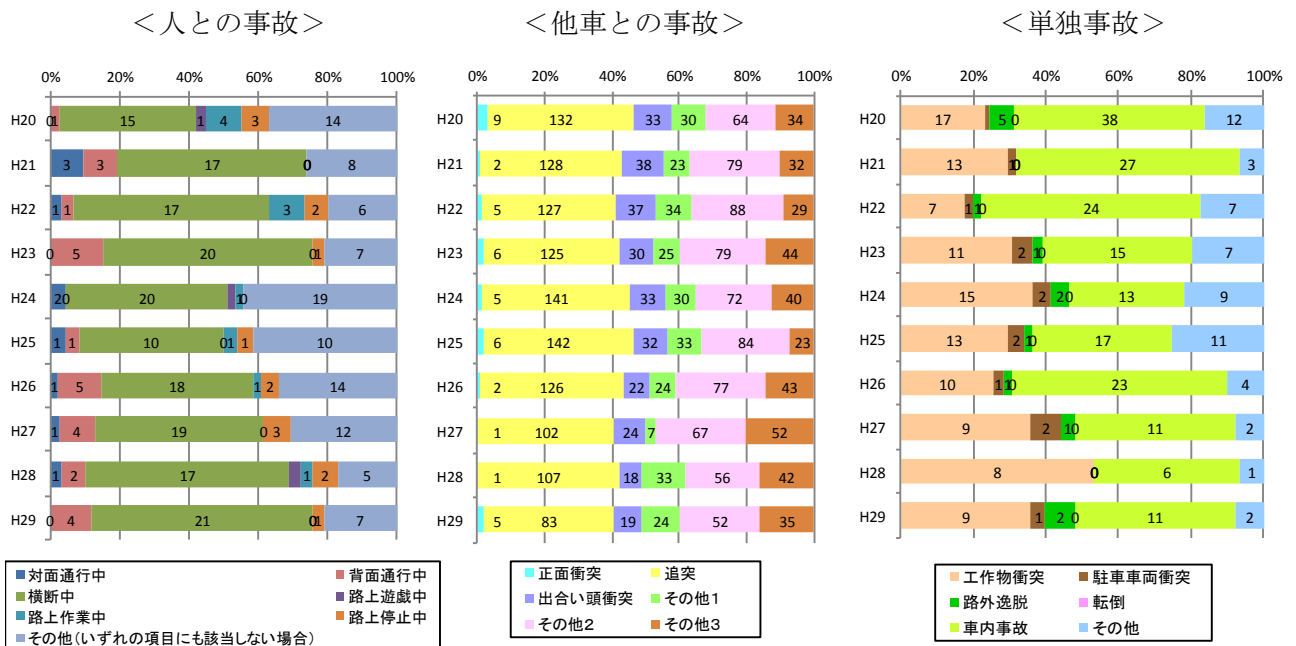
貸切バスの事故の類型別件数は、他車との事故が約 8 割と圧倒的に多い。他車との事故のうち追突事故が約 4 割を占めている。

〔図 47〕 貸切バスの事故類型別事故件数



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 48〕 貸切バスの事故類型別事故件数の内訳の推移



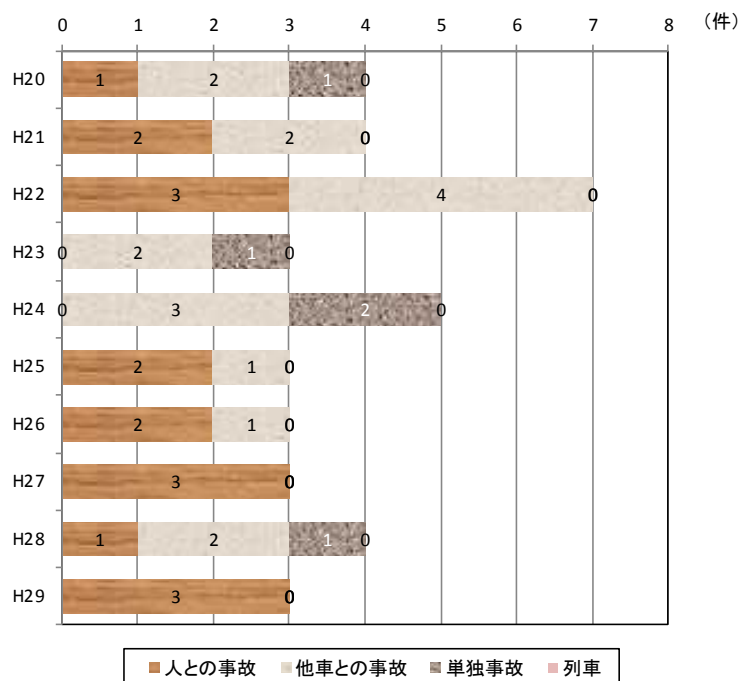
その他 1・・・追越・追抜時衝突、進路変更時衝突  
 その他 2・・・すれ違い時衝突、左折衝突、右折時衝突  
 その他 3・・・横断時衝突、転回時衝突、後退時衝突、その他

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

#### (4) 貸切バスの事故類型別死亡事故件数の推移

貸切バスの事故類型別死亡事故件数は、人との事故3件であった。

〔図 49〕 貸切バスの事故類型別死亡事故件数



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

#### (5) 貸切バスの事故類型別死亡事故件数の内訳の推移（他車との事故）

他車との事故の事故類型別内訳には、顕著な傾向はみられない。

〔表 40〕 貸切バスの事故類型別死亡事故件数の内訳の推移（件）（他車との事故）

区分 年	正面衝突	追突	出合い頭衝突	その他1	その他2	その他3
H20	1	0	0	0	1	0
H21	0	0	1	0	1	0
H22	1	0	2	1	0	0
H23	0	1	1	0	0	0
H24	0	1	0	0	1	1
H25	0	1	0	0	0	0
H26	0	0	1	0	0	0
H27	0	0	0	0	0	0
H28	0	0	0	1	1	0
H29	0	0	0	0	0	0

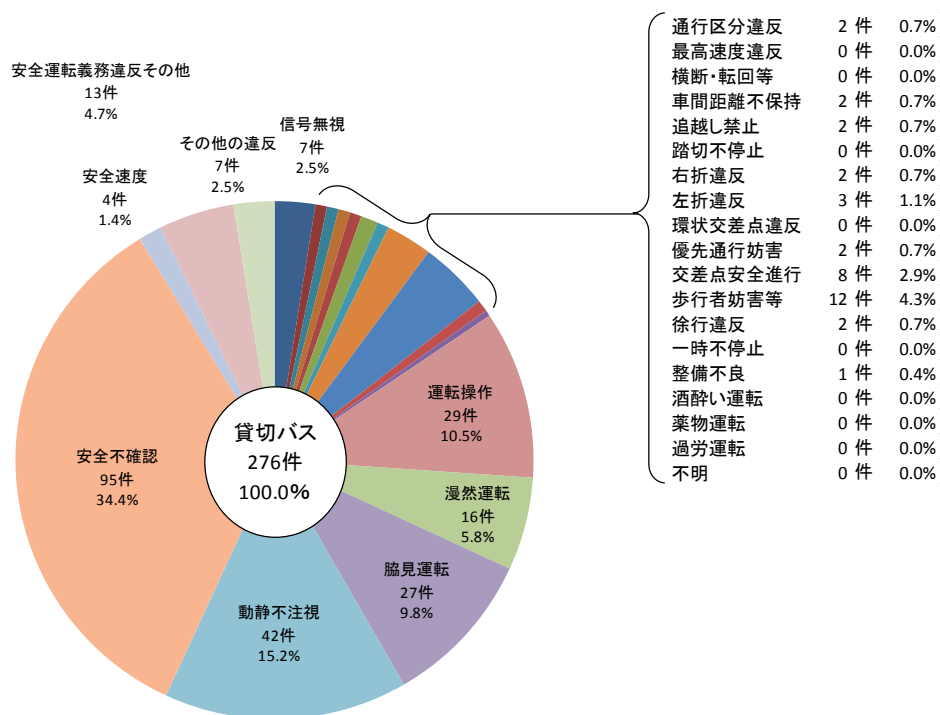
その他1・・・追越・追抜時衝突、進路変更時衝突  
 その他2・・・すれ違い時衝突、左折衝突、右折時衝突  
 その他3・・・横断時衝突、転回時衝突、後退時衝突、その他

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

## (6) 貸切バスの事故の法令違反別の事故件数の割合

貸切バスの法令違反別の死亡事故件数をみると、「安全不確認」95件（34.4%）、「動静不注意」42件（15.2%）、「運転操作」29件（10.5%）などが多くなっている。

〔図 50〕 貸切バスの事故の法令違反別の事故件数の割合（平成29年）

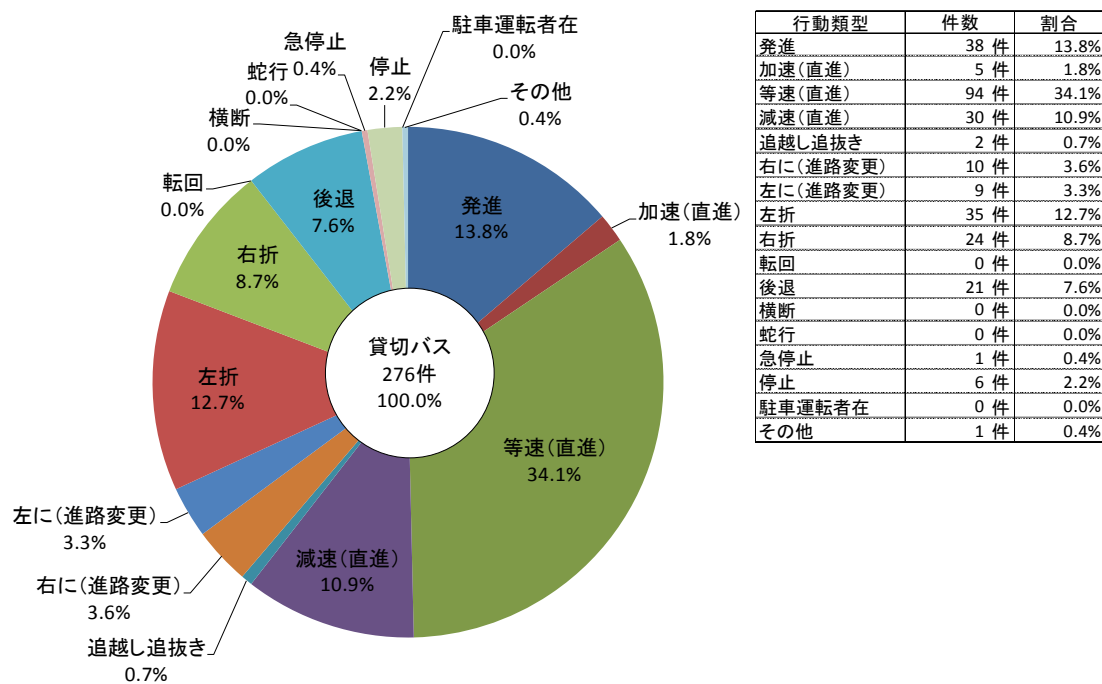


出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

## (7) 貸切バスの行動類型別事故件数の割合

貸切バスの行動類型別事故件数の割合をみると、等速（直進）時94件（34.1%）が最も多く、次いで発進時38件（13.8%）、左折時35件（12.7%）となっている。

〔図 51〕 貸切バスの行動類型別事故件数の割合（平成29年）



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

# (8) 貸切バスの事故類型別、衝突地点別事故件数

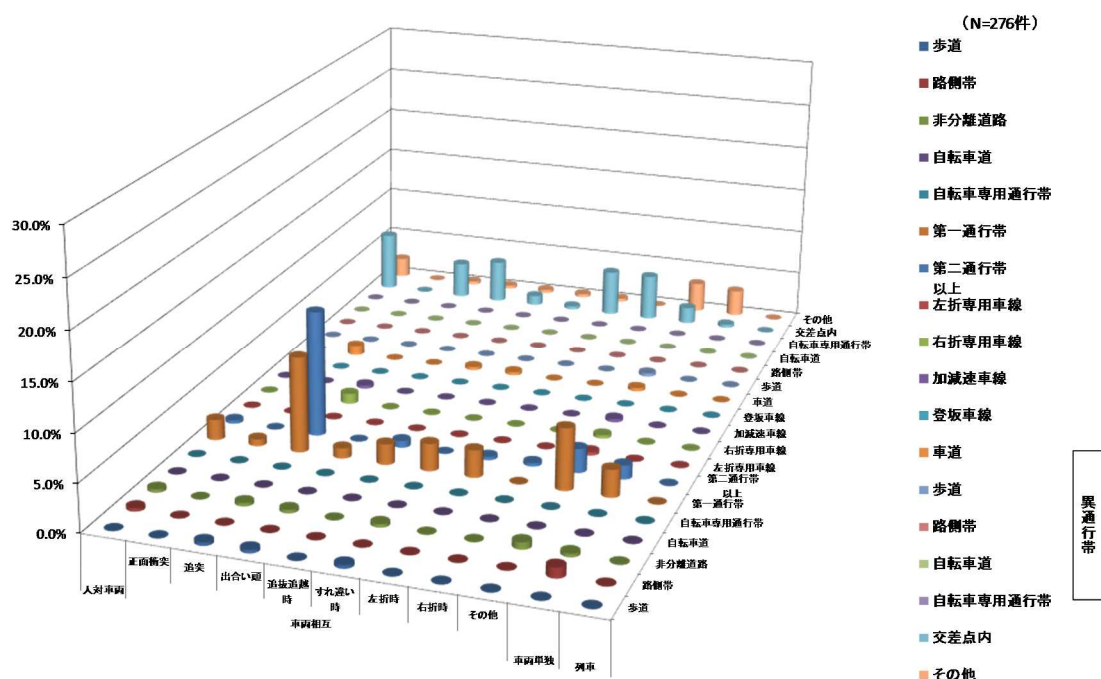
貸切バスの事故類型別、衝突地点別事故件数と構成比を表41と図52に、死亡事故件数と構成比を表42と図53に示す。事故件数については、第二通行帯以上での追突事故37件（13.4%）が最も多く、死亡事故件数については、交差点内の人対車両事故の3件のみであった。

〔表 41〕 貸切バスの事故類型別、衝突地点別事故件数（件）（平成29年）

		バス											
		貸切											
		人対車両	車両相互								車両単独	列車	合計
			正面衝突	追突	出会い頭	追抜追越時	すれ違い時	左折時	右折時	その他			
単路（交差点付近を含む）	歩道	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	3
	路側帯	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	4
	非分離道路	1	0	1	1	0	1	0	0	2	1	0	7
	自転車道	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	自転車専用通行帯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	第一通行帯	6	2	28	3	6	8	8	0	18	8	0	87
	第二通行帯以上	1	0	37	0	2	0	1	1	7	4	0	53
	左折専用車線	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	右折専用車線	0	0	3	0	0	0	0	0	1	0	0	4
	加減速車線	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	2
	登坂車線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	車道	0	3	0	0	1	1	0	0	1	0	0	6
	歩道	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	路側帯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	自転車道	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
異通行帯	自転車専用通行帯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	交差点内	18	0	11	13	3	1	14	14	5	1	0	80
	その他	6	0	1	1	1	1	1	0	9	8	0	28
	合計	33	5	83	19	13	13	24	15	46	25	0	276

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 52〕 貸切バスの事故類型別、衝突地点別事故件数の構成比（%）（平成 29 年）



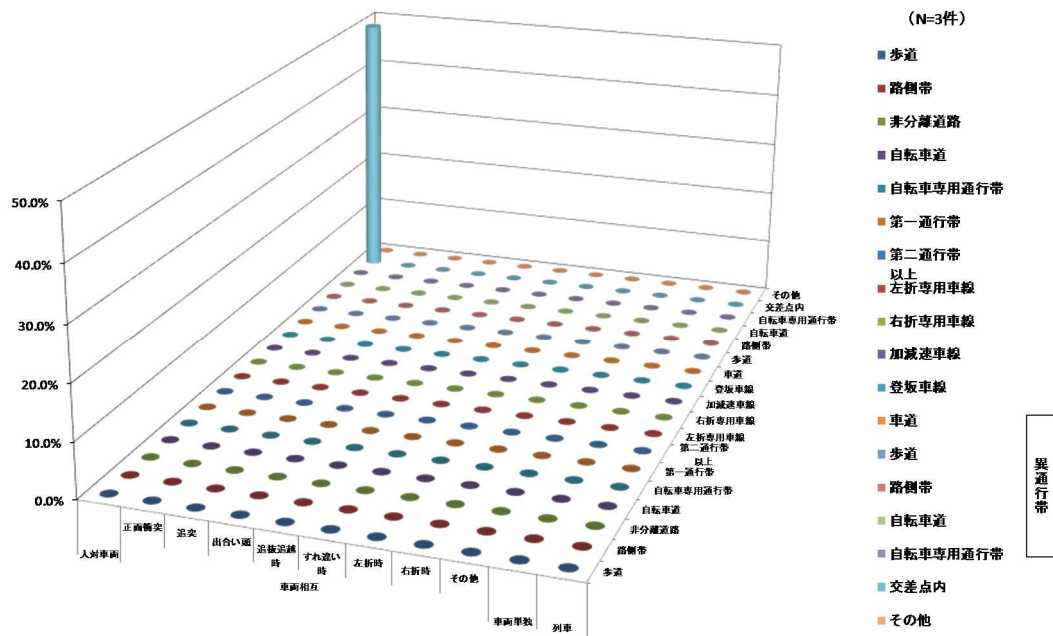
出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 42〕 貸切バスの事故類型別、衝突地点別死亡事故件数（件）（平成29年）

		バス											
		貸切											
		人対車両	車両相互								車両単独	列車	合計
			正面衝突	追突	出会い頭	追抜追越時	すれ違い時	左折時	右折時	その他			
単路（交差点付近を含む）	歩道	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	路側帯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	非分離道路	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	自転車道	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	自転車専用通行帯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	第一通行帯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	第二通行帯以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	左折専用車線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	右折専用車線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	加減速車線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	登坂車線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	車道	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	歩道	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	路側帯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	自転車道	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	自転車専用通行帯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	交差点内	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 53〕 貸切バスの事故類型別、衝突地点別死亡事故件数の構成比（％）（平成29年）



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

# (9) 貸切バスの事故類型別、行動類型別事故件数

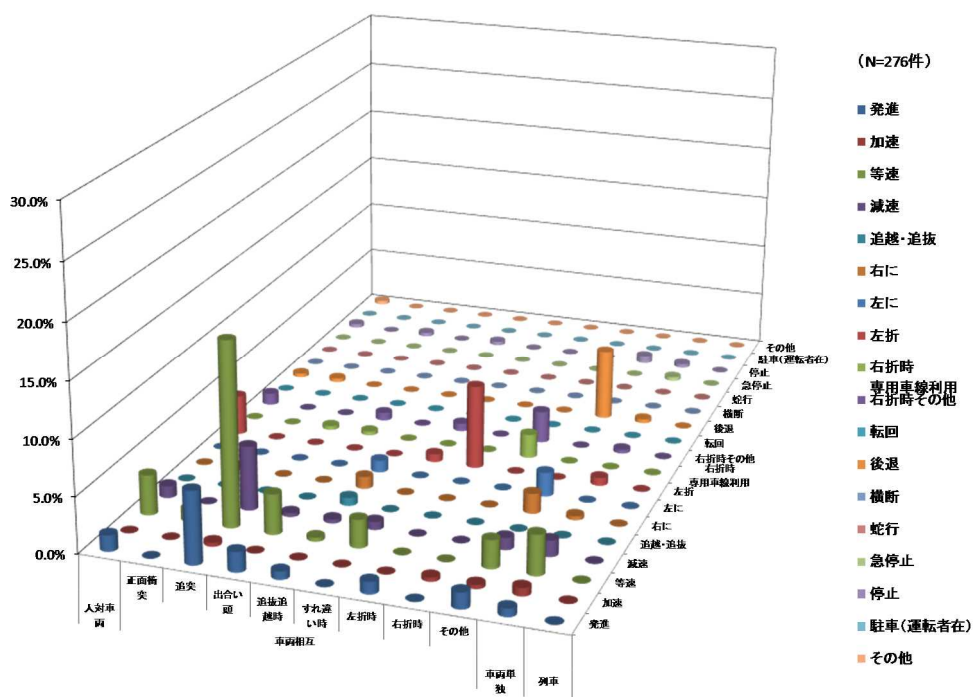
貸切バスの事故類型別、行動類型別事故件数と構成比をそれぞれ表43と図54に、死亡事故件数と構成比を表44と図55に示す。事故件数については、等速直進時の追突事故46件（16.7%）が最も多く、死亡事故件数については、左折時の人対車両事故が2件、等速直進時の人対車両事故が1件であった。

〔表 43〕 貸切バスの事故類型別、行動類型事故件数（件）（平成29年）

		貸切											
		人対車両	車両相互								車両単独	列車	合計
			正面衝突	追突	出会い頭	追抜追越時	すれ違い時	左折時	右折時	その他			
発進		4	0	18	5	2	0	3	0	4	2	0	36
直進	加速	0	0	1	0	0	0	0	1	1	2	0	5
	等速	10	3	46	10	1	7	0	0	7	10	0	94
	減速	3	0	16	1	1	2	0	0	3	4	0	30
追越・追抜		0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2
進路変更	右に	0	1	0	0	3	0	0	0	5	1	0	10
	左に	0	0	0	0	3	0	0	0	6	0	0	9
左折		10	0	0	0	0	2	21	0	0	2	0	35
右折時	専用車線利用	0	0	1	1	0	0	0	6	0	0	0	8
	その他	3	0	0	2	0	2	0	8	0	1	0	16
転回		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
後退		1	1	0	0	0	0	0	0	18	1	0	21
横断		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
蛇行		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
急停止		0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
停止		1	0	1	0	1	0	0	0	2	1	0	6
駐車(運転者在)		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他		1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
合計		33	5	83	19	13	13	24	15	46	25	0	276

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 54〕 貸切バスの事故類型別、行動類型別事故件数の構成比（%）（平成 29 年）



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

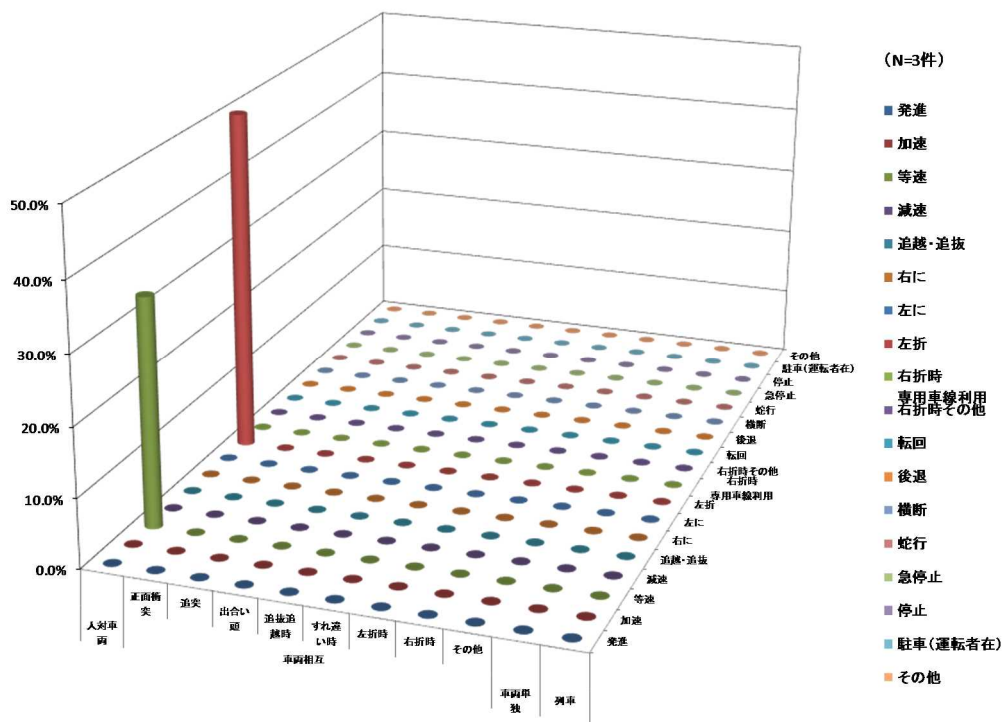


〔表 44〕 貸切バスの事故類型別、行動類型死亡事故件数（件）（平成29年）

		貸切										
		車両相互									車両単独	列車
		人対車両	正面衝突	追突	出会い頭	追抜追越時	すれ違い時	左折時	右折時	その他		
発進		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
直進	加速	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	等速	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	減速	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	追越・追抜	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
進路変更	右に	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	左に	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
左折		2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
右折時	専用車線利用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
転回		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
後退		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
横断		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
蛇行		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
急停止		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
停止		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
駐車(運転者在)		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 55〕 貸切バスの事故類型別、行動類型別死亡事故件数の構成比（％）（平成29年）

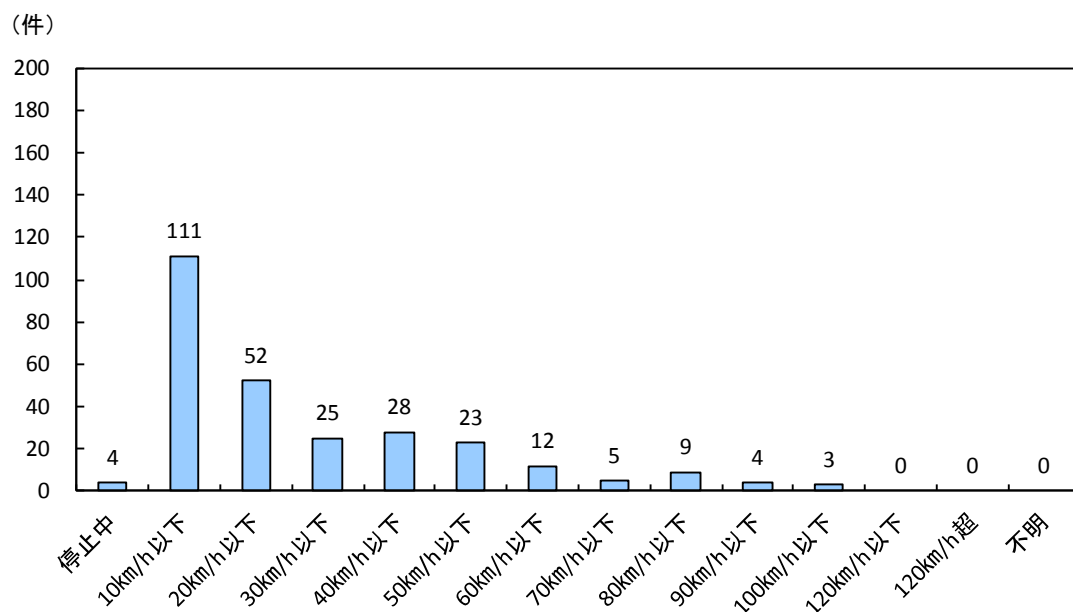


出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

# (10) 貸切バスの危険認知速度別の事故件数

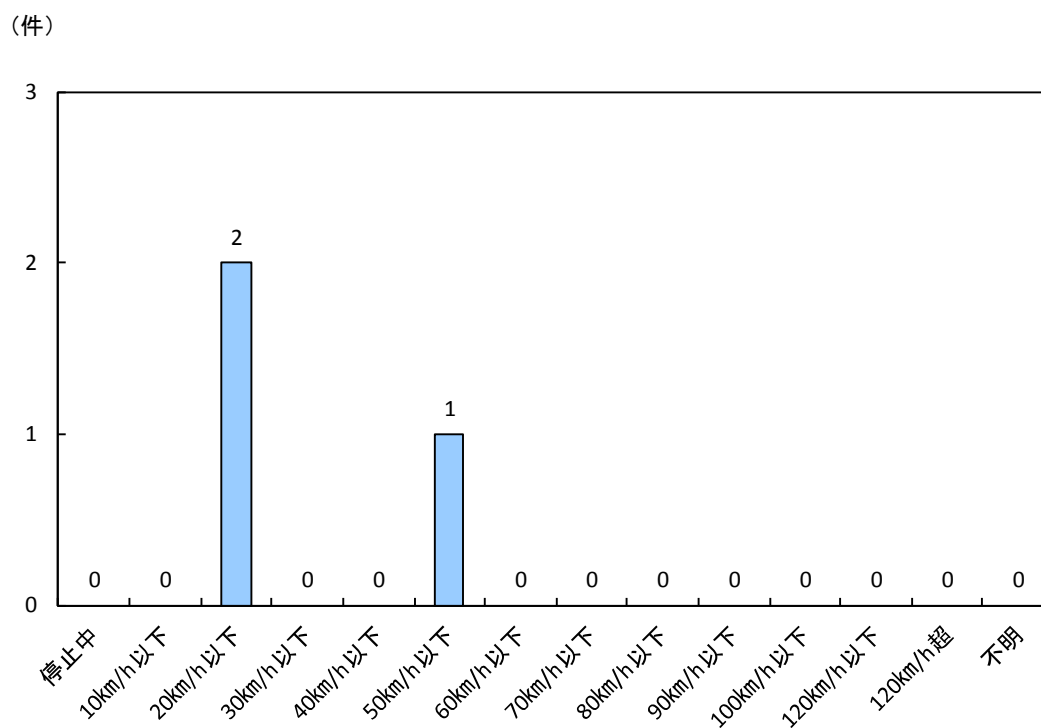
貸切バスの危険認知速度別の事故件数は10km/h以下で111件と最も多く発生しており、次いで20km/h以下で52件、40km/h以下で28件発生している。

〔図 56〕 貸切バスの危険認知速度別の事故件数（平成29年）



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 57〕 貸切バスの危険認知速度別の死亡事故件数（平成29年）



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

# (11) 貸切バスの追突事故件数の危険認知速度別発生時間帯分布

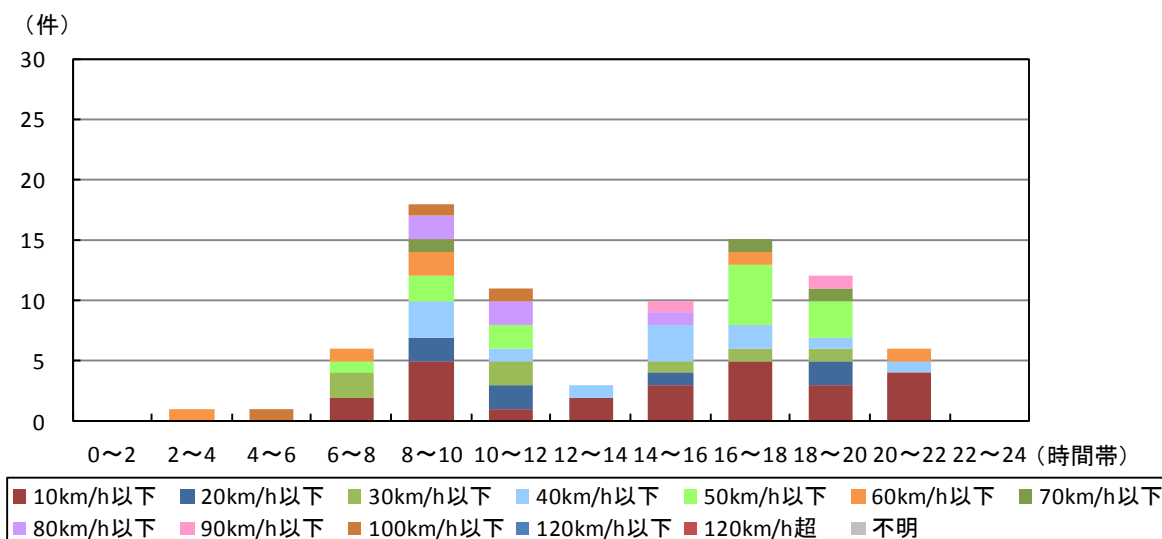
貸切バスの追突事故件数の危険認知速度別発生時間帯分布をみると、8時～9時台の時間帯に最も多く発生している。

〔表45〕 貸切バスの追突の事故件数の危険認知速度別発生時間帯分布（件）（平成29年）

危険認知速度	時 間 帯												合計
	0～2	2～4	4～6	6～8	8～10	10～12	12～14	14～16	16～18	18～20	20～22	22～24	
10km/h以下	0	0	0	2	5	1	2	3	5	3	4	0	25
20km/h以下	0	0	0	0	2	2	0	1	0	2	0	0	7
30km/h以下	0	0	0	2	0	2	0	1	1	1	0	0	7
40km/h以下	0	0	0	0	3	1	1	3	2	1	1	0	12
50km/h以下	0	0	0	1	2	2	0	0	5	3	0	0	13
60km/h以下	0	1	0	1	2	0	0	0	1	0	1	0	6
70km/h以下	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	3
80km/h以下	0	0	0	0	2	2	0	1	0	0	0	0	5
90km/h以下	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	2
100km/h以下	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	3
120km/h以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
120km/h超	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	1	1	6	18	11	3	10	15	12	6	0	83

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図58〕 貸切バスの追突の事故件数の危険認知速度別発生時間帯分布（件）（平成29年）



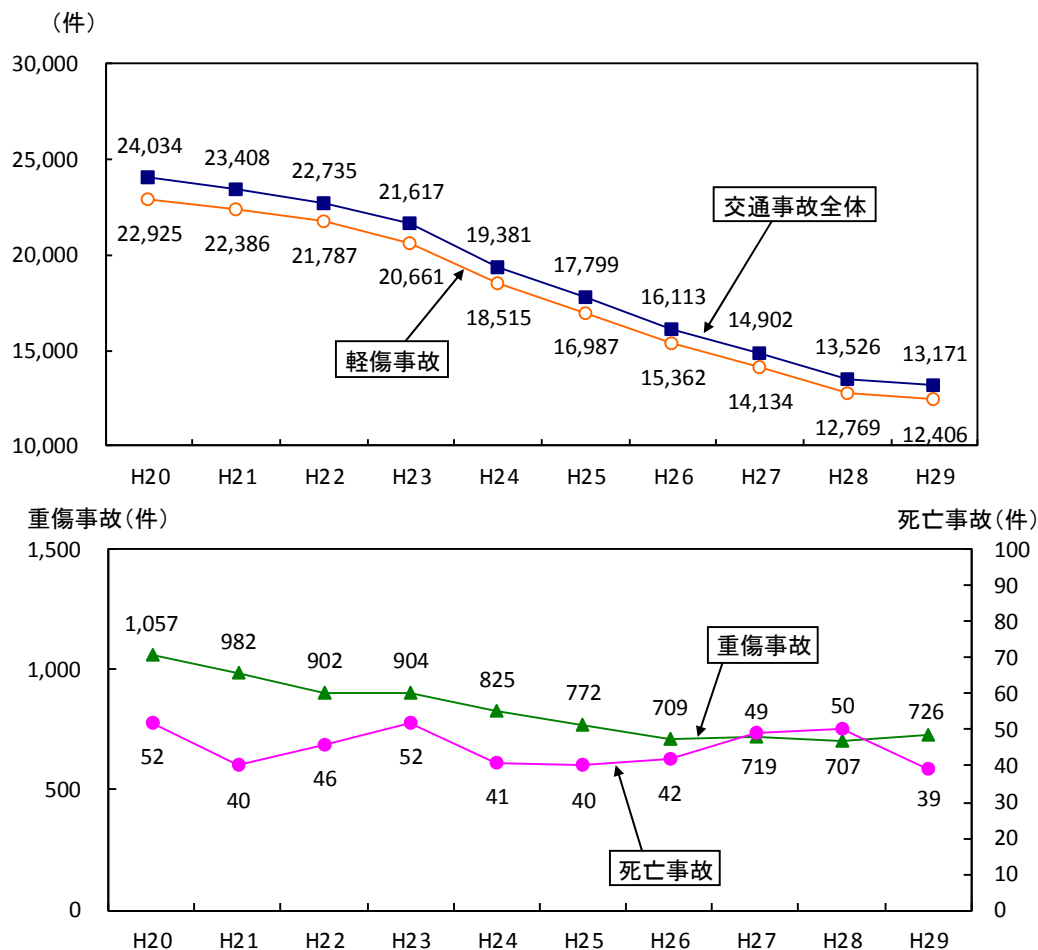
出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

### 3. タクシーの事故

#### (1) タクシーの事故件数、死傷事故件数の推移

タクシー事故件数は全体で減少傾向である。死亡事故件数については、平成26年以降増加していたが、平成29年は前年に比べて11件減少し、重傷事故件数は前年に比べ19件増加した。

〔図 59〕 タクシーの全事故及び死傷事故件数の推移



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 46〕 タクシーの事故件数の推移（件）

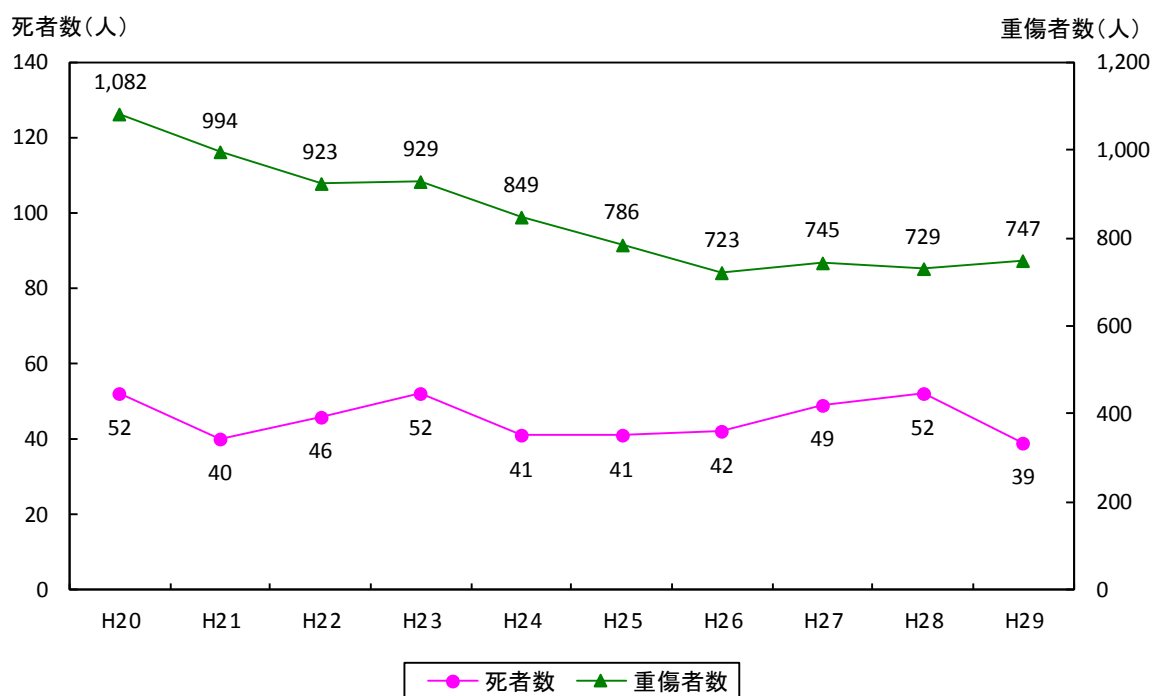
区分 年	死亡事故	重傷事故	軽傷事故	交通事故全体
H20	52	1,057	22,925	24,034
H21	40	982	22,386	23,408
H22	46	902	21,787	22,735
H23	52	904	20,661	21,617
H24	41	825	18,515	19,381
H25	40	772	16,987	17,799
H26	42	709	15,362	16,113
H27	49	719	14,134	14,902
H28	50	707	12,769	13,526
H29	39	726	12,406	13,171

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

## (2) タクシーの事故の死傷者数の推移

タクシーの事故の死傷者数は、重傷者数は近年横ばいで推移している。死者数は平成25年以降増加傾向にあったが、平成29年は前年に比べて13人減少した。

〔図 60〕 タクシーの事故の死傷者数の推移



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 47〕 タクシーの事故の死傷者数の推移（人）

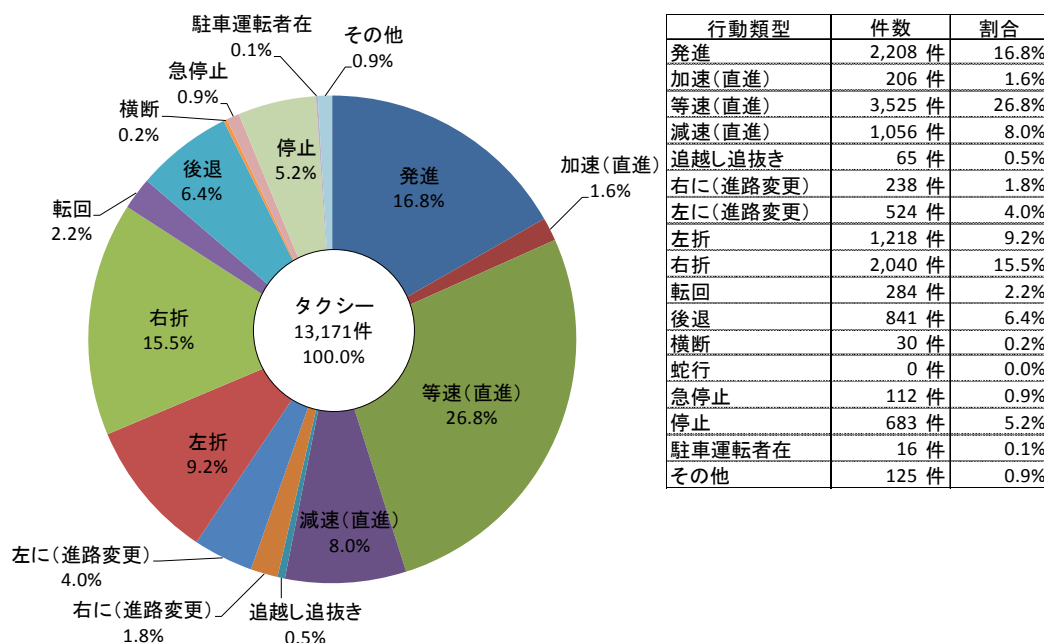
区分 年	死者数	重傷者数	軽傷者数	死傷者合計
H20	52	1,082	26,899	28,033
H21	40	994	25,963	26,997
H22	46	923	25,317	26,286
H23	52	929	24,167	25,148
H24	41	849	21,651	22,541
H25	41	786	19,992	20,819
H26	42	723	18,051	18,816
H27	49	745	16,622	17,416
H28	52	729	15,112	15,893
H29	39	747	14,593	15,379

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

### (3) タクシーの行動類型別事故件数の割合

タクシーの行動類型別事故件数は、等速（直進）3,525件（26.8%）が最も多く、次いで発進2,208件（16.8%）、右折2,040件（15.5%）である。

〔図 61〕 タクシーの行動類型別事故件数の割合（平成29年）

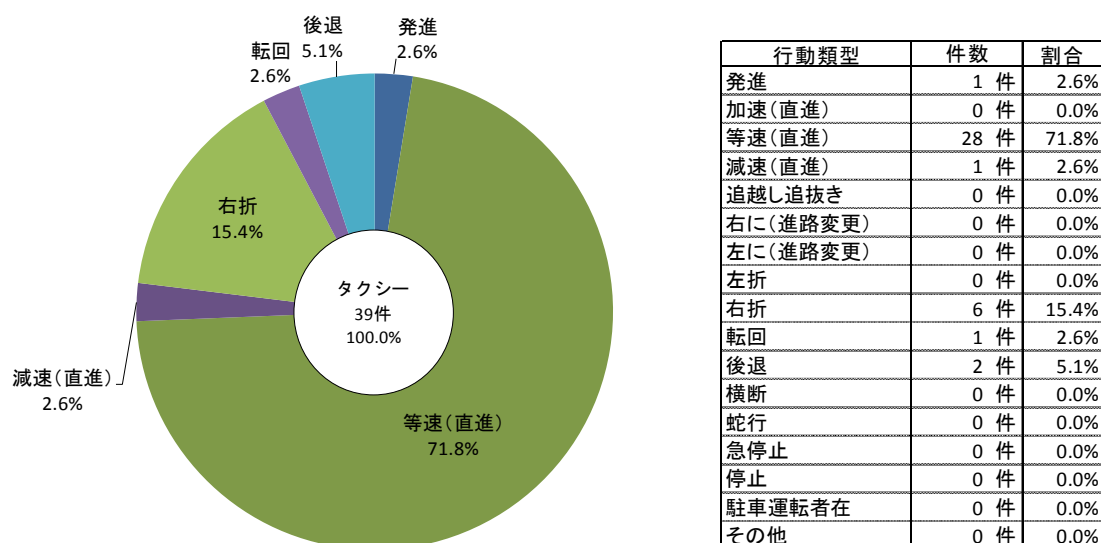


出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

### (4) タクシーの行動類型別死亡事故件数の割合

タクシーの行動類型別死亡事故件数は、等速（直進）28件（71.8%）が大半を占めている。

〔図 62〕 タクシーの行動類型別死亡事故件数の割合（平成29年）

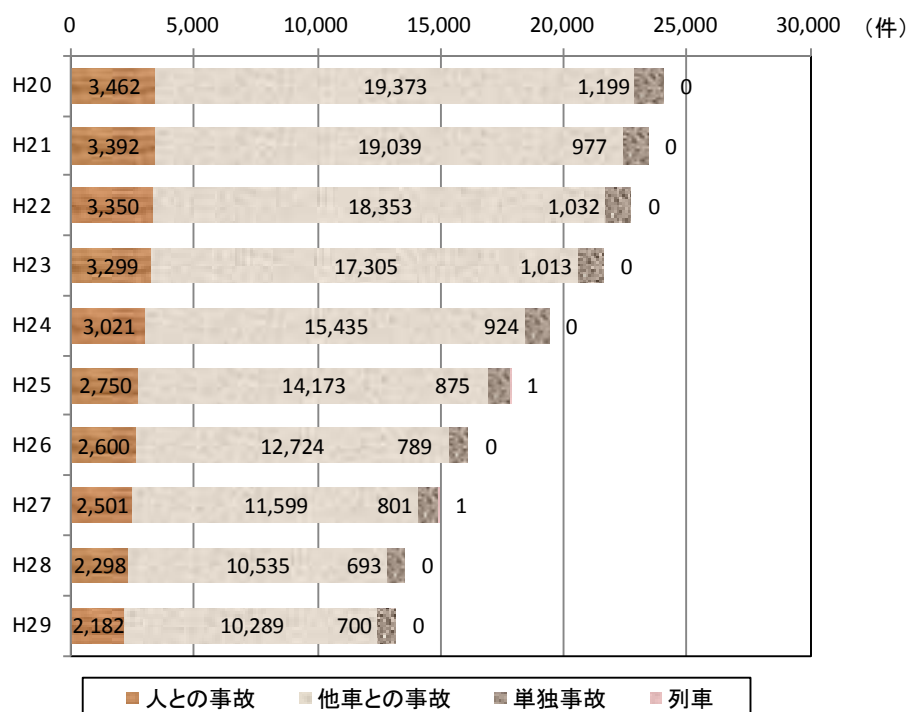


出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

## (5) タクシーの事故類型別事故件数の割合の推移

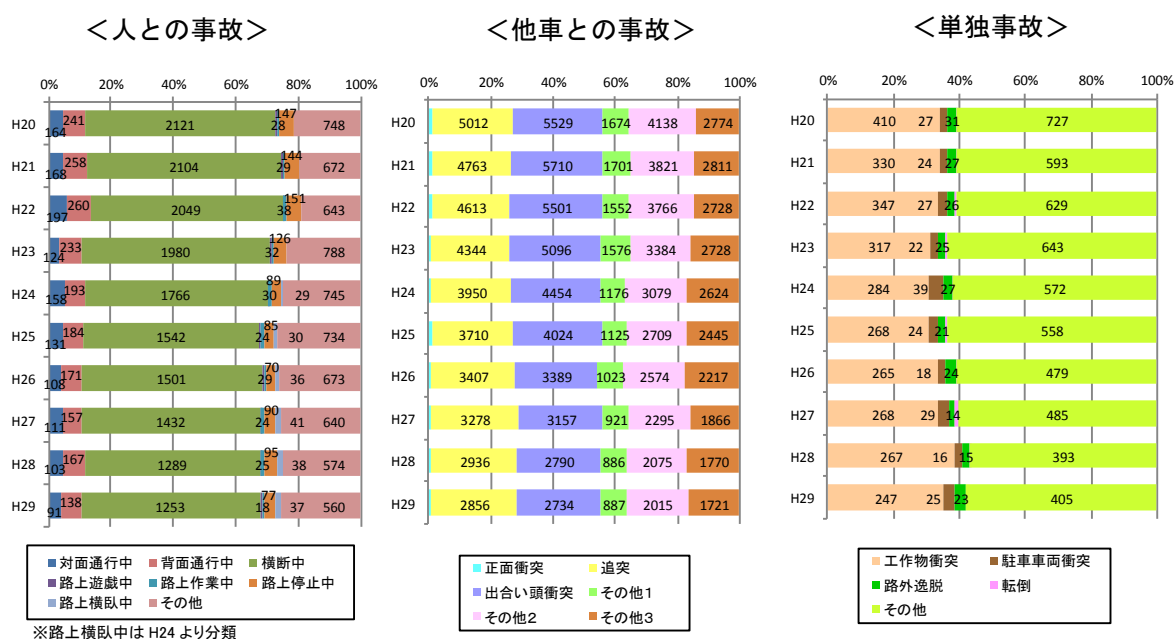
平成29年のタクシーの事故は、他車との事故が10,289件で8割弱を占めており、そのうち追突と出会い頭衝突が半分以上を占めている。

〔図 63〕 タクシーの事故類型別事故件数の割合



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 64〕 タクシーの事故類型別事故件数の内訳の推移



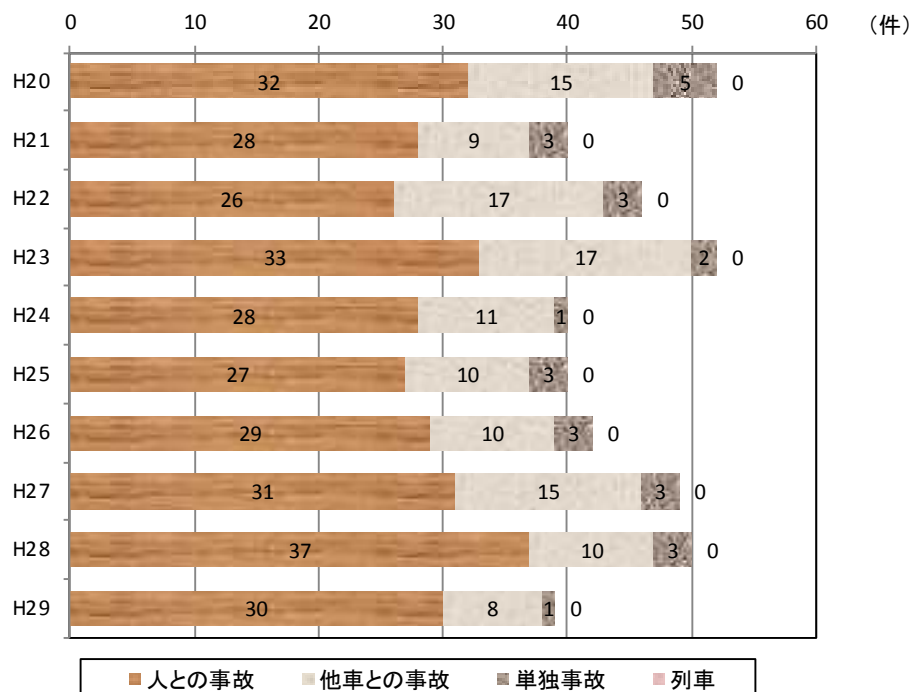
その他１・・・追越・追抜時衝突、進路変更時衝突  
 その他２・・・すれ違い時衝突、左折衝突、右折時衝突  
 その他３・・・横断時衝突、転回時衝突、後退時衝突、その他

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

## (6) タクシーの事故類型別死亡事故件数の割合の推移

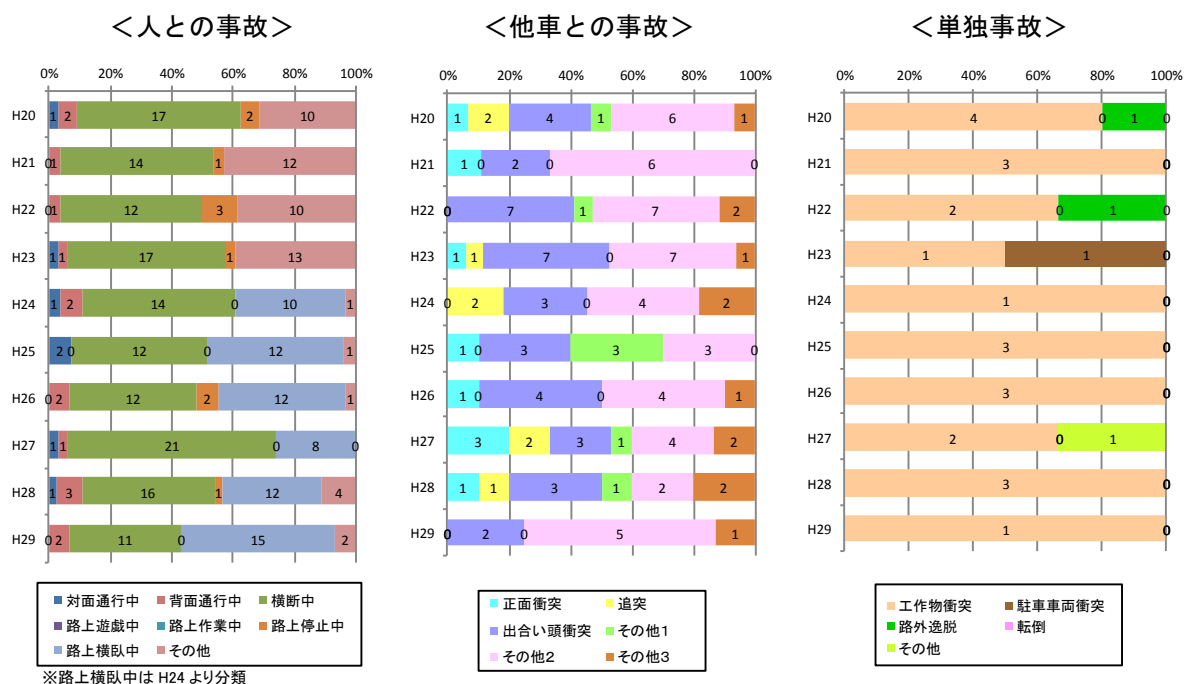
平成29年のタクシーの死亡事故は、人との事故が30件で7割以上を占めており、そのうち、路上横臥中の事故が15件となっている。

〔図 65〕 タクシーの事故類型別死亡事故件数の割合の推移



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 66〕 タクシーの事故類型別死亡事故件数の内訳の推移



その他 1・・・追越・追抜時衝突、進路変更時衝突  
 その他 2・・・すれ違い時衝突、左折衝突、右折時衝突  
 その他 3・・・横断時衝突、転回時衝突、後退時衝突、その他

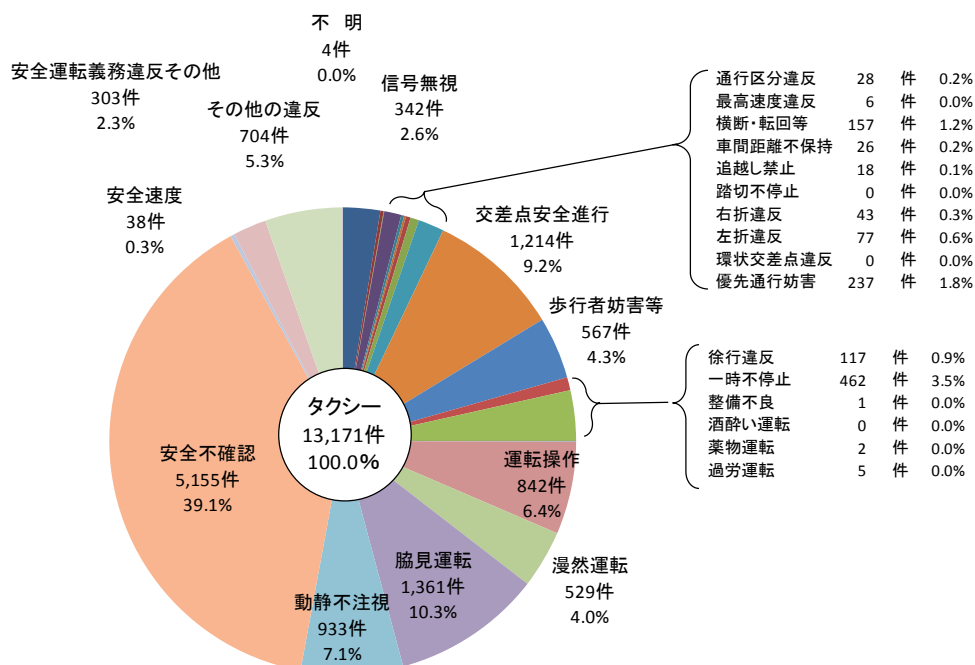
出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」



## (7) タクシーの法令違反別の事故件数の割合

タクシーの法令違反別の事故件数は、「安全不確認」5,155件（39.1%）が最も多く、次いで「脇見運転」1,361件（10.3%）、「交差点安全進行」1,214件（9.2%）となっている。

〔図 67〕 タクシーの法令違反別事故件数の割合（平成29年）

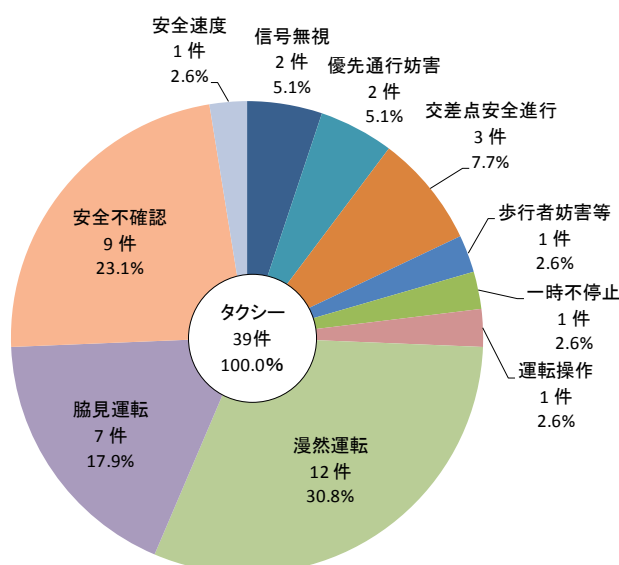


出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

## (8) タクシーの法令違反別の死亡事故件数の割合

タクシーの法令違反別の死亡事故件数は、「漫然運転」12件（30.8%）が最も多く、次いで「安全不確認」9件（23.1%）、「脇見運転」7件（17.9%）となっている。

〔図 68〕 タクシーの法令違反別死亡事故件数の割合（平成29年）

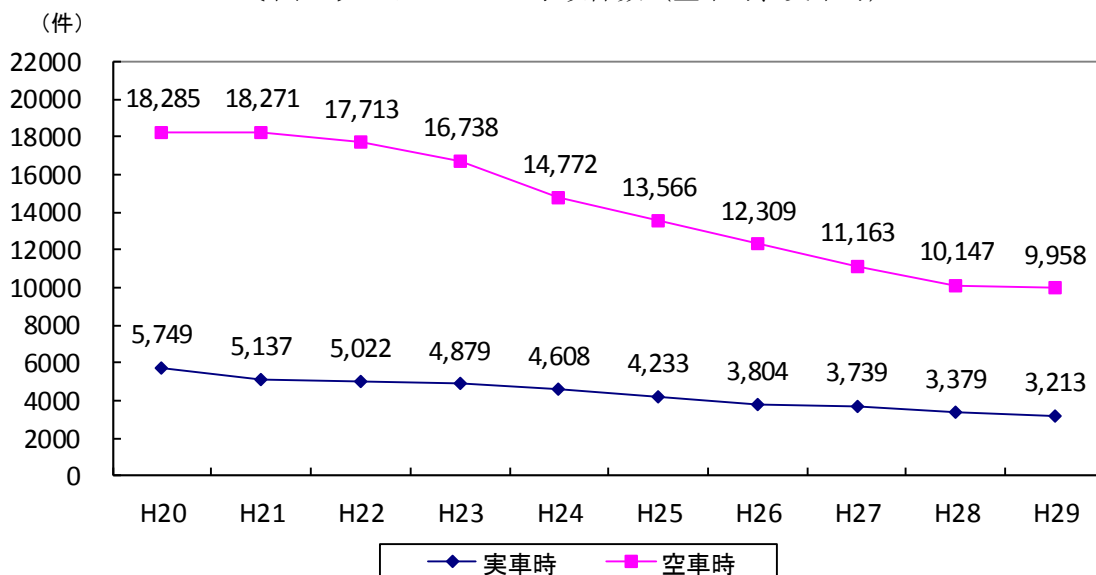


出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

# (9) タクシーの事故件数（空車時、実車時）

タクシーの事故件数（空車時、実車時）は、空車時が実車時と比べて多く発生している。空車時、実車時ともに減少傾向にある。

〔図 69〕 タクシーの事故件数（空車時、実車時）



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

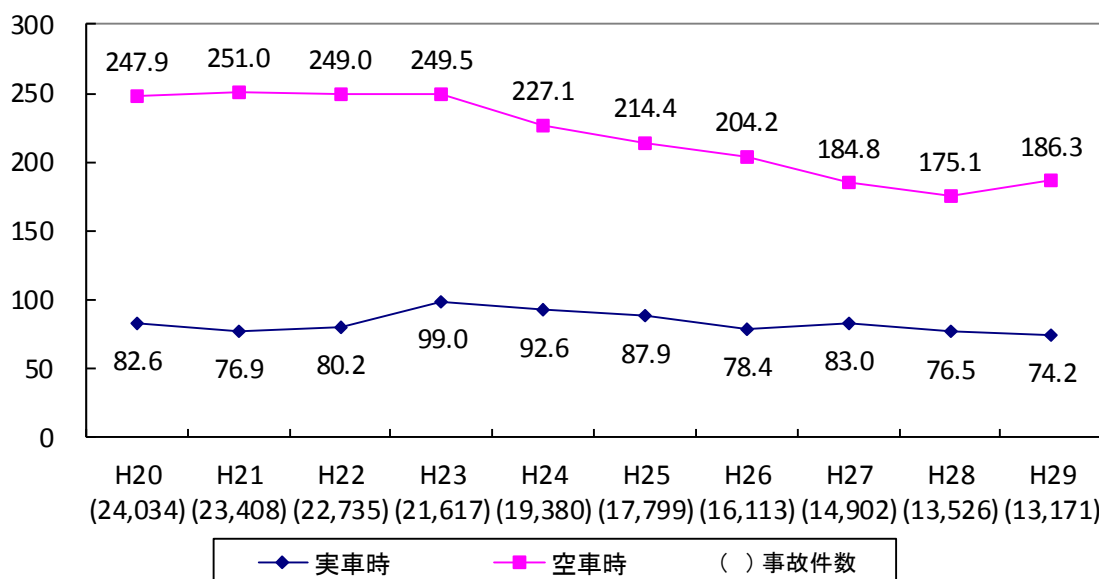
# (10) タクシーの走行距離 1 億キロあたりの事故件数（空車キロ、実車キロ）

タクシーの走行距離 1 億キロあたりの事故件数（空車キロ、実車キロ）は、空車時が実車時と比べて多く発生している。空車時は平成21年より減少傾向であったが、平成29年は前年に比べて増加した。実車時は横ばいで推移している。

〔図 70〕 タクシーの走行距離 1 億キロあたりの事故件数

（空車時事故件数/億km）

（実車時事故件数/億km）



注1：（ ）内の数字は空車時と実車時を合わせた事故件数，単位は件

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」  
国土交通省「自動車輸送統計調査」「自動車燃料消費量調査」

# (11) タクシーの事故類型別、衝突地点別事故件数

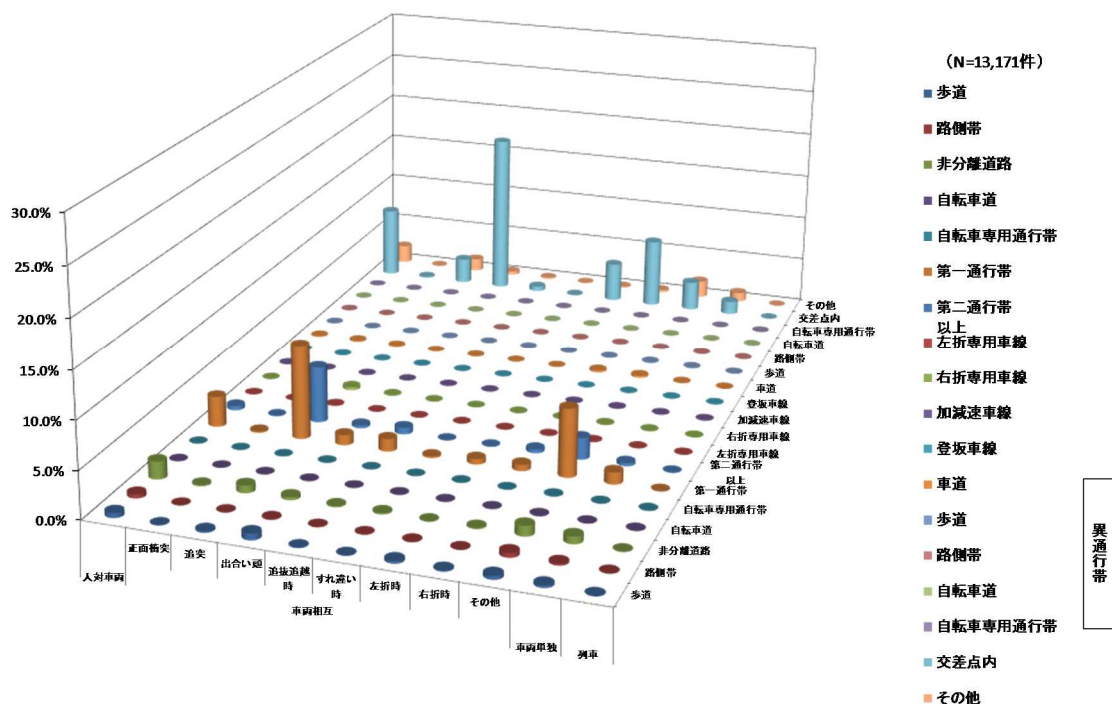
タクシーの事故類型別、衝突地点別事故件数と構成比を表48と図71に、死亡事故件数と構成比を表49と図72に示す。事故件数については、交差点内での出会い頭事故2,345件(17.8%)が最も多く、死亡事故件数については、第一通行帯での人対車両事故12件(30.8%)が多くなっている。

〔表 48〕 タクシーの事故類型別、衝突地点別事故件数（件）（平成29年）

		タクシー											
		合計											
		人対車両	車両相互								車両単独	列車	合計
正面衝突	追突		出会い頭	追抜追越時	すれ違い時	左折時	右折時	その他					
単路（交差点付近を含む）	歩道	68	0	22	90	3	2	35	13	50	31	0	314
	路側帯	55	0	4	10	3	3	5	3	64	24	0	171
	非分離道路	247	16	103	43	16	18	3	15	143	102	0	706
	自転車道	1	0	0	1	0	0	1	0	2	0	0	5
	自転車専用通行帯	1	0	2	2	1	0	1	0	7	1	0	15
	第一通行帯	428	20	1,321	142	176	22	76	87	948	167	0	3,387
	第二通行帯以上	62	6	790	42	92	4	5	52	301	42	0	1,396
	左折専用車線	1	0	7	0	0	0	1	0	2	0	0	11
	右折専用車線	2	0	44	6	0	0	0	3	6	3	0	64
	加減速車線	2	0	2	0	0	0	0	0	2	0	0	6
異通行帯	登坂車線	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	車道	12	15	9	4	5	2	2	25	25	4	0	103
	歩道	4	0	0	0	0	0	1	1	5	4	0	15
	路側帯	3	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	7
	自転車道	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2
	自転車専用通行帯	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	交差点内	1,031	15	370	2,345	68	10	571	1,002	424	190	0	6,026
	その他	264	4	181	49	17	6	14	31	245	130	0	941
合計		2,182	76	2,856	2,734	381	67	716	1,232	2,227	700	0	13,171

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 71〕 タクシーの事故類型別、衝突地点別事故件数の構成比（%）（平成 29 年）



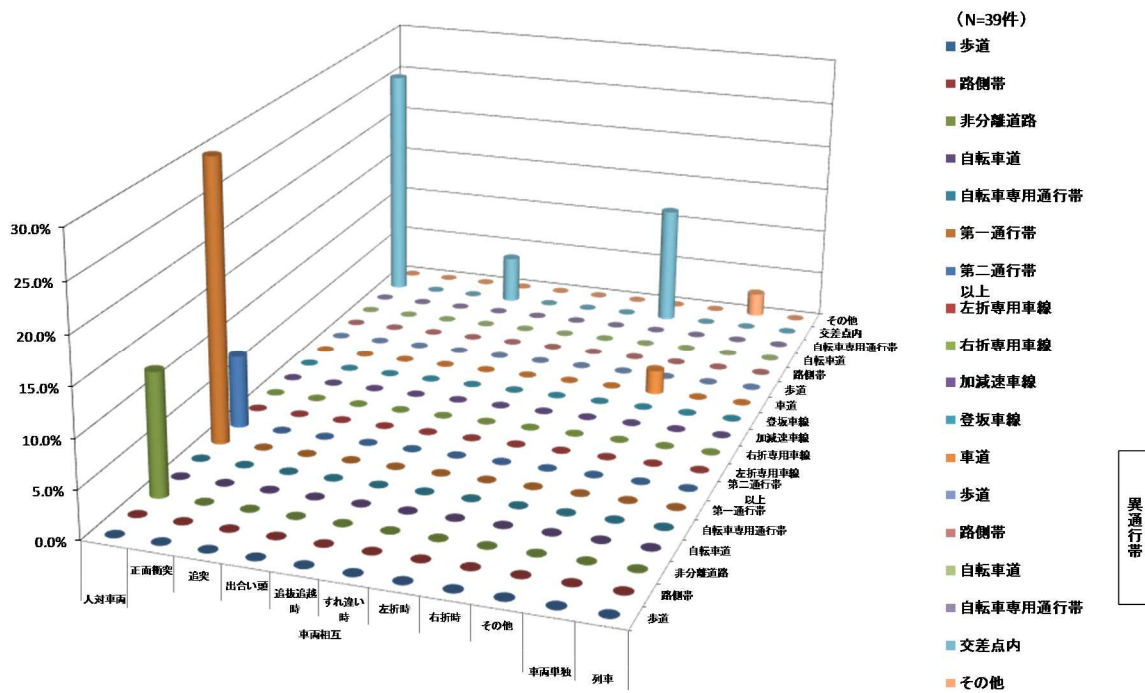
出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 49〕 タクシーの事故類型別、衝突地点別死亡事故件数（件）（平成 29 年）

		タクシー											
		合計											
		人対車両	車両相互								車両単独	列車	合計
			正面衝突	追突	出会い頭	追抜追越時	すれ違い時	左折時	右折時	その他			
単路（交差点付近を含む）	歩道	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	路側帯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	非分離道路	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
	自転車道	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	自転車専用通行帯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	第一通行帯	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12
	第二通行帯以上	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
	左折専用車線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	右折専用車線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	加減速車線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	登坂車線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	車道	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	歩道	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	路側帯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	自転車道	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	自転車専用通行帯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	交差点内	10	0	0	2	0	0	0	5	0	0	0	17
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	合計	30	0	0	2	0	0	0	5	1	1	0	39
異通行帯	車道	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	歩道	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	路側帯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	自転車道	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	自転車専用通行帯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 72〕 タクシーの事故類型別、衝突地点別死亡事故件数の構成比（％）（平成29年）



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

## (12) タクシーの事故類型別、行動類型別事故件数

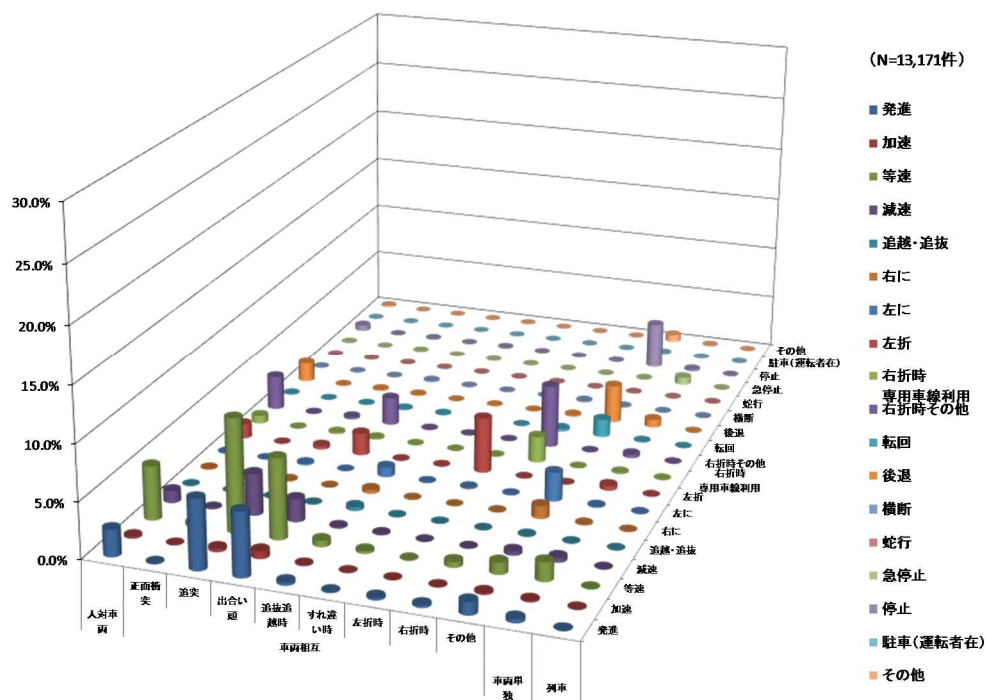
タクシーの事故類型別、行動類型別事故件数と構成比を表50と図73に、死亡事故件数と構成比を表51と図74に示す。事故件数については、等速直進時の追突事故1,341件(10.2%)が最も多く、死亡事故件数については、等速直進時の人対車両事故27件(69.2%)が多くなっている。

〔表50〕 タクシーの事故類型別、行動類型事故件数(件) (平成29年)

		タクシー											
		合計											
		人対車両	車両相互							車両単独	列車	合計	
正面衝突	追突		出会い頭	追抜追越時	すれ違い時	左折時	右折時	その他					
発進		320	7	825	757	39	7	28	27	152	46	0	2,208
直進	加速	24	2	40	92	8	1	1	4	20	14	0	206
	等速	642	37	1,341	954	75	33	7	69	142	225	0	3,525
	減速	143	8	497	273	16	10	2	3	48	56	0	1,056
追越・追抜		3	0	0	2	46	2	0	2	10	0	0	65
進路変更	右に	7	5	12	1	47	3	0	3	152	8	0	238
	左に	10	0	19	0	119	4	13	1	346	12	0	524
左折		176	1	43	268	4	4	663	0	0	59	0	1,218
右折時	専用車線利用	95	3	18	15	0	0	0	314	0	12	0	457
	その他	415	5	26	337	5	2	0	751	0	42	0	1,583
転回		8	1	4	9	9	0	0	31	216	6	0	284
後退		241	5	14	10	0	1	1	15	459	95	0	841
横断		0	0	1	14	0	0	0	12	3	0	0	30
蛇行		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
急停止		4	0	6	1	1	0	0	0	7	93	0	112
停止		73	1	8	1	9	0	0	0	571	20	0	683
駐車(運転者在)		2	0	0	0	0	0	0	0	10	4	0	16
その他		19	1	2	0	3	0	1	0	91	8	0	125
合計		2,182	76	2,856	2,734	381	67	716	1,232	2,227	700	0	13,171

出典：(公財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図73〕 タクシーの事故類型別、行動類型別事故件数の構成比(%) (平成29年)



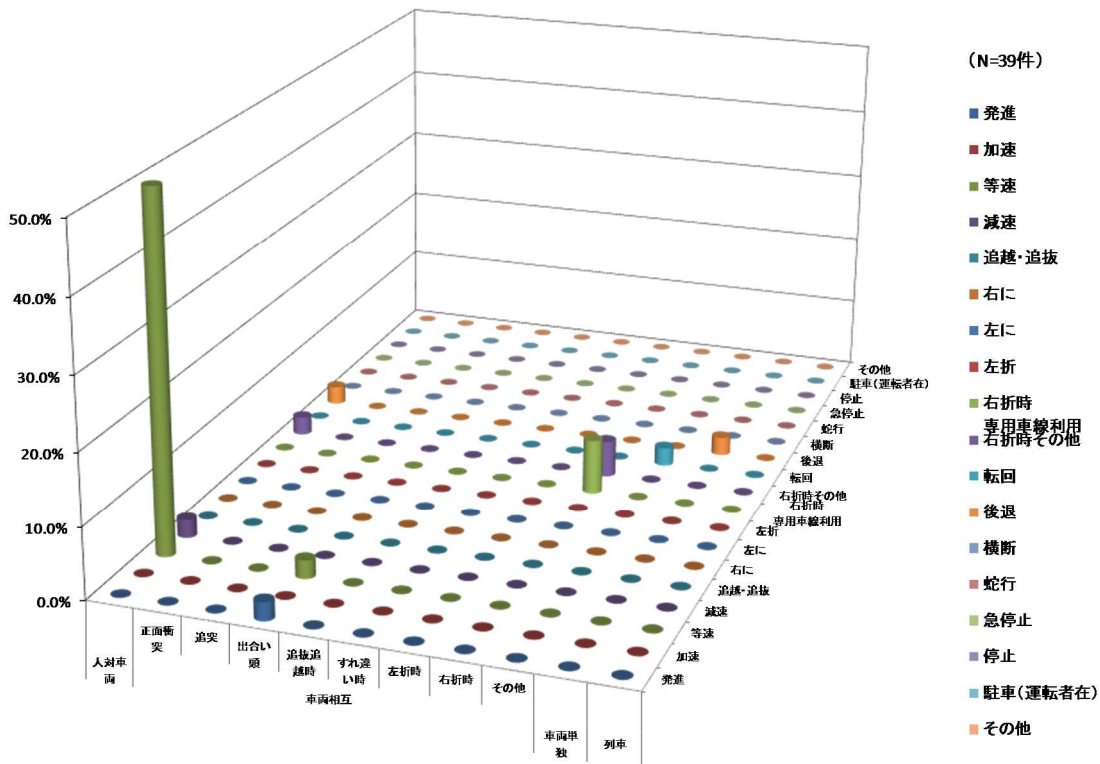
出典：(公財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 51〕 タクシーの事故類型別、行動類型死亡事故件数（件）（平成29年）

		タクシー										
		合計										
		人対車両	車両相互							車両単独	列車	合計
			正面衝突	追突	出会い頭	追抜追越時	すれ違い時	左折時	右折時	その他		
発進		0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
直進	加速	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	等速	27	0	0	1	0	0	0	0	0	0	28
	減速	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	追越・追抜	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
進路変更	右に	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	左に	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
左折		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
右折時	専用車線利用	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	3
	その他	1	0	0	0	0	0	0	2	0	0	3
転回		0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
後退		1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2
横断		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
蛇行		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
急停止		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
停止		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
駐車（運転者在）		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		30	0	0	2	0	0	0	5	1	0	39

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 74〕 タクシーの事故類型別、行動類型別死亡事故件数の構成比（％）（平成 29 年）

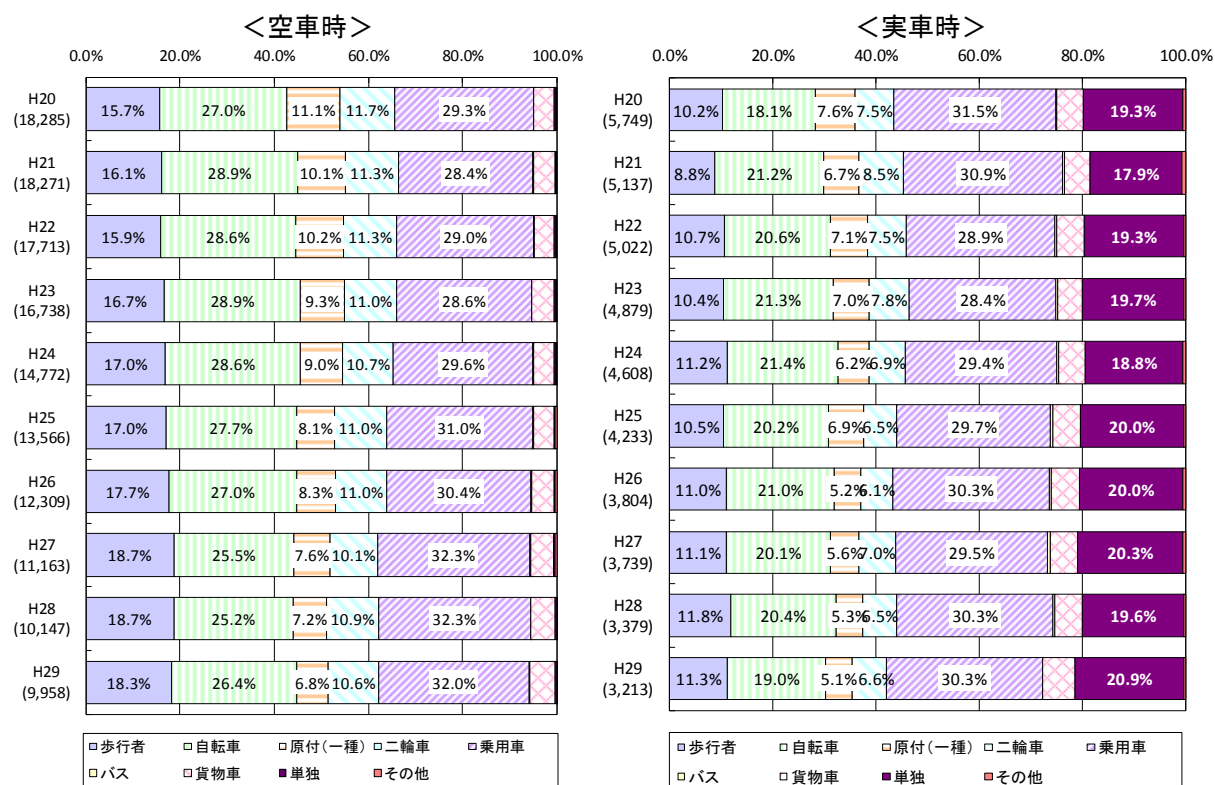


出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

### (13) タクシーの事故の相手方の割合の推移（空車時、実車時）

実車時は、空車時に比べて単独の事故が圧倒的に多い。

〔図 75〕 タクシーの事故の相手方の割合の推移



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

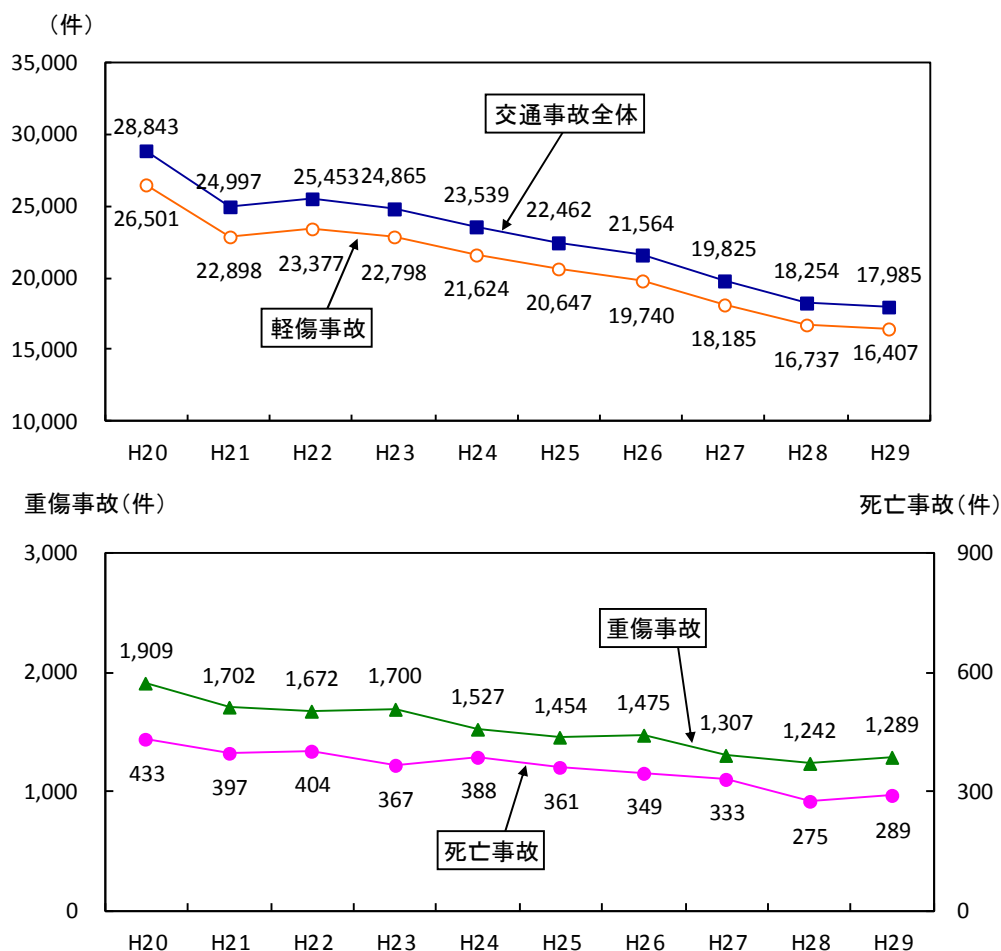


## 4. トラックの事故

### (1) トラックの事故件数、死傷事故件数の推移

平成29年のトラックによる事故件数は17,985件で前年より1.5%減少している。死傷事故件数別では、死亡事故、重傷事故が増加し、軽傷事故が減少した。

〔図 76〕 トラックの全事故及び死傷事故件数の推移



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 52〕 トラックの事故件数の推移（件）

区分 年	死亡事故	重傷事故	軽傷事故	事故全体
H20	433	1,909	26,501	28,843
H21	397	1,702	22,898	24,997
H22	404	1,672	23,377	25,453
H23	367	1,700	22,798	24,865
H24	388	1,527	21,624	23,539
H25	361	1,454	20,647	22,462
H26	349	1,475	19,740	21,564
H27	333	1,307	18,185	19,825
H28	275	1,242	16,737	18,254
H29	289	1,289	16,407	17,985

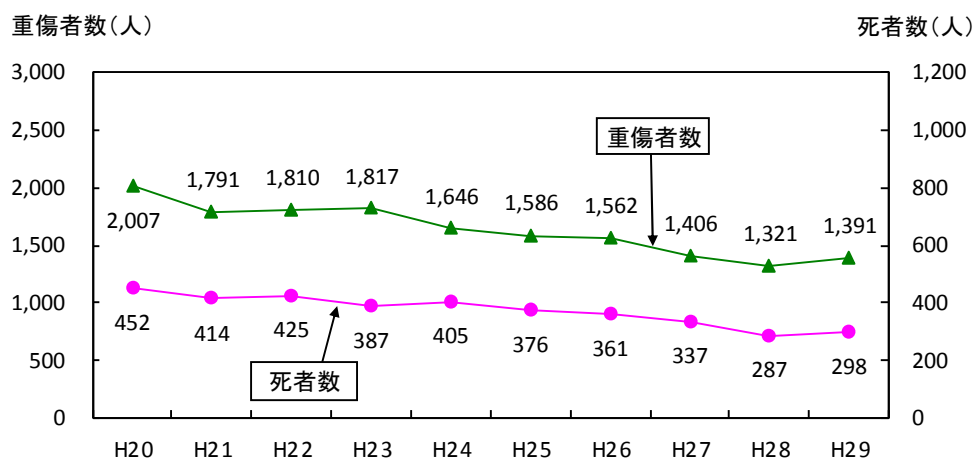
出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」



## （２）トラック事故の死傷者数の推移

トラックの事故による死者数、重傷者数の推移をみると、ともに減少傾向にはあるが、平成29年は死者数、重傷者数ともに増加した。

〔図 77〕      トラック事故の死傷者数の推移



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 53〕      トラック事故の死傷者数の推移（人）

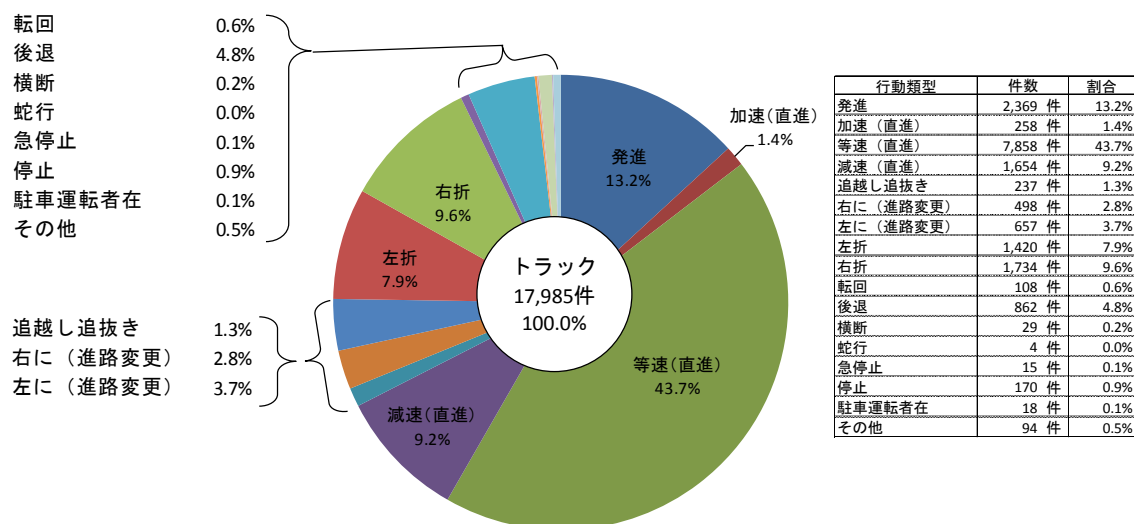
区分 年	死者数	重傷者数	軽傷者数	死傷者合計
H20	452	2,007	35,052	37,511
H21	414	1,791	30,227	32,432
H22	425	1,810	31,171	33,406
H23	387	1,817	30,436	32,640
H24	405	1,646	28,824	30,875
H25	376	1,586	27,636	29,598
H26	361	1,562	26,499	28,422
H27	337	1,406	24,253	25,996
H28	287	1,321	22,081	23,689
H29	298	1,391	21,528	23,217

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

### (3) トラックの行動類型別事故件数の割合

トラックの行動類型別事故件数は、等速（直進）7,858件（43.7%）が最も多く、次いで発進2,369件（13.2%）となっている。

〔図78〕 トラックの行動類型別事故件数の割合（平成29年）

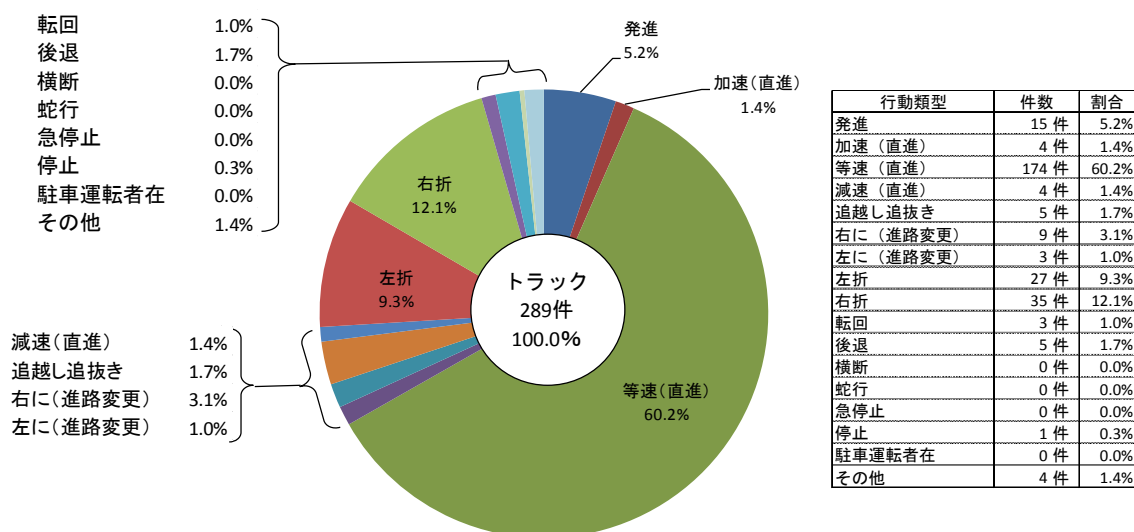


出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

### (4) トラックの行動類型別死亡事故件数の割合

トラックの行動類型別死亡事故件数は、事故全体と同じく等速（直進）174件（60.2%）が最も多く、次いで右折35件（12.1%）、左折27件（9.3%）となっている。

〔図79〕 トラックの行動類型別死亡事故件数の割合（平成29年）

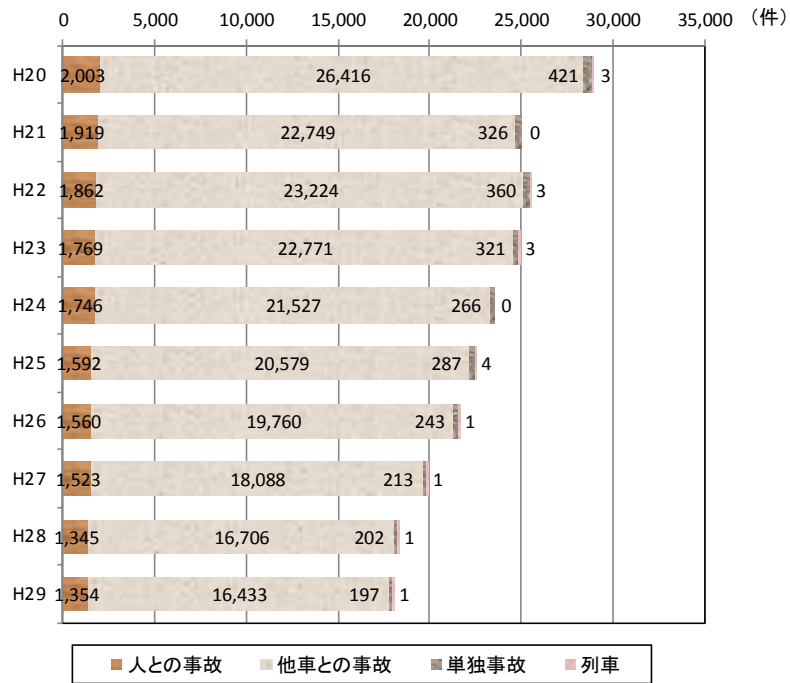


出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

## （５）トラックの事故類型別事故件数の割合

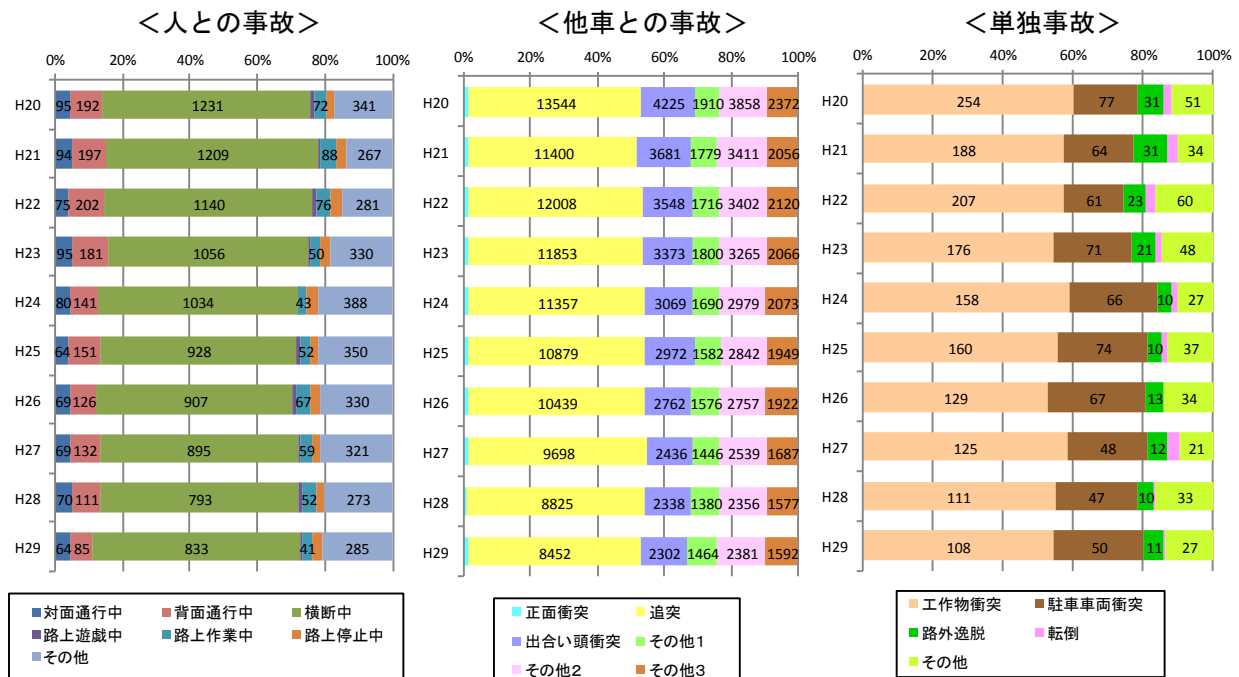
トラックの事故は、他車との事故が約 9 割を占めており、そのうち約 5 割は追突事故となっている。ただ追突事故件数は平成23年以降、減少傾向にある。

〔図 80〕 トラックの事故類型別事故件数の割合



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 81〕 トラックの事故類型別事故件数の内訳



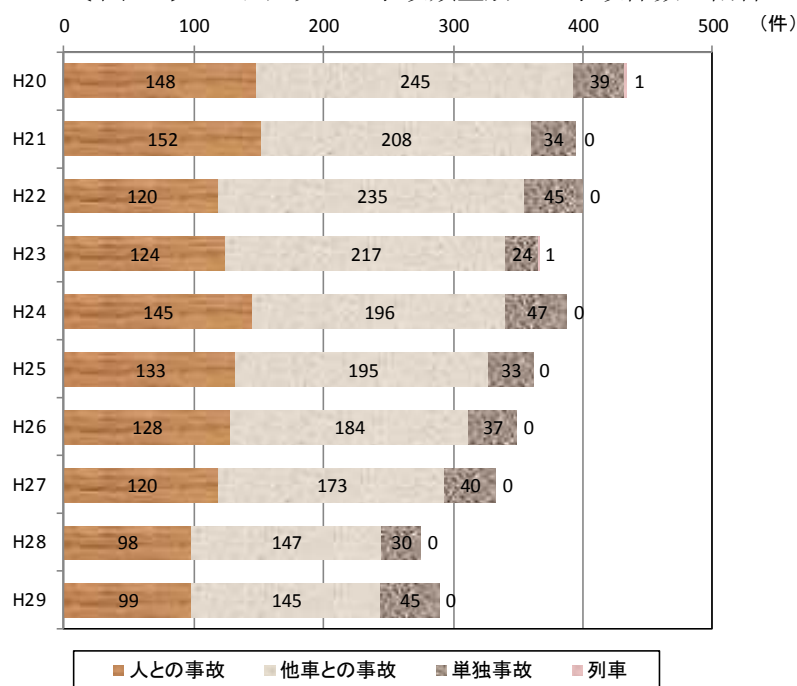
その他 1・・・追越・追抜時衝突、進路変更時衝突  
 その他 2・・・すれ違い時衝突、左折衝突、右折時衝突  
 その他 3・・・横断時衝突、転回時衝突、後退時衝突、その他

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

## (6) トラックの事故類型別死亡事故件数の割合の推移

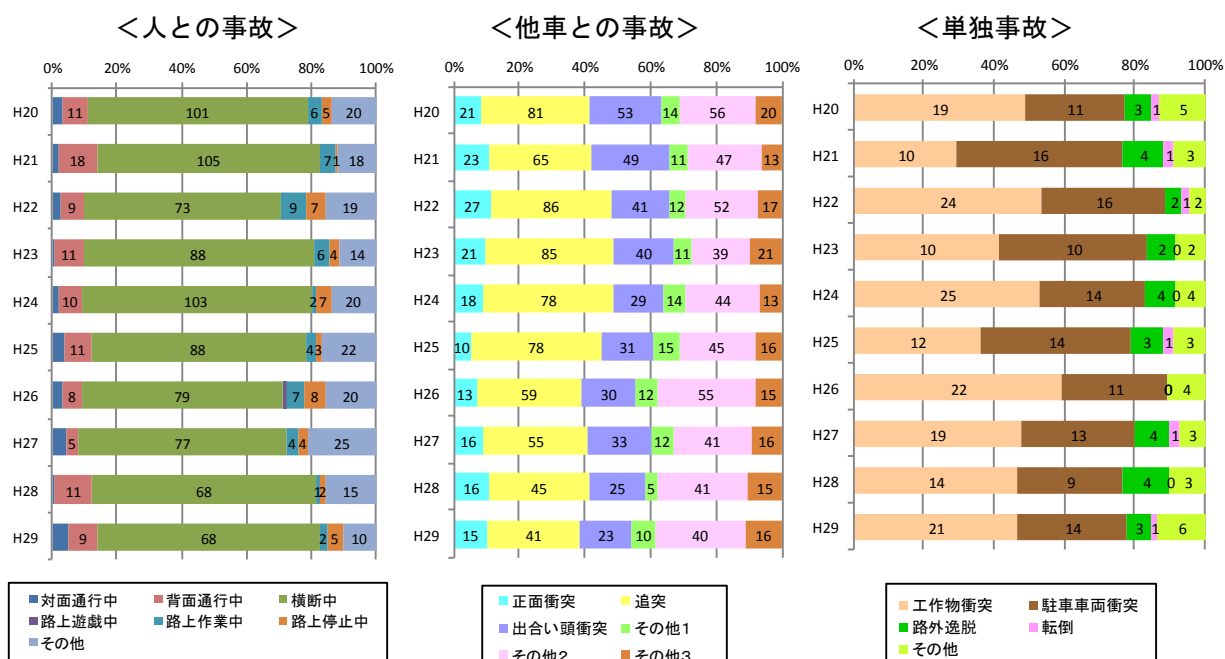
トラックの死亡事故は、他車との事故が半数以上を占めており、そのうち追突が最も多く約3割を占めている。死亡事故全体でみると人との事故の横断中が68件で最も多い。

〔図 82〕 トラックの事故類型別死亡事故件数の割合



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 83〕 トラックの事故類型別死亡事故件数の内訳の推移



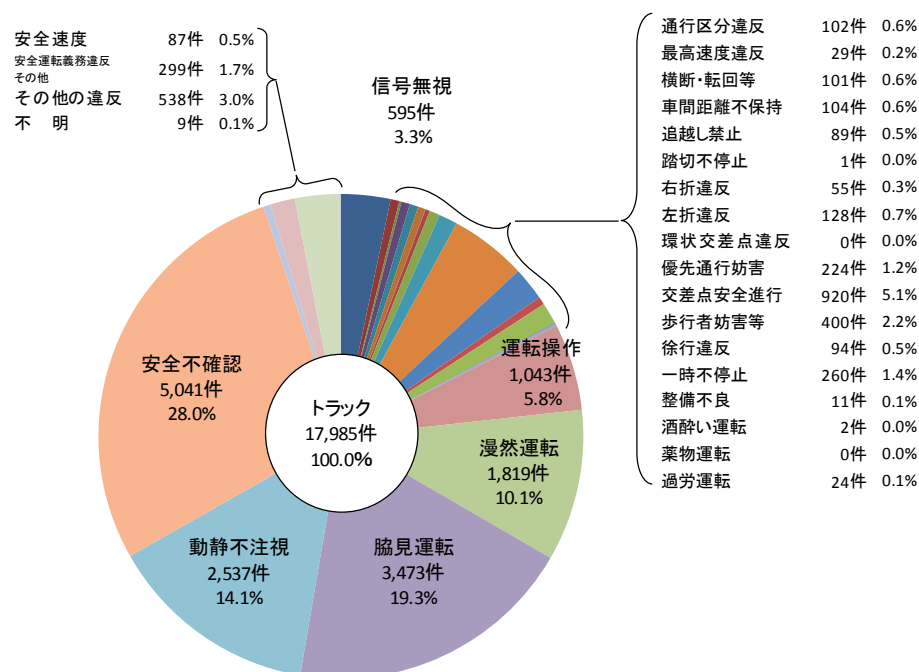
その他1・・・追越・追抜時衝突、進路変更時衝突  
 その他2・・・すれ違い時衝突、左折衝突、右折時衝突  
 その他3・・・横断時衝突、転回時衝突、後退時衝突、その他

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

## (7) トラックの法令違反別の事故件数の割合

トラックの法令違反別の事故件数では、「安全不確認」5,041件（28.0%）、「脇見運転」3,473件（19.3%）、「動静不注視」2,537件（14.1%）が多い。

〔図 84〕 トラックの法令違反別の事故件数の割合（平成29年）

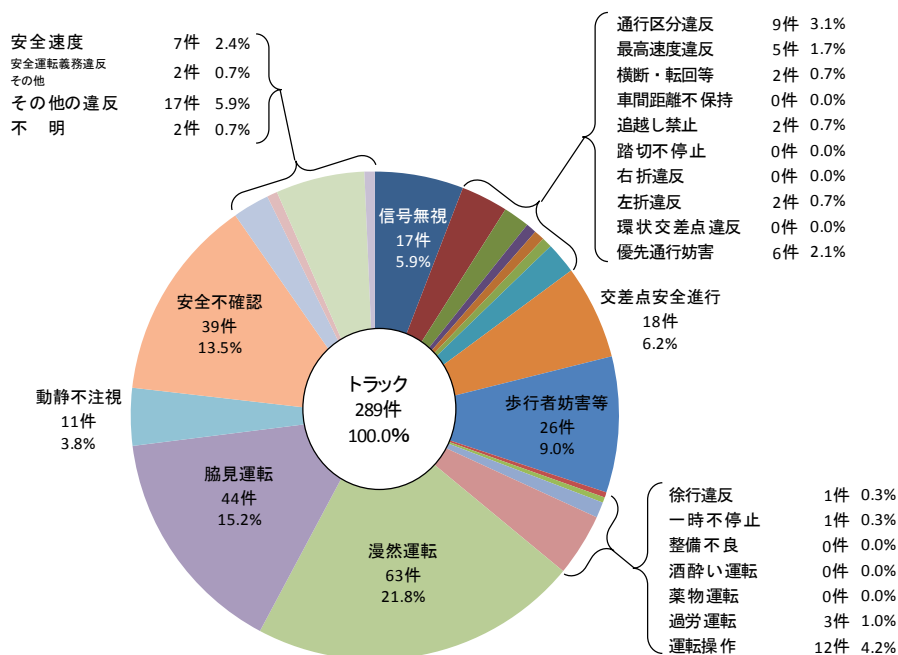


出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

## (8) トラックの法令違反別の死亡事故件数の割合

トラックの法令違反別の死亡事故件数では、「漫然運転」63件（21.8%）、「脇見運転」44件（15.2%）、「安全不確認」39件（13.5%）が多い。

〔図 85〕 トラックの法令違反別の死亡事故件数の割合（平成29年）



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

# (9) トラックの事故類型別、衝突地点別事故件数

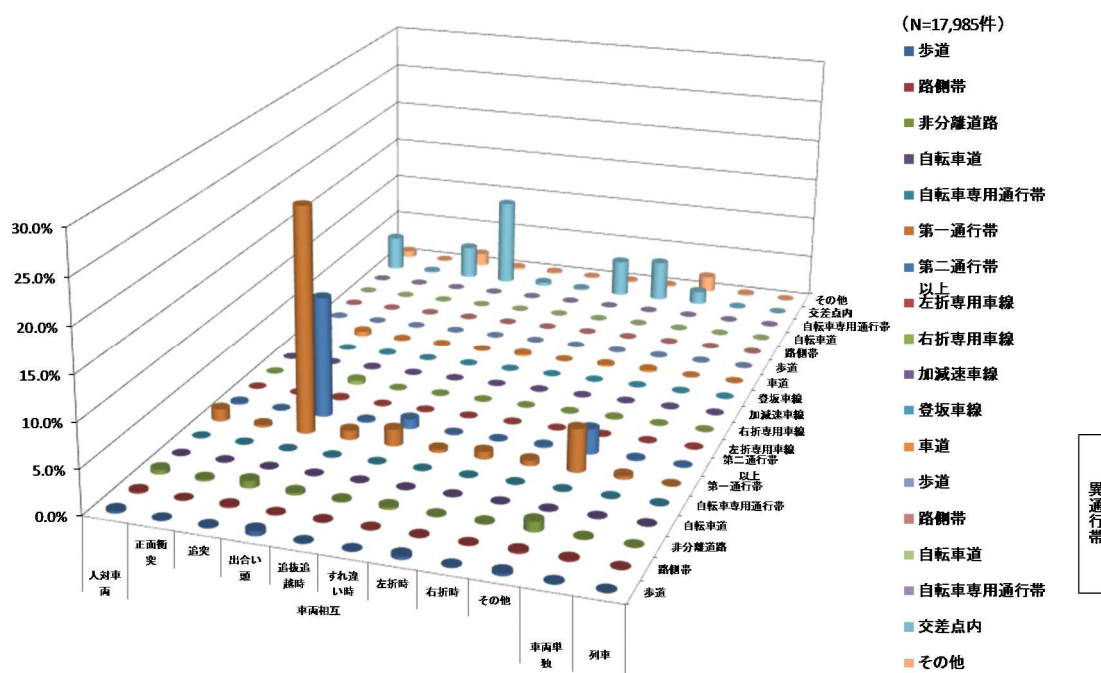
トラックの事故類型別、衝突地点別事故件数と構成比を表54と図86に、死亡事故件数と構成比を表55と図87に示す。事故件数については、第一通行帯での追突事故4,624件(25.7%)が最も多く、死亡事故件数については、交差点内での人対車両事故45件(15.6%)が多くなっている。

〔表 54〕 トラックの事故類型別、衝突地点別事故件数 (件) (平成29年)

		トラック										
		合計										
		人対車両	車両相互							車両単独	列車	合計
			正面衝突	追突	出会い頭	追抜追越時	すれ違い時	左折時	右折時	その他		
単路 (交差点付近を含む)	歩道	47	6	21	98	4	1	67	8	52	7	311
	路側帯	36	1	33	5	10	8	12	5	34	24	168
	非分離道路	96	38	146	51	26	53	14	20	205	14	663
	自転車道	0	0	2	1	0	0	1	0	1	0	5
	自転車専用通行帯	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	3
	第一通行帯	250	51	4,624	192	341	67	152	110	876	72	6,735
	第二通行帯以上	35	5	2,491	28	201	11	9	25	512	19	3,336
	左折専用車線	1	0	21	0	2	0	0	0	1	0	25
	右折専用車線	1	1	86	2	4	1	1	3	13	0	112
	加減速車線	0	0	14	0	2	1	0	0	3	2	22
	登坂車線	0	0	10	0	0	1	0	0	1	0	12
	車道	6	101	21	15	6	39	5	35	39	5	272
	歩道	2	0	1	3	0	0	5	2	7	5	25
	路側帯	4	0	0	3	0	0	0	1	0	5	13
異通行帯	自転車道	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	自転車専用通行帯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	交差点内	738	26	706	1,859	71	24	775	854	277	12	5,342
	その他	138	13	275	44	30	12	29	30	337	32	941
	合計	1,354	242	8,452	2,302	698	218	1,070	1,093	2,358	197	17,985

出典：(公財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 86〕 トラックの事故類型別、衝突地点別事故件数の構成比 (%) (平成 29 年)



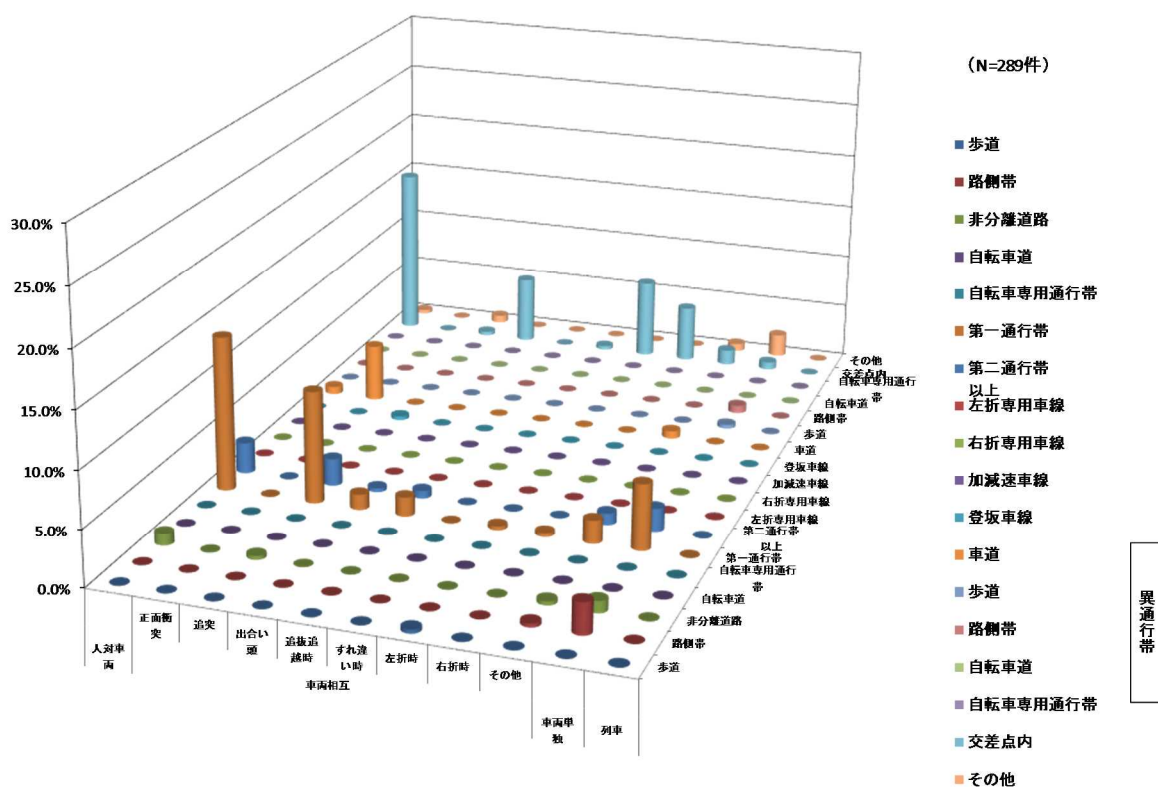
出典：(公財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 55〕 トラックの事故類型別、衝突地点別死亡事故件数（件）（平成29年）

		トラック											
		合計											
		車両相互									車両単独	列車	合計
		人対車両	正面衝突	追突	出会い頭	追抜追越時	すれ違い時	左折時	右折時	その他			
単路（交差点付近を含む）	歩道	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	路側帯	0	0	0	0	0	0	0	0	1	8	0	9
	非分離道路	3	0	1	0	0	0	0	0	1	3	0	8
	自転車道	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	自転車専用通行帯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	第一通行帯	40	0	29	4	5	0	1	1	6	17	0	103
	第二通行帯以上	8	0	7	1	2	0	0	0	3	6	0	27
	左折専用車線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	右折専用車線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	加減速車線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	登坂車線	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	車道	2	15	0	0	0	0	0	0	2	0	0	19
	歩道	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	路側帯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2
	自転車道	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	自転車専用通行帯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
交差点内		45	0	1	18	0	1	21	15	4	2	0	107
その他		1	0	2	0	0	0	0	0	2	6	0	11
合計		99	15	41	23	7	1	23	16	19	45	0	289

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 87〕 トラックの事故類型別、衝突地点別死亡事故件数の構成比（％）（平成29年）



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」



# (10) トラックの事故類型別、行動類型別事故件数

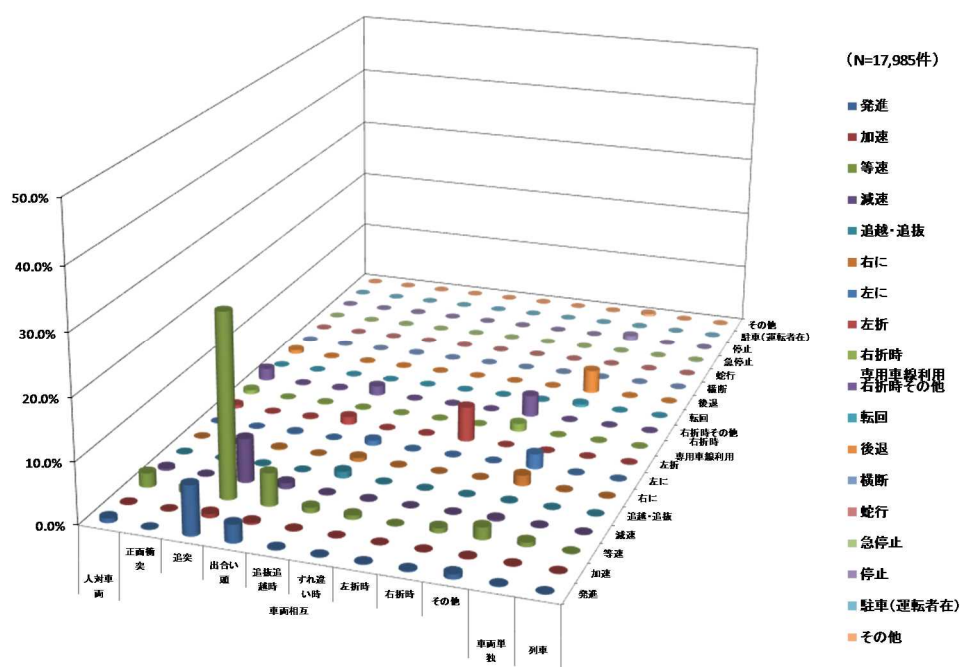
トラックの事故類型別、行動類型別事故件数と構成比を表56と図88に、死亡事故件数と構成比を表57と図89に示す。事故件数は、等速直進時の追突事故5,394件（30.0%）が最も多く、死亡事故件数は、等速直進時の人対車両事故63件（21.8%）が多くなっている。

〔表 56〕    ト ラ ッ ク の 事 故 類 型 別、行 動 類 型 別 事 故 件 数（件）   （平成29年）

		トラック										
		合計										
		人対車両	車両相互							車両単独	列車	合計
			正面衝突	追突	出会い頭	追抜追越時	すれ違い時	左折時	右折時	その他		
発進		134	2	1,450	536	29	11	19	30	143	14	2,369
直進	加速	14	4	121	61	17	3	0	5	23	10	258
	等速	416	165	5,394	967	157	123	7	142	358	129	7,858
	減速	67	13	1,294	175	16	22	1	7	47	12	1,654
追越・追抜		4	2	9	0	195	6	1	4	16	0	237
進路変更	右に	2	15	32	0	114	12	0	8	306	9	498
	左に	4	0	33	2	153	9	6	2	443	5	657
左折		101	6	23	235	5	13	1,036	0	0	1	1,420
右折時	専用車線利用	123	3	16	12	2	2	0	238	0	2	398
	その他	361	11	28	285	4	11	0	634	0	2	1,336
	転回	3	0	2	0	1	0	0	13	89	0	108
後退		118	14	13	9	0	0	0	4	695	9	862
横断		2	0	2	17	1	0	0	5	2	0	29
蛇行		0	1	1	0	0	1	0	0	1	0	4
急停止		0	0	13	1	0	0	0	0	1	0	15
停止		1	0	16	2	3	3	0	1	144	0	170
駐車（運転者在）		1	0	0	0	0	0	0	0	17	0	18
その他		3	6	5	0	1	2	0	0	73	4	94
合計		1,354	242	8,452	2,302	698	218	1,070	1,093	2,358	197	17,985

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 88〕    ト ラ ッ ク の 事 故 類 型 別、行 動 類 型 別 事 故 件 数 の 構 成 比（％）   （平成 29 年）



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

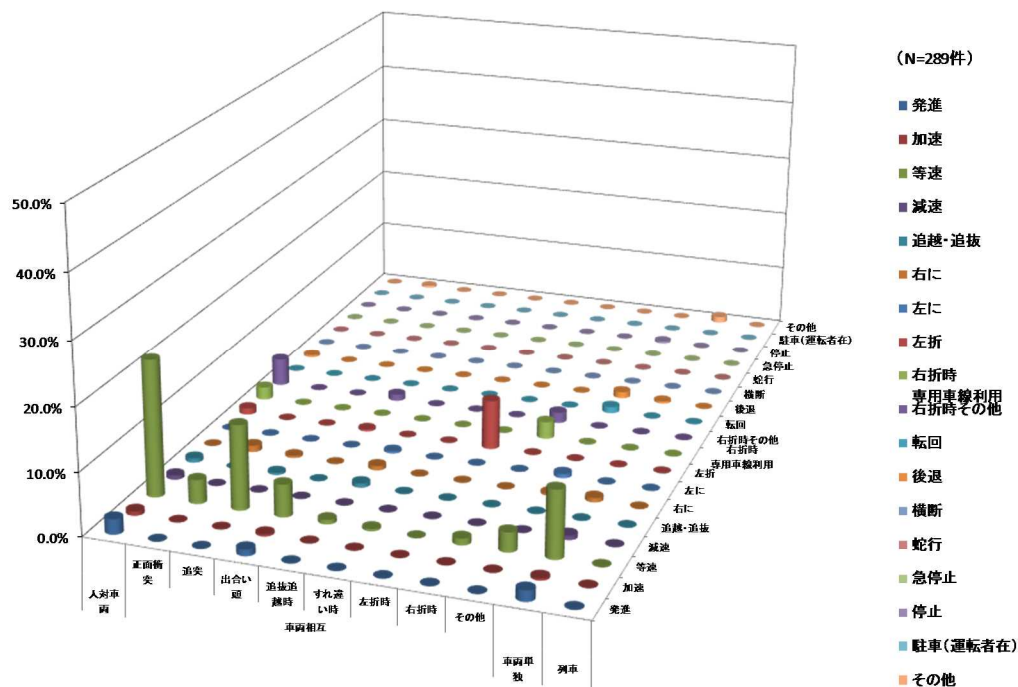


〔表 57〕 トラックの事故類型別、行動類型別死亡事故件数（件）（平成29年）

		トラック											
		合計											
		人対車両	車両相互							車両単独	列車	合計	
正面衝突	追突		出会い頭	追抜追越時	すれ違い時	左折時	右折時	その他					
発進		7	0	0	3	0	0	0	0	0	5	0	15
直進	加速	2	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	4
	等速	63	11	39	15	2	1	0	3	9	31	0	174
	減速	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	4
追越・追抜		2	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	5
進路変更	右に	0	3	1	0	2	0	0	0	1	2	0	9
	左に	0	0	0	0	1	0	0	0	2	0	0	3
左折		3	0	0	1	0	0	23	0	0	0	0	27
右折時	専用車線利用	6	0	0	0	0	0	0	8	0	0	0	14
	その他	13	0	0	3	0	0	0	5	0	0	0	21
転回		0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	3
後退		1	0	0	0	0	0	0	0	3	1	0	5
横断		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
蛇行		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
急停止		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
停止		0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
駐車（運転者在）		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他		0	1	0	0	0	0	0	0	0	3	0	4
合計		99	15	41	23	7	1	23	16	19	45	0	289

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 89〕 トラックの事故類型別、行動類型別死亡事故件数の構成比（％）（平成29年）

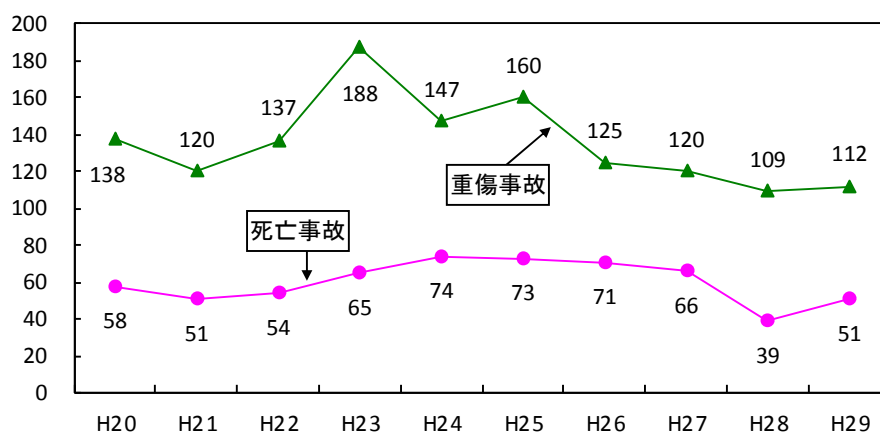


出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

# (11) トラックの高速道路における死亡・重傷事故件数の推移

トラックの高速道路における平成29年の死亡事故は51件で前年より12件、重傷事故は112件で前年より3件増加した。

〔図 90〕 トラックの高速道路における死亡・重傷事故件数の推移  
(件)



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

# (12) トラックの追突事故件数、死亡事故件数の危険認知速度別発生時間帯分布

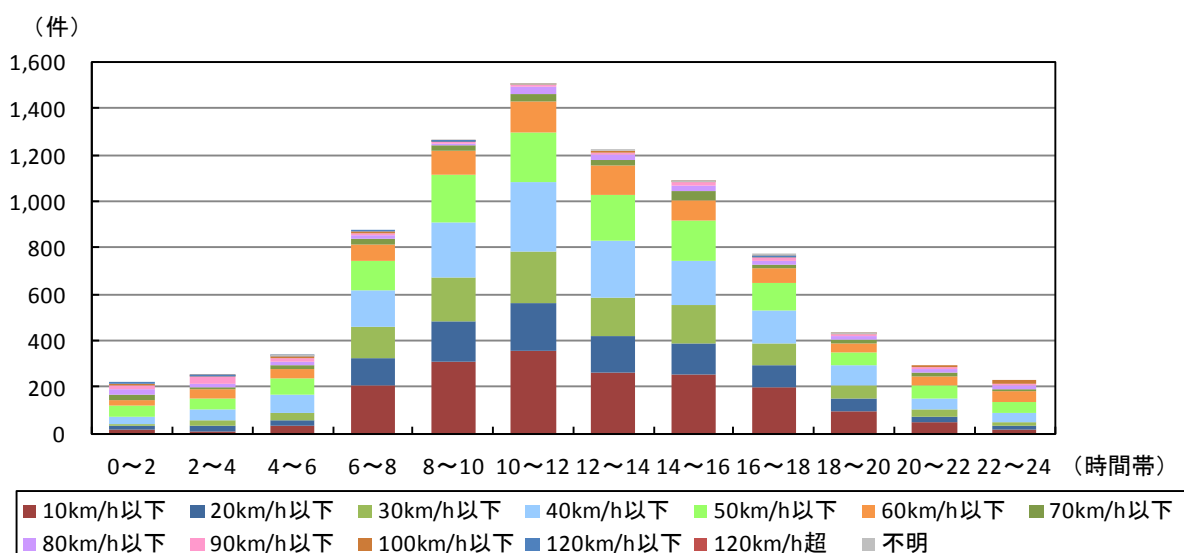
時間帯別危険認知速度別追突事故件数をみると、時間帯は10～12時が最も多く1,508件（17.8%）、速度は10km/h以下が最も多く1,816件（21.5%）、次いで40km/h以下1,594件（18.9%）、50km/h以下1,347件（15.9%）となっている。死亡事故件数の時間帯では、2～4時が最も多く6件（14.6%）、速度では80km/h以下が最も多く14件（34.1%）となっており、危険認知速度が高めとなっている。

〔表 58〕 トラックの追突事故件数の危険認知速度別発生時間帯分布（件）（平成29年）

危険認知速度	時 間 帯												合計
	0～2	2～4	4～6	6～8	8～10	10～12	12～14	14～16	16～18	18～20	20～22	22～24	
10km/h以下	20	14	32	205	311	356	263	251	200	96	51	17	1,816
20km/h以下	10	19	22	118	176	206	158	138	93	59	22	20	1,041
30km/h以下	13	28	39	136	185	221	167	167	95	55	32	10	1,148
40km/h以下	31	45	77	157	235	302	242	188	144	81	46	46	1,594
50km/h以下	43	46	67	126	206	212	201	171	116	60	54	45	1,347
60km/h以下	31	36	40	74	102	135	122	89	64	41	43	42	819
70km/h以下	17	14	16	22	25	34	24	40	19	16	12	15	254
80km/h以下	23	14	21	20	12	25	25	21	16	10	17	16	220
90km/h以下	23	28	13	5	2	8	8	15	11	7	6	8	134
100km/h以下	6	4	7	6	2	6	6	4	5	2	4	9	61
120km/h以下	1	1	2	1	1	0	0	0	1	0	0	0	7
120km/h超	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不明	0	0	1	0	0	3	1	1	3	2	0	0	11
合計	218	249	337	870	1,257	1,508	1,217	1,085	767	429	287	228	8,452

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 91〕 トラックの追突事故件数の危険認知速度別発生時間帯分布（平成29年）



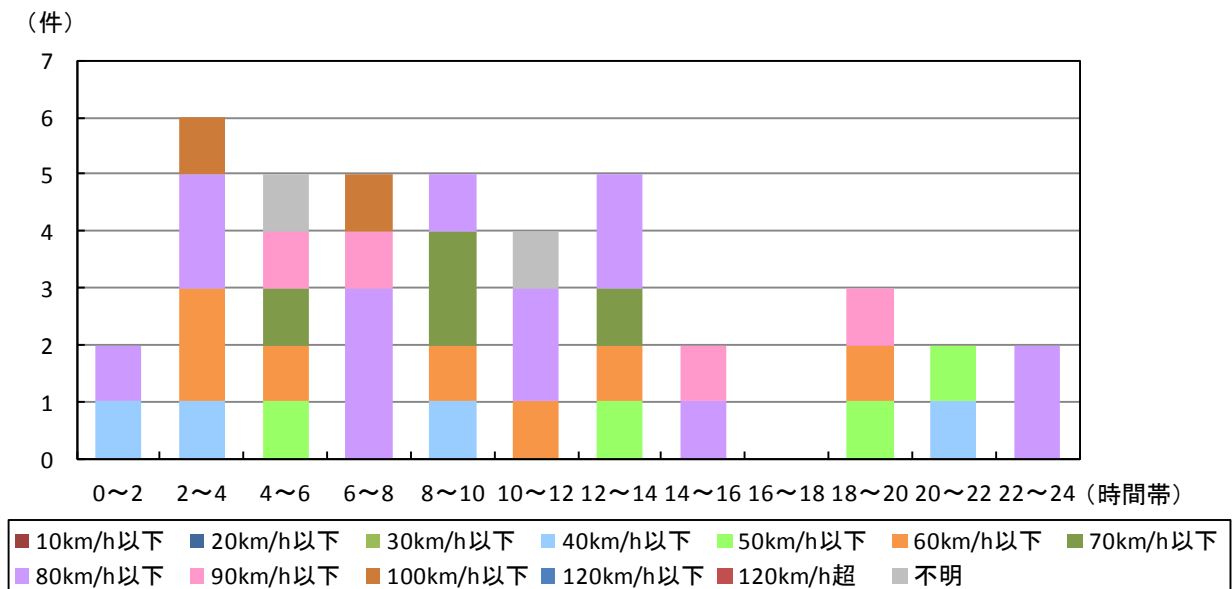
出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 59〕 トラックの追突死亡事故件数の危険認知速度別発生時間帯分布（件）（平成29年）

危険認知速度	時 間 帯												
	0～2	2～4	4～6	6～8	8～10	10～12	12～14	14～16	16～18	18～20	20～22	22～24	合計
10km/h以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
20km/h以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
30km/h以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
40km/h以下	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	4
50km/h以下	0	0	1	0	0	0	1	0	0	1	1	0	4
60km/h以下	0	2	1	0	1	1	1	0	0	1	0	0	7
70km/h以下	0	0	1	0	2	0	1	0	0	0	0	0	4
80km/h以下	1	2	0	3	1	2	2	1	0	0	0	2	14
90km/h以下	0	0	1	1	0	0	0	1	0	1	0	0	4
100km/h以下	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2
120km/h以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
120km/h超	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不明	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2
合計	2	6	5	5	5	4	5	2	0	3	2	2	41

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

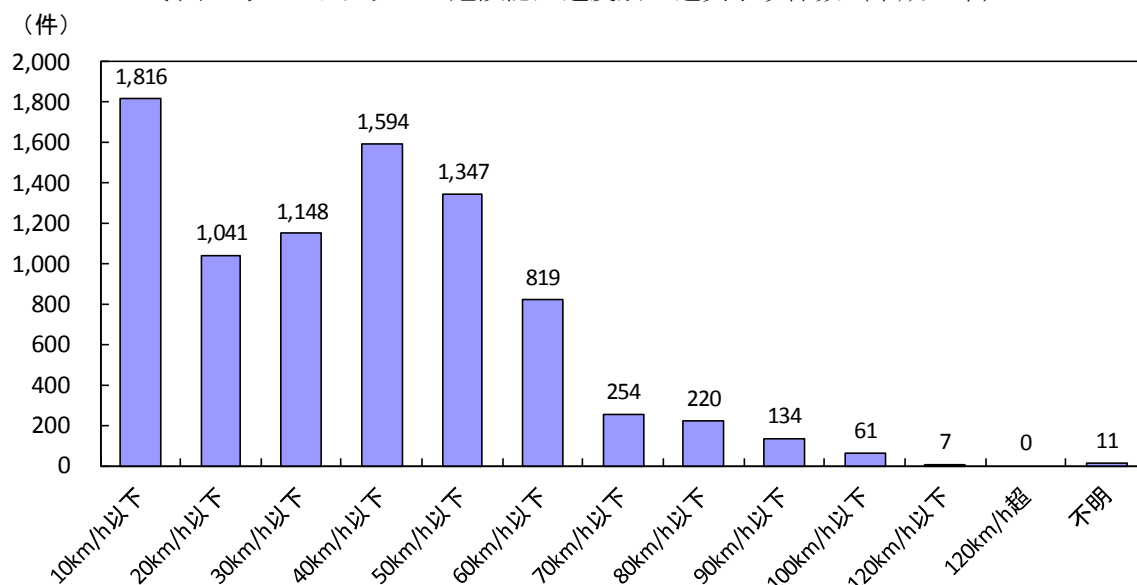
〔図 92〕 トラックの追突死亡事故件数の危険認知速度別発生時間帯分布（平成29年）



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

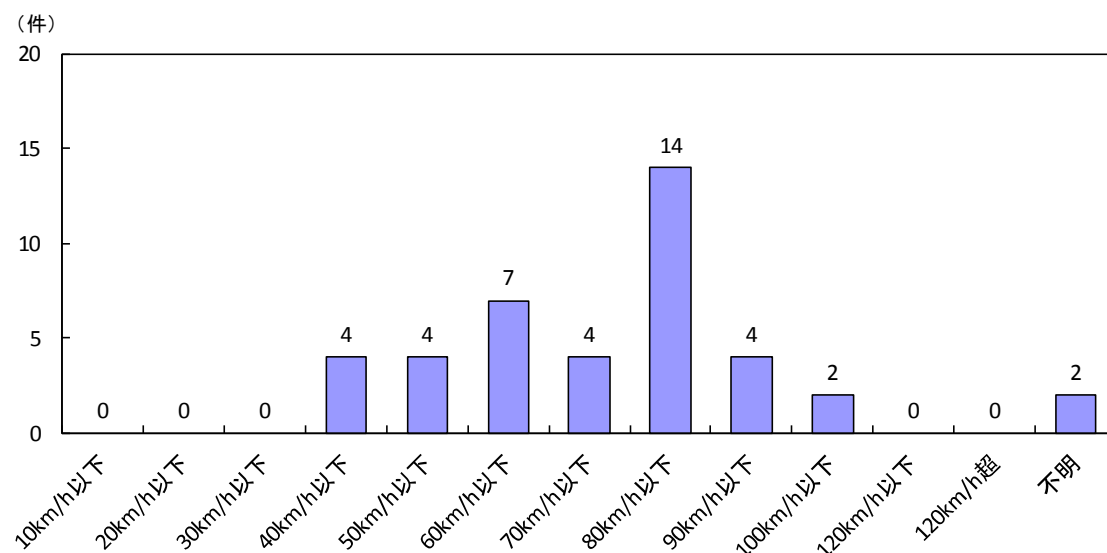
トラックの追突事故における危険認知速度をみると、追突死亡事故は事故全体に比べて危険認知速度が高くなっている。

〔図 93〕      トラックの危険認知速度別の追突事故件数（平成29年）



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 94〕      トラックの危険認知速度別の追突死亡事故件数（平成29年）



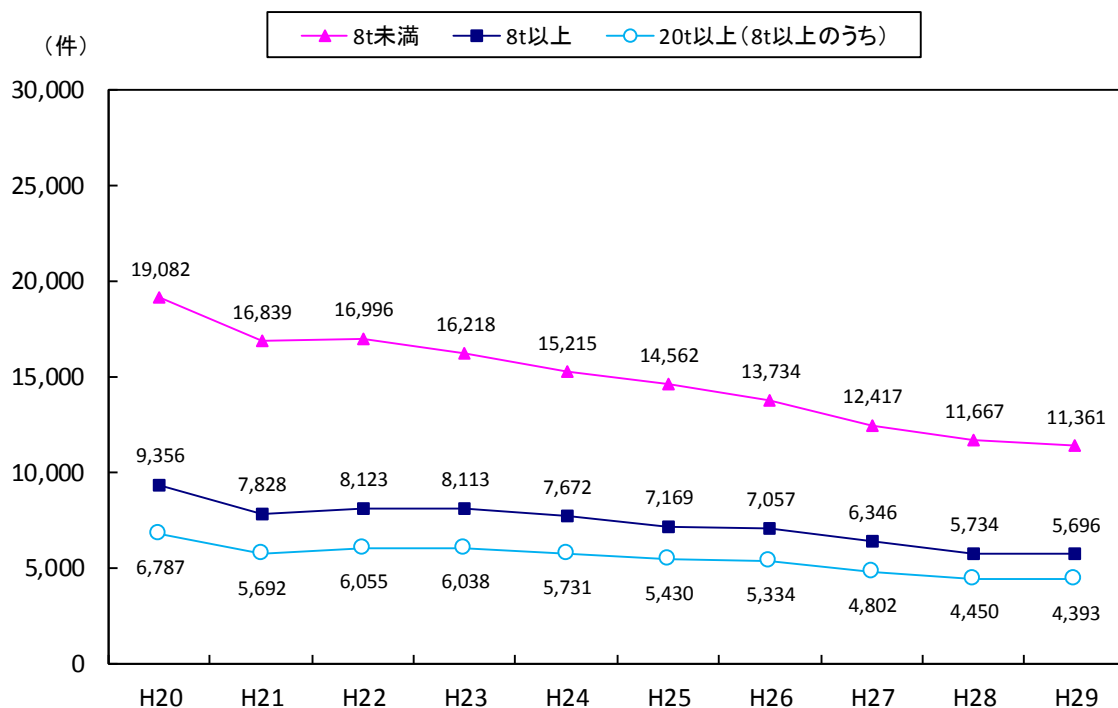
出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

### (13) トラックの車両総重量別の交通事故件数の推移

#### ① 交通事故件数

トラックの事故における交通事故件数の推移を車両総重量別にみると、8トン未満、8トン以上ともに、平成23年以降は減少傾向にある。

〔図 95〕 トラックの車両総重量別交通事故件数の推移



〔表 60〕 車両総重量別交通事故件数の推移（件）

区分 年	交通事故件数			合計
	8t未満	8t以上	うち20t以上	
H20	19,082	9,356	6,787	28,438
H21	16,839	7,828	5,692	24,667
H22	16,996	8,123	6,055	25,119
H23	16,218	8,113	6,038	24,331
H24	15,215	7,672	5,731	22,887
H25	14,562	7,169	5,430	21,731
H26	13,734	7,057	5,334	20,791
H27	12,417	6,346	4,802	18,763
H28	11,667	5,734	4,450	17,401
H29	11,361	5,696	4,393	17,057

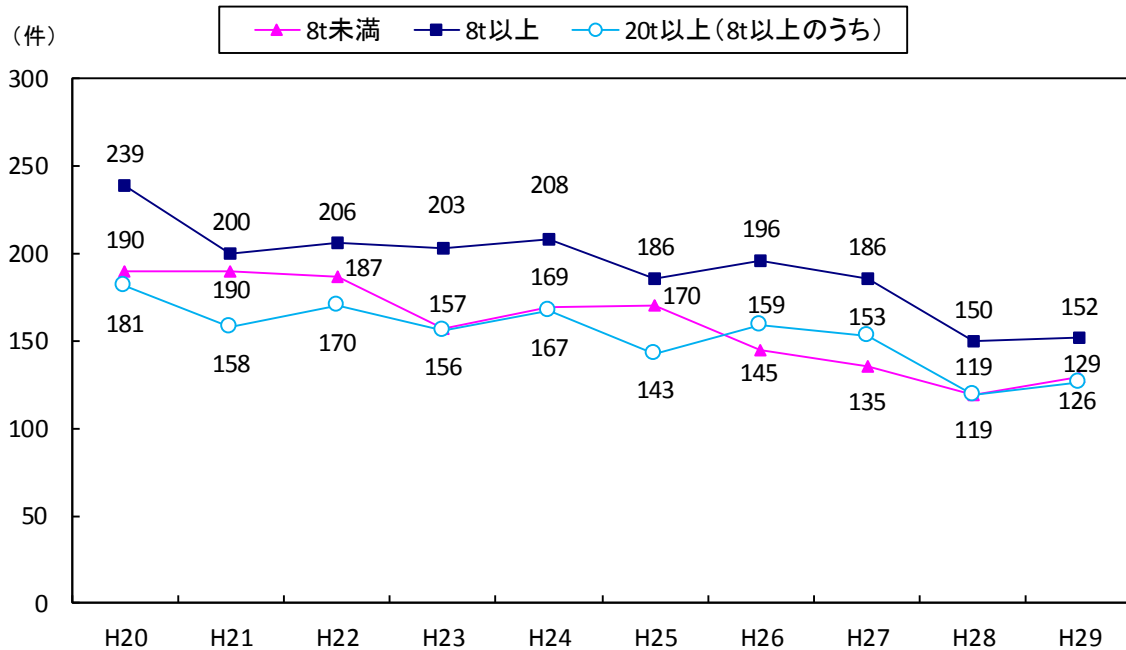
注：合計は車両総重量不明を除く

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

## ② 死亡事故件数

トラックの事故における死亡事故件数の推移を車両総重量別にみると、いずれも近年は減少傾向であったが、平成29年は前年に比べて増加した。

〔図 96〕 トラックの車両総重量別死亡事故件数の推移



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 61〕 車両総重量別死亡事故件数の推移（件）

区分 年	死亡事故件数			合計
	8t未満	8t以上	うち20t以上	
H20	190	239	181	429
H21	190	200	158	390
H22	187	206	170	393
H23	157	203	156	360
H24	169	208	167	377
H25	170	186	143	356
H26	145	196	159	341
H27	135	186	153	321
H28	119	150	119	269
H29	129	152	126	281

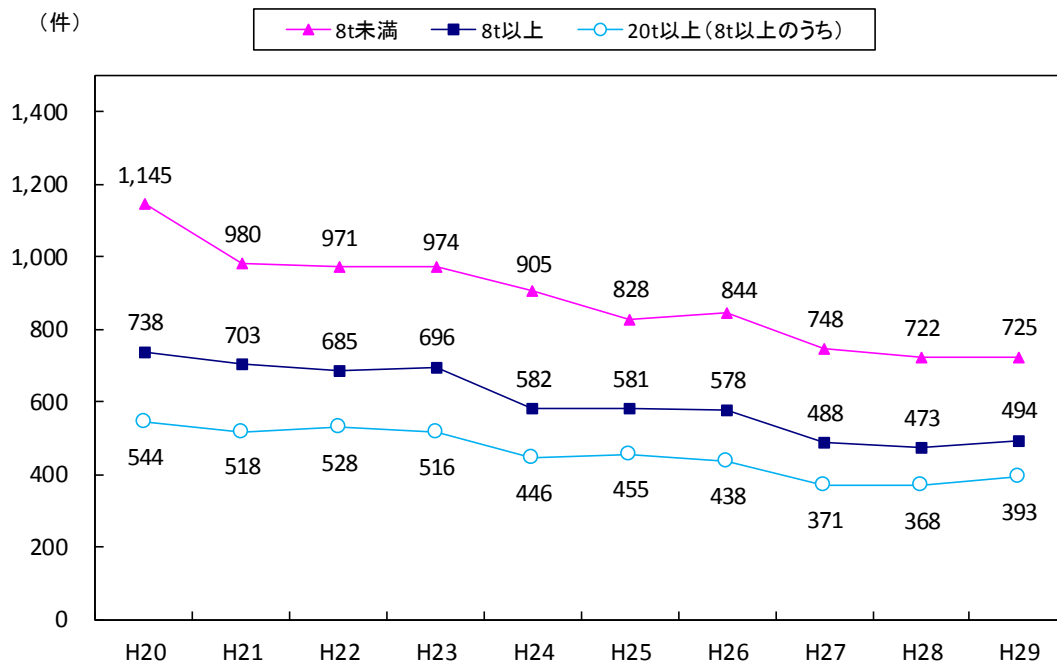
注：合計は車両総重量不明を除く

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

### ③ 重傷事故件数

トラックの事故における重傷事故件数の推移を車両総重量別にみると、8トン未満の車両が多くなっている。前年に比べ8トン未満、8トン以上、20トン以上のいずれも増加している。

〔図 97〕 トラックの車両総重量別重傷事故件数の推移



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 62〕 車両総重量別重傷事故件数の推移（件）

区分 年	重傷事故件数			合計
	8t未満	8t以上	うち20t以上	
H20	1,145	738	544	1,883
H21	980	703	518	1,683
H22	971	685	528	1,656
H23	974	696	516	1,670
H24	905	582	446	1,487
H25	828	581	455	1,409
H26	844	578	438	1,422
H27	748	488	371	1,236
H28	722	473	368	1,195
H29	725	494	393	1,219

注：合計は車両総重量不明を除く

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

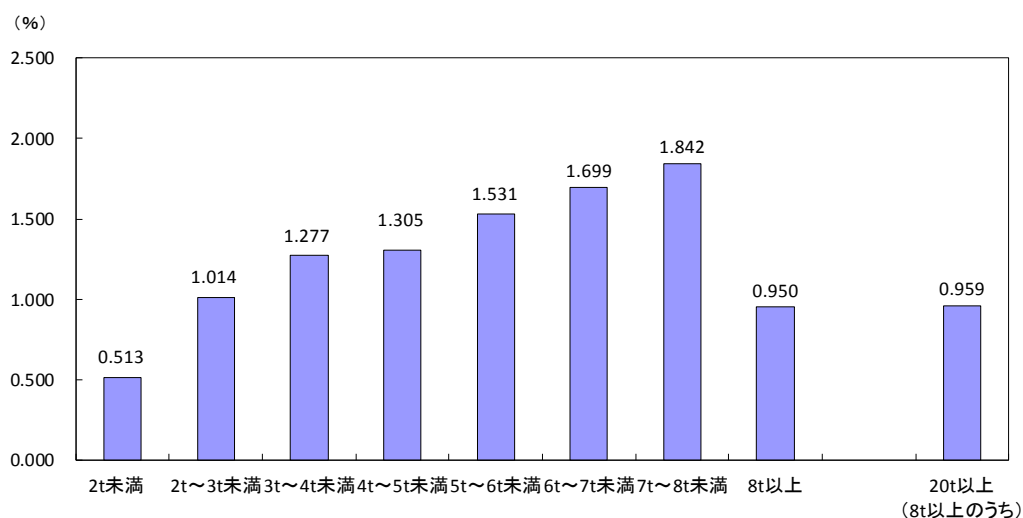


# (14) トラックの車両総重量別車両数あたりの交通事故発生率

## ① 交通事故発生率

トラックの車両総重量別車両数あたりの交通事故発生率は、前年同様7トン～8トン未満が最も高い。

〔図 98〕 トラックの車両総重量別車両数あたり交通事故発生率（平成29年）



注：軽トラックを除く

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」  
（一財）自動車検査登録情報協会「自動車保有車両数統計書」

〔表 63〕 トラックの車両総重量別車両数あたり交通事故件数、車両数、発生率（平成29年）

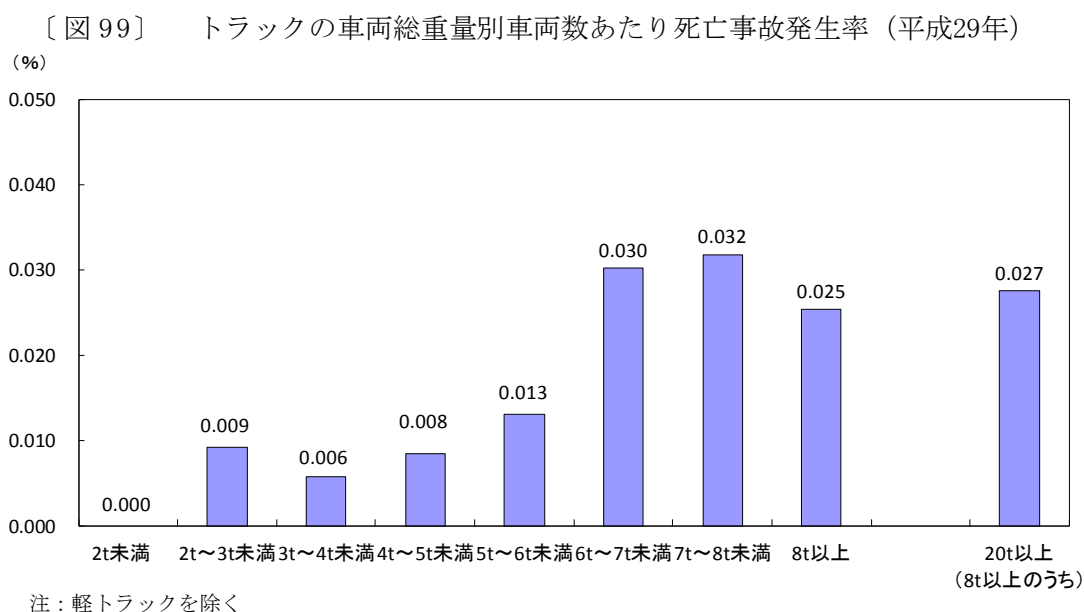
	事故件数(件)	車両数(事業用)(両)	発生率
2t未満	44	8,581	0.513%
2t～3t未満	110	10,851	1.014%
3t～4t未満	445	34,857	1.277%
4t～5t未満	1,239	94,956	1.305%
5t～6t未満	1,168	76,294	1.531%
6t～7t未満	788	46,386	1.699%
7t～8t未満	4,461	242,118	1.842%
8t以上	5,696	599,316	0.950%
うち20t以上	4,393	458,210	0.959%

注：軽トラックを除く

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」  
（一財）自動車検査登録情報協会「自動車保有車両数統計書」

## ② 死亡事故発生率

トラックの車両総重量別車両数あたりの死亡事故発生率は、7トン～8トン未満が最も高い。6トン～7トン未満の件数が前年の6件から14件へ増加し、発生率も0.013%から0.030%に上がっている。



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」  
（一財）自動車検査登録情報協会「自動車保有車両数統計書」

表 64    トラックの車両総重量別車両数あたり死亡事故件数、車両数、発生率（平成29年）

	死亡事故件数	車両数(事業用)(両)	発生率
2t未満	0	8,581	0.000%
2t～3t未満	1	10,851	0.009%
3t～4t未満	2	34,857	0.006%
4t～5t未満	8	94,956	0.008%
5t～6t未満	10	76,294	0.013%
6t～7t未満	14	46,386	0.030%
7t～8t未満	77	242,118	0.032%
8t以上	152	599,316	0.025%
うち20t以上	126	458,210	0.027%

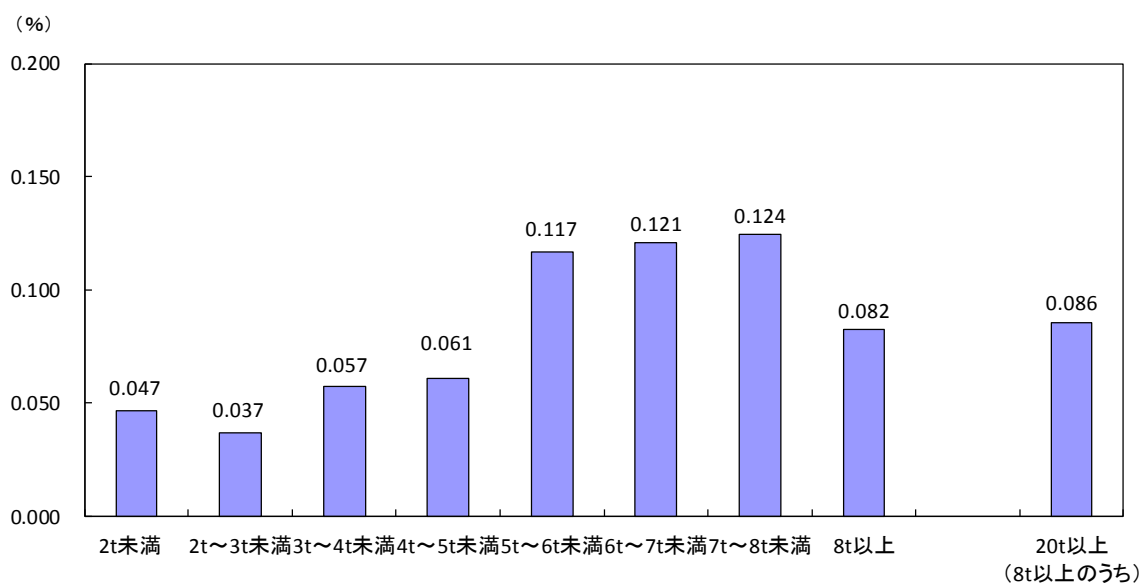
注：軽トラックを除く

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」  
（一財）自動車検査登録情報協会「自動車保有車両数統計書」

### ③ 重傷事故発生率

トラックの車両総重量別車両数あたりの重傷事故発生率は、前年同様、7トン～8ト未満が最も高い。

〔図100〕     トラックの車両総重量別車両数あたり重傷事故発生率（平成29年）



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」  
（一財）自動車検査登録情報協会「自動車保有車両数統計書」

表 65     トラックの車両総重量別車両数あたり重傷事故件数、車両数、発生率（平成29年）

	重傷事故件数	車両数(事業用)(両)	発生率
2t未満	4	8,581	0.047%
2t～3t未満	4	10,851	0.037%
3t～4t未満	20	34,857	0.057%
4t～5t未満	58	94,956	0.061%
5t～6t未満	89	76,294	0.117%
6t～7t未満	56	46,386	0.121%
7t～8t未満	301	242,118	0.124%
8t以上	494	599,316	0.082%
うち20t以上	393	458,210	0.086%

注：軽トラックを除く

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」  
（一財）自動車検査登録情報協会「自動車保有車両数統計書」

## 5. まとめ

平成 29 年中に全国で発生した事業用自動車の交通事故件数は 32,654 件で、事業用自動車での交通事故死者数は 352 人であった。

また、平成 29 年中の各業態における交通事故の特徴は以下のとおりであった。

### ○乗合バス

平成 29 年中に発生した乗合バスによる人身事故 1,217 件のうち、

- ・車内事故が最も多く全体の 33.9% (412 件)。このうち、39.3% (162 件) が発進時の事故となる。また、車内事故の負傷者 450 人のうち、半数以上 (243 人) が高齢者 (65 歳以上) であり、全体では女性が男性の 3 倍強となっている (男性 103 人、女性 347 人)。

また、平成 29 年中に発生した乗合バスによる死亡事故 11 件のうち、

- ・人対車両が最も多く全体の 72.7% (8 件) であった。

### ○貸切バス

平成 29 年中に発生した貸切バスによる人身事故 276 件のうち、

- ・追突事故が最も多く全体の 30.1% (83 件)。このうち、発生地点としては、第二通行帯以上が最も多く追突事故の 44.6% (37 件) となり、次に第一通行帯が 33.7% (28 件) となっている。

また、平成 29 年中に発生した貸切バスによる死亡事故は 3 件であり、

- ・人対車両 3 件となっている。

### ○タクシー

平成 29 年中に発生したタクシーによる人身事故 13,171 件のうち、

- ・追突事故が最も多く全体の 21.7% (2,856 件)。このうち、第一通行帯での事故が多く、追突事故の 46.3% (1,321 件) を占める。
- ・次いで、出会い頭の事故が多く全体の 20.8% (2,734 件)。このうち、交差点内の事故が多く、出会い頭の事故の 85.8% (2,345 件) を占める。
- ・空車時における事故が、75.6% (9,958 件) を占める。

また、平成 29 年中に発生したタクシーによる死亡事故 39 件のうち、

- ・人対車両が最も多く全体の 77.0% (30 件)。このうち、直進等速の人対車両が多く 90.0% (27 件) となっている。また、発生地点では、第一通行帯 40.0% (12 件)、交差点内 33.3% (10 件) での事故が多い。

## ○トラック

平成 29 年中に発生したトラックによる人身事故 17,985 件のうち、

- ・追突事故が最も多く全体の 47.0% (8,452 件)。このうち、6 時～18 時の昼間の時間での追突事故が多く、全体の約 8 割 (6,704 件) を占め、ピークは 10 時～12 時で全体の 17.8% (1,508 件)。また、10km/h 以下の低速での追突事故が最も多く追突事故全体の 21.5% (1,816 件)、次いで 30km/h～40km/h の中速での事故が 18.9% (1,594 件)。発生地点では、第一通行帯での追突事故が多く、追突事故全体の 54.7% (4,624 件)。
- ・出会い頭の事故も多く発生しており、人身事故全体の 12.8% (2,302 件)。このうち、交差点内での事故が多く、出会い頭の事故の 80.8% (1,859 件) を占める。

また、平成 29 年中に発生したトラックによる死亡事故 289 件のうち、

- ・車両相互が最も多く全体の 50.2% (145 件)。このうち、追突事故が 28.3% (41 件)、次に出会い頭が 15.9% (23 件)、左折時が 15.9% (23 件) となっている。
- ・人対車両は全体の 34.3% (99 件)。このうち、発生地点としては、交差点内が最も多く人対車両事故の 45.5% (45 件) となり、次に第一通行帯が 40.4% (40 件) となっている。

